NEWS & STYLES for NEW ROCK GENERATION 新しいロック世代のための、アーチスト・ニューズマガジン

ROCK 'N' ROLL NEWSMAKER

ロックンロール・ニューズメーカー

創刊号



SPECIAL EDITION:

RED WARRIORS IN N.Y.C.

R.R.N.

FEATURING:

大友康平 BUCK-TICK
エレファントカシマシ スティング
サザンオールスターズ 三上博史
矢沢永吉＋村上龍 銀色夏生
SION 尾崎豊 岡村靖幸

REVOLUTION Nº9:
SUPER FASHION from N.Y.C.

JULY
N.1 ¥500

PLUS: THE HEART/JUN SKY WALKER(S)/LAUGHIN' NOSE/THE STREET SLIDERS/PERSONZ/PRINCESS PRINCESS/KENZI

Victor

JVC

※JVCは、日本ビクターの世界ブランドです。



このクラス初、光/同軸2系統デジタル出力搭載。

音質を取るか、機能を取るか。このクラスの、この二者択一を、ビクターは拒否しました。高いクオリティがあって、初めて多彩な機能も映える。そう確信するから、どちらも損なうことのない新しいCDプレーヤーを実現したのです。XL-Z311。中でも特筆したいのが、光デジタルアウトの装備。ピュアなデジタル信号を光に変換して、ピュアなままダイレクトにデジタルアンプと接続可能。しかも6枚ものディスクからプログラムできるマルチディスクエディティング機能や、各曲ごとにメッセージをインプット、ディスプレイできるCDディスクメモリーなどがモリモリ楽しめる。XL-Z311をシステムに組み入れたとき、デジタルサウンドの凄いクオリティ、そして使い易さが、ついにこのクラスでも体験できるようになるのです。



●L・R独立2D/Aコンバーター●4倍オーバーサンプリングデジタルフィルター●オプティカリンクD/A分離設計●高剛性Wディンプルシャーシー●指定時間内にピッタリ収まる曲を6枚ものディスクから選んでプログラムできる、マルチディスクエディティング●ディスクタイトルはもちろん、各曲ごとに曲名などのメッセージを入力し、文字表示できるCDディスクメモリー◎主な仕様●周波数特性：2～20,000Hz●全高調波歪率：0.004％（1kHz, EIAJ）●ダイナミックレンジ：97dB（1kHz, EIAJ）●SN比：106dB（デジタルゼロ時・EIAJ）●寸法/重量：(W)435×(H)115×(D)297㎜/4.7kg



世界初のK2インターフェイス回路が、原音のクオリティを鮮やかに甦らせる。
新発売
オプトデジタルCDプレーヤー
XL-Z711
¥99,800（リモコン付属）



オプティカリンクとオプトデジタリンク。2つの光テクノロジーで音を磨いた。
オプトデジタルCDプレーヤー
XL-Z511
¥59,800（リモコン付属）



デジタルアウト搭載。エディティングも駆使できるハイコストパフォーマンス機。
新発売
デジタルダイレクトアウトCDプレーヤー
XL-Z211 ¥39,800（リモコン付属）

ビクターへのお問合わせ、またはカタログ請求は、型名をご記入のうえ〒100 東京都千代田区霞が関3-2-4 霞山ビル 日本ビクター㈱ インフォメーション（TEL 東京03-580-2861）C係へ。

オプトデジタルCDプレーヤー XL-Z311 ¥49,800（リモコン付属）

新登場



VICTOR SUPER TECHNOLOGY
DIGIFINE


光伝送に、デジタル歪なき信号を託す。
これ、音の輝きなり。
Victor
XL-Z311 COMPACT DISC PLAYER
OPTICAL DIGITAL OUTPUT
聴人類へ。DIGIFINE
新次元の音に目覚めた全ての人類に捧ぐ。デジタルのクオリティを解き放つビクターのコンポーネント。
COMPACT disc DIGITAL AUDIO

R.R.N.

ROCK'N'ROLL NEWSMAKER

NEWS & STYLES for NEW ROCK GENERATION

ROCK'N'ROLL NEWSMAKER
610 BANKAN 3F 6-10, JINGU-MAE, SHIBUYA-KU, TOKYO 〒150
Tel: (03) 486 4361
Fax: (03) 486 4273

PUBLISHED BY *VICTOR MUSICAL INDUSTRIES, INC.*

ALL PRODUCED BY *G & CO., ltd.*

PUBLISHER *Yoichi Aizawa*

CREATIVE DIRECTOR *Shigeo Goto*

ART DIRECTOR *DIAMOND HEAD'S*

EDITORIAL STAFF
EDITOR IN CHIEF *Seiji Takeuchi*
Masanobu Sugatsuke
EDITORS *Seiko Ashiba + G & CO., ltd.*
CONTRIBUTING EDITORS *Seido Sujaku*
Roy Tomizawa
Atsuko Ito
Sayuri Okada

FRONT COVER *Yutaka Tadokoro*
PHOTOGRAPHER *Noboru Morikawa*

ロックンロール ニューズメーカー
7月号
発行人/相沢洋一
発行所/ビクター音楽産業株式会社
〒150東京都渋谷区神宮前6-10 610番館3F
広告 TEL.03-486-4361
編集 TEL.03-486-4354
写真植字/株式会社あるす
製版責任者/矢田　豊
印刷/凸版印刷株式会社

定価500円

contents

ROCK 'N' RO

LL NEWSMAKER

ロサンジェルスのヘヴィー・メタル・バンド『ポイズン』のリード・ギタリスト、ブレット・マイクルは『ロック・シーン』誌5月号の中で、食べたいものを食べられないことがどんなに大変か、と訴えている。実は、マイクルは、糖尿病との闘病生活を続けているのだ！ 彼が糖尿病であることは長年ゼッタイ秘密だったのだが、この大変さをファンに発言することも、重要なことだと考え直すようになったんだって、さ。

『限りなく透明に近いブルー』のアメリカ版、『甘い生活』のロスアンジェルス版とでもいった小説『レス・ザン・ゼロ』が映画化され、デフジャム・レーベルから出たサントラ盤が輸入レコード屋を中心にヒットしている。エアロスミス、ポイズン、スレイヤー、ジョーン・ジェット、バングルス（『冬の散歩道』）らが演奏している。

ご存じ『ブライト・ライツ、ビッグ・シティ』のジェイ・マキナニーの新作が待たれている。2作目の『ランサム』は洋書ではとっくに発売されており、京都を舞台にカラテを勉強するアメリカ人という肩スカシもの、お気楽小説だった。（実は書いたのは、こっちの方が1作目らしいし）、ホントの力作新作は、アメリカで秋口には出版されるとのウワサ。タイトルは『ストーリー・オブ・マイ・ライフ』になりそうだ。おたのしみに。

ドッケンのジェフ・ピルソンが、ラウドネスとのコラボレーションを話してくれた。「僕の作った曲が彼らに届いたのが、彼らのミキシングが終わった後だった。『キス・オブ・ファイティング・ラブ』って曲になったんだ。ほかにはEZOもアースシェイカーも好きだけど」と気さくに答えてくれました。

サザン・オールスターズ取材中「子供二人生んでも肌がきれいな秘訣は？」という質問に「やっぱテンプラだよな」「あの胡麻油が」などとメンバーみんなが和む。原由子さんはご存知、鎌倉の老舗のてんぷら屋さんの娘さんです。お店はお兄さんが継いでらして、イキのイイいなせな人だそうです。

ロンドンで「レア・グループ」のレコード屋の経営と、海賊放送のDJをやっている人気DJ、ロイ・マーシュがクラブ・キング（桑原茂一氏の事務所でもある）のイベントのため青山スパイラル・ホールに来日した。「サイコーだよ。来日してみると、いきなりスター扱いで。ロンドンじゃDJがあんなキラビヤカなブースの中に入ることなんてゼッタイないから。まぁ、ラッパーは別だけどさ」と、トマドイも隠せないシャイなロイでした。

そのクラブ・キングのイベントでもスタッフが来日した『i—D』。5月号では、西麻布のピカソの壁画などを描いているペインター、マーク・イーガンの紹介記事が注目もんだった。

ちなみに『i—D』の編集長テリー・ジョーンズがヴィジュアル・プランニングに関わったクラブ『ザ・バンク』が六本木に7月オープンする。最近の東京の連中はカウチ化する一方……とタクシー運転手を大いに嘆かせている昨今だが、低迷するクラブ・シーンに、どこまで過激さやスガスガシイ乱暴さを持ち込めるかが楽しみである。

『MNE』の4月30日に載っていたイギー・ポップの評伝が出版され、その紹介写真がスゴイ。野外ステージで、客がひとりづつ強力にイギーの足を抱きしめているんだ。

テレンス・トレント・ダービーは、あちこちのインタビューで「俺はオオモノだ」と言いまくってるらしい。テレンスっておもしろい。この情熱、この野心。テレンスは「ひょっとすればひょっとするかもしれない」って感じが伝わってくるなァ。

ロンドンで、BROS風ヘア・スタイル人気を集めている。日本の美容師の髪型に近いものがあるね。

電話代未納のため電話不通のSION宅。本人は夜中にワガママな電話をかける気にもならなくなるし、電話不通を結構楽しんでいる。大変なのはマネージャー高橋氏。彼のSIONへの連絡方法は『○月×日○○駅便所前にて待ち合わせ』……これ本当の話。

「ティファニーは僕に100％の権限を認めるというサインをしているんだ、100％のね」とスゴ腕プロデューサーのジョージ・トービン氏は語る。「レコード会社には、彼女に対する権限はまったくない。すべて僕にある」トービン氏はそれらの契約によって法律上の権限を握っているだけではない。ティファニーが今後制作するなんと7枚のアルバム・ヴィディオ、ライブなどは、すべてトービン氏によってプロデュースされることになっている。なんて、エグイ話。トホホ。

本誌バクチク撮影終了後ロケバスの前で、ほんの10分くらいの時間をぬって。衣装からTシャツ姿になったメンバーは、神社の境内で、バクチクヘアーのままキャッチボールをはじめた。

『タイムマシンにお願い』のヒットやロキシー・ミュージックとの共演英国ツアーなどはなばなしい活動を続けた伝説のサディスティック・ミカ・バンドが、ミカ抜きで再結成される。メンバーは、加藤和彦（ギター）、高橋幸弘（ドラムス）高中正義（ギター）、小原礼（ベース）で年末に東芝EMIからアルバム・リリースの予定。

『THE FACE』6月号が伊丹十三のインタビューを行っている。『タンポポ』は世界ではじめての"ヌードル・ウエスタン・ムービーだ"とわかるようなわからないような絶賛の紹介。もともと、黒沢明の『7人の侍』をアメリカ人の監督がラーメン屋を舞台に撮ればどうなるか——みたいな伊丹十三のスノッブなコンセプトが、狙いどおりハマっています。伊丹十三は、今や日本で最も外人受けする監督になった。

アイスランド出身のニュー・ウエイブ・バンド、シュガー・キューブの歌詞がアンファン・テリブルしてる。服の中で蜘蛛を飼う5歳の少女の話とか。夜部屋へ帰って来た若い未亡人、裸で佇む男を発見。その悩める男に、ケーキをふるまう話とか……。

夕方よりPERSONZの撮影&取材があった、ある日。メンバーは雨の日比谷野音でライブの後スタジオへやってくる。JILLはスタジオの隅で洋服にアイロンをかけはじめた。アメリカン・ムービーの中の女の子みたいでした。

ブルーハーツ初の単行本が、なんと小説家の吉本ばななさんの手で構想中。ばななさんは、チャーミングな純文学『キッチン』で『海燕』新人賞をおとりになった方。彼女は、実は、大のブルーハーツとRCサクセションのファン。いったいどんな本ができあがるのでしょうか。

レッド・ウォリアーズのキヨシといえばラジコンっていうの、知ってる？ 外見的にはサングラスをかけた、存在感あふれる彼だけれど、実はああ見えても大のラジコン・ファン。HEARTのメンバーとは鉄道模型で遊ぶ仲。今回の取材も模型屋さんからはじまった。福島の熱心な模型屋さんのご夫婦と、しばしラジコン飛行機談義。インタビュアーは、ラジコンの話で時間がなくなるのでは、とハラハラ。

『ローリング・ストーン』誌5月号でミック・ジャガー・ニッポン公演の記事。"17万人ものファンが6500円——約50ドルものアベレージを払って、この44歳のスーパー・スターを一目観んとしていた"と、その料金の高さをイヤミに強調していた。笑える。

『SKY』6月号で『デザイナーズ・ヒッピーズ』という6ページ特集を組んでいる。デザイナーズ・ヒッピーとは「ポスト・ライブ・エイド・ジェネレーション」のためのファッションであり、ライフ・スタイルなんだそうだ。デザイナーズ・ヒッピーのテイストを代表するアイテムのチェック・リストとしては……ボブ・ゲドルフとジョージ・マイケル、シャーディー、アン・レノックス、ボノ、スティング、スミスの『ミート・イズ・マーダー』、『フレンズ・オブ・アース』のお料理ブック、JPゴルティエの洋服、パーシング将軍なんて用はないTシャツ。ケイト・ブッシュの『ライオン・ハート』、プレファブ・スプラウト、ブライアン・イーノとハロルド・バッドのアルバム。デヴィッド・シルビアンのアルバムなのだそうだ。

引き続き、デザイナーズ・ヒッピーの話題です。デザイナーズ・ヒッピーたちが憎むべきものとしてはヒップ・ホップ、ルーサー・バンドロスみたいなモダン・ソウル、プリンス・トレンス・トレント・ダービー……。デザイナーズ・ヒッピーは『遠い夜明け』や『コヤニスカッティ』や『ウッディ・アレン』みたいな映画を好むこと。

CRAZY NEWS

from TOKYO, to TOKYO

ROCK'N' RO

間違っても『マッド・マックス』なんかを好きになんないように。ユーモアってことで言うと『モンティ・パイソン』はOK……といった具合にリストは続いてゆくんだ。この感じ、わかるけどね。あなたもデザイナーズ・ヒッピーになりますか?

ワシントンDCにはGO―GO、シカゴのハウスなど黒人音楽のローカルな、しかも革新的なスタイルが登場してきている。ところで『FACE』3月号によると、今度はデトロイトになんと〝テクノ〟とか〝ロボサウンド〟と呼ばれている新しい波が押し寄せているらしい。デトロイトの黒い音楽イノベーター達のリーダー格であるデリック・メイは語っている。

「この街は荒廃してんだ。すべての秩序はすでに崩壊してんだよ。で、俺たちの音楽はそうした状況のサウンド・トラックってことさ」と。

5月3日、よみうりランドEASTでロック・バンド・イベント『ロック1年生』が行われた。この時、デル・ジベットとレピッシュのメンバーが、ステージ近くのバスの上に登って、仲よくお尻を出してふざけるというギャグがあった。観客の視線は、ほぼ完全にステージから離れ彼らのお尻に集中。主催者側から厳重な注意を受けた。

経済新聞に3月期の会社決算が発表されていた。それによると全体的に企業収益は過去最高のルンルン景気。このなかで、わずかに「銀行をのぞく非製造業」のみが14・5%の盛り下がりを記録していた。サービス業にとっては地味な時代ということかなぁ。

日本のレコード、テープ、CDの総売上のなかで、日本のロックの締める割合が50%を超えている。残りの50%のなかで洋楽、歌謡曲、演歌、クラシック、アニメ主題歌、サントラなどなどがシノギをケズってるわけだ。なんてったって『BOØWY ラスト・ギグ』が発売第1週で、新記録樹立の、売上10億円だもんね。すごーい。

世界的にエイズ関係の広告は増えているが『FACE』と『i―D』に連載されているエイズ啓蒙見開き4色広告は、エグイ。これはヘルス・エデュケーション・オーソリティの出稿によるもので、そのタッチは近年のシンディー・シャーマンの死体を模したシリーズに近いものがある。両雑誌の読者はセクシャル・アクティビティが高いので広告にもリキがこもるのだろうか。

プリンスばりのエレクトロ・ソウルをシャウトするジャパニーズでマンスリー・ライブを行っているコンポーザー/ヴォーカリスト、富樫明生(とがし・あきお)が、おもしろい。打ち込みを基調に、16ビートをきざむ黒人のギタリストなどが演奏をつとめる。まだレコード会社も決まっていないが、アマゾンズへの曲の提供や斉藤さおりなどへのコーラス参加で黒っぽいセンスをたっぷり見せつけている。その線がお好きな方は、7月7日渋谷エッグ・マンのライブで、どうぞ。

サントリー・ホワイトの夏キャンペーンは、もう聴いた? 14カラット・ソウルというロンドンの黒人ア・カペラ・グループが歌っている。作曲は山下達郎。このため日本を訪れた14カラット・ソウルは山下達郎に感激。彼らは、ロンドンのレコード・ショップでタツローのアルバムの殆んど買ってたと言って感激していた。会うまでは「いったいどんなファンキーなジャパニーズだろう?」って思ってたんだってさ。

本誌では『イサクのジョーク』の連載でおなじみの作詞家・銀色夏生さん。彼女が準備中の映画『GO GO HEAVEN』のオーディションの中から発掘された美少年エージくん(17歳)率いるビート・バンド「BA―TSU」が学業を投げうった渾身のライヴを展開中。なおエージくんはモデルとして本誌『イサクのジョーク』にも登場するので、ご期待!

『ローリング・ストーン』誌によるとプリンスが裸でポーズってる新作『ラブセクシー』のレコード・ジャケットに対して、家族客中心のアメリカのいくつかの大手レコード・チェーンが販売の拒否をしているとのこと。

タマ・ジャノビッツの『ニューヨークの奴隷たち』は、もう読んだ? タマって人はニューヨーク・アート・シーンの林真理子さんのような方だと思う。大きな本棚の前でカーリー風の髪型で微笑むタマ――そんな絵柄の洋酒の広告を向こうの雑誌で観た覚えがある。キッド・クリオールも出てたシリーズさ。でも正直いうと、あの本――翻訳の方ね――にはがっかりしたな。

①まず、抄訳なんだ。いちはやく『SWITCH』にも翻訳がのったブルース・スプリングスティーンをおちょくりまくった短編や、ペニスの話ではじまる巻頭短編などが落とされてるの。②オリジナルではタマが描かれている情熱的かつ華やかな油絵の表紙――たぶんタマの恋人が描いたんじゃなかったかな――が、あっさり捨てられ、ワケのわかんない重たっこい表紙になっちゃってんだもの。この2点は、ロック・ファンにとっては致命的だと思う。

ロンドンのDJ合戦のチャンピオンCJマッキントッシュと、『パンプ・アップ・ザ・ボリューム』が世界的に大ヒット中のM/A/R/R/Sが組んでナスティ・ロックスとしてZTTと契約を結んだ。ZTTは、存命を賭けた攻めに出ているのだろうか?



森 純太

今は必要以上に急ぎたくない

大分の別府で生まれました。昭和40年の3月10日、松田聖子といっしょです（笑）。中学3年の時に寮でギターを買って遊び始めた。その頃はボーズ頭で半ズボンの制服姿でしたね。そのカッコウでレインボーの武道館公演を見に行ったりしてた。どういう音楽がしたいとかなかったですね。だから今みたいなスタイルの前はグラムだったんです。ある日歩いてたら中学生に「ヘビメタよ」って。オレ、ヘビメタって大嫌いでガーンて来て、それ以来、髪も短くして服も黒くしたんです(笑)。だんだんはっきりしてきた気がする。だけど、ライブインやって後楽園ホールやって、青年館、渋公みたいなステップは絶対イヤなんです。どうしたら違うところから攻められるか。ホコテンは一生やっていきます。予定だと、23才でマジソン・スクエアって思ってたんですけど（笑）。僕が望んでるのは、30年後ぐらいに「音質は古いけど、メロディはいいんじゃないの」っていう曲をつくりたい。ビートパンクじゃないですよ。

news “全部このままでツアー”で全国29ヵ所をまわったJ(S)W。6月23日（木）には、渋谷LIVE INNにてレコード発売記念ライブ。

Junta

Guitarist on JUN SKY WALKER(S)

PHOTOGRAPHER：RYOICHI YAMASITA

NEWSMAKERS



八田謙治

得意なものはロックだね

インディーズの頃から、あんまり苦労ってしたことないんだよね。基本的に好きなことやってっからさ。ボクってロックしか出来ないしね。一番得意なものってロックだから。好きなことやってるのが一番ラクだよね、誰れでもさ。

最近少し反省してます。メンバーチェンジし過ぎたって。ホント、レコード出す度にメンバーチェンジしてたからね。ボクはソロって好きじゃないんだよね、本当は。やっぱ淋しいしさ。もうバンドが一番。だからってワケじゃないけど、今のバンドはすごくイイ感じになってて、"これがKENZI & THE TRIPSの音だ！" って胸張って言えるもん。

前のLPは頭使い過ぎて上手くいかなかったとこもあるから、次のアルバムは頭使いません。元々頭悪いからね。今までいろいろい守ろうとして、かえってブッ壊してたから…。今は守るもん何んにもないからね。思いっきりヤレます。ちょっとアブナイけどさ。でもそれがロックってもんじゃない？

news 日比谷野音から始まったツアー "Sweet Dreams Baby" も中盤を過ぎた。残るはあと六ケ所。まだ間にあう、急げ！ （問い合せ） 03-463-6100まで。

Kenzi

Vocalist on Kenzi & the Trips

PHOTOGRAPHER: RYOICHI YAMASITA



宮本浩次

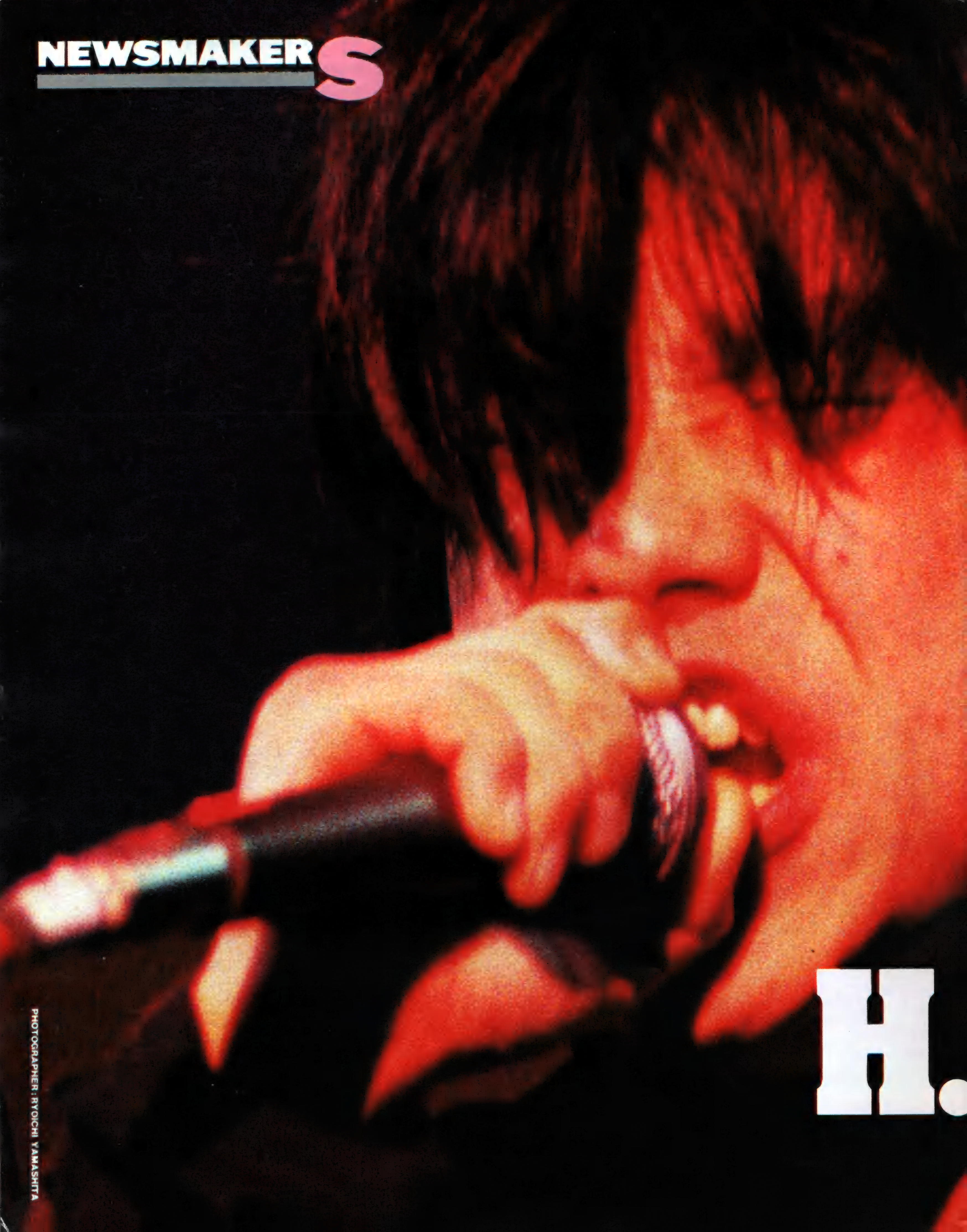
よりよく、一生懸命に

育ちはほとんど埼玉県に近い赤羽です。子どもの頃は、皆んなと同じように缶蹴りしたり家でトランプしたりしました。学校の成績は中ぐらい。赤羽とか池袋に行って騒いでました。大きくなったらTVのニュースのアナウンサーになりたかった。NHKのニュースの人って、当時はきちっとしてて、ああいうのがやりたかったです。高校では政治家になりたかった。東京の私立高輪高校でした。どうして思ったのかわかんないですけど、このままじゃ世の中はいけないんじゃないかと思った。体制も反対制も腐ってましたから、「本当の政治をやっていない!!」と思って、それならオレの力で変えてみせるぞって思いました。だけど恥ずかしいから秘密にしてました。理屈なんでしょうし、明日になれば変わっちゃうかもしれないけど、政治も部分なんです。何の仕事だろうが、一生懸命できることがあればって思ってます。だからいいかげんなことはダメです。だから歌は難しいことじゃイカンと思っていますね。

news 話題騒然だったデビューアルバム。次なるレコーディングは、7月中旬以降に開始予定。そのためのあのライヴは少しの間、見られないようだ。

Miyamoto

Vocalist on ELEPHANT KASHIMASHI



H.

PHOTOGRAPHER : RYOICHI YAMASHITA



井口一彦

ザ・ハートの試練

アマチュアの頃さ、オレってこういう声してて、音楽的なノリのこともあって、かならず「甲斐よしひろ」と比べられるじゃない。その頃って、どんなものに対してもすごく拒否反応をおこしてた時期だったからさ、反発した。俺はつっぱっていきてえんだ、みたいにさ。それゆえに、音楽的にも「やーだよ」っていう反発心が生まれてたんだけど、今こうなってみて、逆に俺、「甲斐よしひろになってもいいな」って気がするの。やっぱり、自分が音楽知った時にさ、甲斐よしひろという存在がいたからオレは音楽始めたんだよね。音楽が聞えてくるっていうよりも、先に「歌」が聴こえてきたから。最近ライブやってて正直言ってすごく悩むことがあるんだ。バンドとオレのこと。フロントマンとしてのオレの場所…。オレにとって、矢沢永吉と甲斐よしひろはバンドっていう視点で別格だった。オレはオレのバンドに誇りを持っている。甲斐バンドが12年続いたんなら、ザ・ハートは少なくとも13年はあばれ続けてみせる。

news 待望のニューシングルは、7月21日発売。今年の夏はイベントへの参加が多くなりそう。年末11月10日頃に2nd LPの発売の計画もある。

K. Iguchi

Vocalist on THE HEART

PHOTOGRAPHER: KATSUO HANZAWA

NEWSMAKERS



宮田カズヤ

聴き続けられる音楽を創りたい

ジュンタは、自由学園で僕よりひとつ上の学年だった。彼らがやってたバンドに僕がむりやりヴォーカルで入ったんですよ(笑)。最初からプロになると思ってるし、ヴォーカルしか考えてなかったですね。僕が音楽をやるキッカケは、ベイシティ・ローラーズとキッス。ミュージシャンになれなくても、レコード屋でも楽器屋でもいいから音楽にさわっていたかった。それぐらい好きだね。野音やって思うのはね、うまくすりゃオレたちも売れるかもしれない。だけどオレたちはライブハウスを固めて上がっていきたい。売れる売れないっていうのも大切だけど、やっぱ四人で一生やっていきたいです。僕らの音楽を聴いてくれてる女のコが、長い間地道に聴き続けてくれるとするじゃない。そうすると、家の人も僕らの音楽を聴くでしょ。そういうものがやっぱりすごく強いと思うし。ワーッと行っちゃってパッと終わりたくない。一番大切なもの？　それは、健康なココロとカラダです。素直なね（笑）。

news　5月21日リリースした6曲ミニＬＰに続いて年内にフルアルバムを制作予定。シングルビデオ「全部このままで」は、6/21に発売される。

Kazuya

Vocalist on JUN SKY WALKER(S)

PHOTOGRAPHER：RYOICHI YAMASHITA

最近の青空は
君の言葉に
似ているは
不思議な涙


NEWSMAKERS



PHOTOGRAPHER : YORIHITO YAMAUCHI

Ozaki

Vocalist

NEWSMAKERS



尾崎　豊

破片のコトバ

尾崎豊の今の声。それを聞くことは非常にむずかしい。この雑誌が出る10日ほど前、地下鉄で大きな乱暴な手紙のようなポスターがはり出されていたことをおぼえている人も多いだろう。6・21に突然発売される彼のニューシングル『太陽の破片』ではないが、そのB倍判の巨大なポスターにマジックインキでなぐり書かれた文字は、まさしく、「尾崎の今の破片」ともいうべきものだ。尾崎は5月のある日、カメラマンの山内順仁氏のスタジオであのコトバを書いた。その日は抜けるような青空で、季節の急速な変化が人々をどこか不安にし、そして何か期待させるような日であった。——彼は今、再びアルバムの制作に入っている。しかし完成がいつか発表はない。そんな中でこんな情報が流れて来た。

①6月22日の『夜のヒットスタジオ』〈フジTV〉に出演してしまった!!

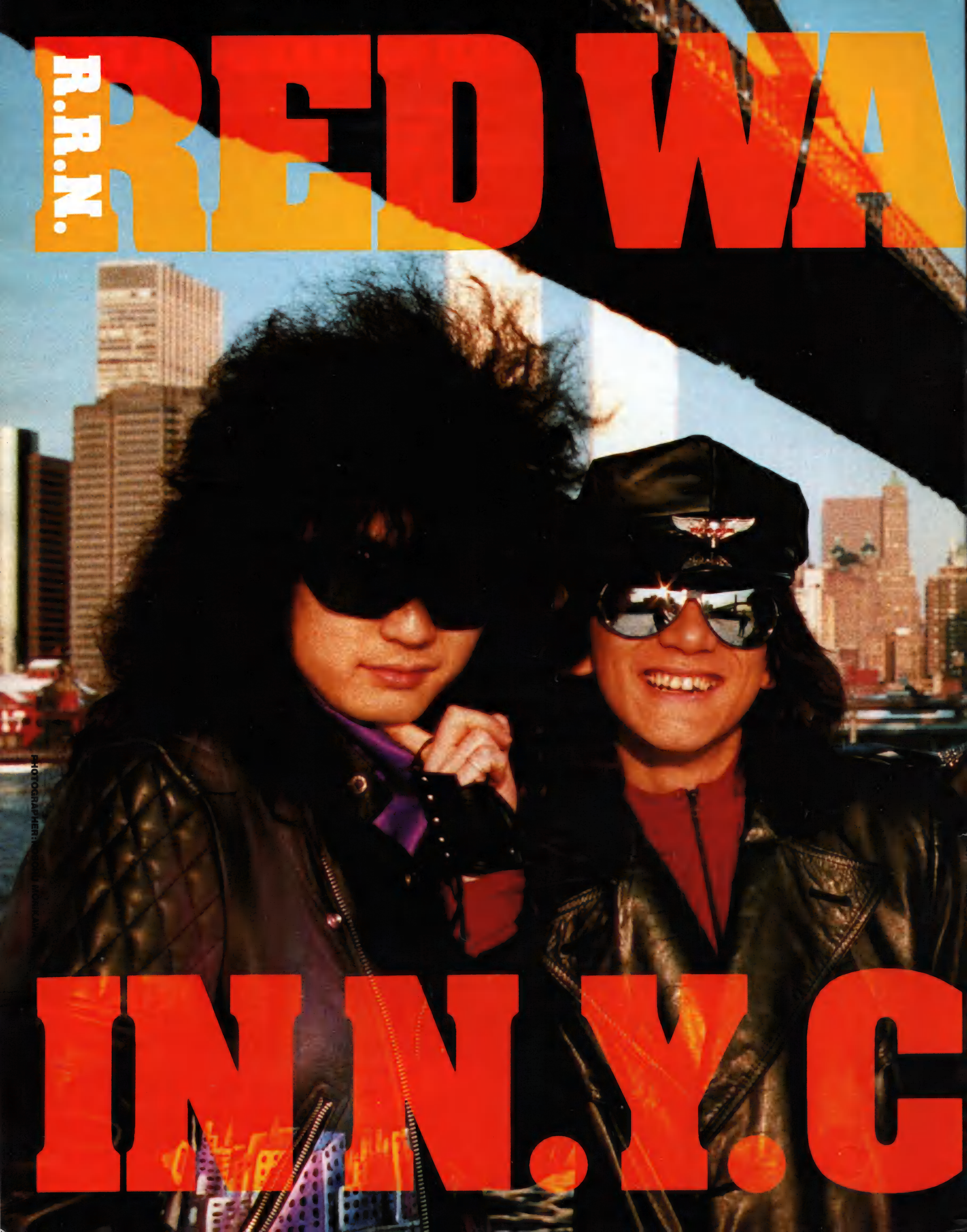
②9月12日、東京ドーム"BIG EGG"ライブ決定!!（チケットは7／17日より、チケットぴあ、チケットセゾン、C21で一斉発売。）

RRIORS

レッド・ウォーリアーズの野望



Welcome to the Kings' Rock'n'Roll Show. Welcome to the Kings' Rock'n'Roll Night.
Oh oh oh, nobody can stop me now, baby.
I wanna hold you. I wanna kiss you. You're my everything to me.
Let's dance, let's make love. Let's spend the night together.
Welcome to the King's Rock'n'Roll Show. Welcome to the Kings' Rock'n'Roll Night.
We are the ROCK'N'ROLL. We are the Red Wariors.
Life is like one night fucker. So, come on, baby.


R.R.N.
RED WA
IN N.Y.C
PHOTOGRAPHER:

YUKAI

「サノバ・ビッチ! ガッデム!」の一言でインタビューがぶち壊しになっちまった



ワシントン・スクウェアでヤクの売人に声をかけられたよ

アメリカの大統領選挙って、結局いつやんの？ 秋？ あのジャクソンだっけ、黒人が大統領に選ばれたりしたらファンキーだよね。ジャクソンって副大統領くらいにはなんないかな。そしたら、なにか、変わるかもしれないよね。

南部ってすっごい保守的なんだ。俺ね。映画の件でインタビュー受けたの。ナッシュビルでさ。ま、インタビューの大部分はキャリーになんだけど。俺にも時々聞かれるわけ。で、言葉のハナシになってさ。「あなたはキャリーからどんな言葉を教わったか」って質問されたわけ。俺は「サノバ・ビッチ、ガッデム」って答えたんだ。冗談でだぜ。そしたら会場が騒然としちゃってさ。でインタビュアーが、もう一度聞き直すわけ。で、俺、もう一度低い声でゆっくりしゃべってやったの。「サノバ・ビッチ、ガッデム」って。そしたら、もう、その瞬間でインタビューは取り止めになるわ、その後いろんな場所で入っていた取材も全部キャンセルされちゃうわ大騒ぎになって。次の日、新聞に載ってんだよ、そのことが。で読んでみるとさ、ジャパニーズ・ロックンローラーのユタカ・タドコロは、番組中、次のような汚い言葉で神をののしった、なんて書かれてるわけ。で、それによるとさ、インタビュアーは最初は「サンタモニカ・ビーチ」って聞こえた、なんて間抜けなこと答えてるわけ。それってどういう意味だかわかんなかったんだけど、どうもインタビュアーの苦しまぎれの言い訳らしいんだ。つまりね、そうとでも答えとかないと、ヤバイらしい。ディレクターは、もちろんクビになっちゃったらしいし。どうも放送でそんな言葉が流れるなんて事態は、ものすごくマズイことらしいんだ。ちょっと信じられないよね。ニューヨークなんかとは全然ノリが違うんだ。で、この話にはちょっと付録があってさ。俺その後でサンタモニカに行ったんだ。で、胸のところにデカデカと「サンタモニカ・ビーチ」って書いてあるTシャツを送ってあげたんだ。「何て、読むかい？」ってカードを付けてね。



プロモーション・ヴィデオを撮りに行ったとき、ニューヨークのクラブでギグをやったんだ。『ショック・ミー』と『ワイルド・チェリー』とかね。ガイジンばっかりでさ。全然受けてねぇな、って。うん。もっとちゃんとやりたかったし。機材もなかったし。



ニューヨークがどれだけ素晴らしい街かって、オノ・ヨーコがジョン・レノンにニューヨークを案内した話、知ってる？ その頃ジョンなんて、まぁ、いってみればロンドンの田舎者じゃない（笑）。ヨーコの方は、アーティストとして活躍していたから、詳しいんだ。でね、ヨーコが「ここのカプチーノって、おいしいのよ」っていったら、ジョンは、もうそこのカプチーノのこと、いっぺんで好きになって、毎日カプチーノばっかり飲みはじめるんだよ。……俺、その話が好きでさ。


俺の場合「ついてくる女」ってダメだね

黒人がケンカしてるのを見た。『ファック・ユー』って言葉が、どんなに怖いかって、知った。

オノ・ヨーコのパーティーがセイントってディス

コであってさ。監督がキース・ヘリングの友達で。オノ・ヨーコはきれいだったよ。きれいな人だなって思った。映画に来てくださいっていったら、ちゃんと観に来てくれた。うれしかったな。

アメリカのイメージ?ストーンズもビートルズもエアロスミスも、俺にとっちゃ全部アメリカ。英国生まれのビートルズが、アメリカの土を踏んだ時の、あの興奮が忘れられなくて、ね。

カンヌでは、どんな質問がきても、「セックスみたいなもんよ」とか答えたよ

俺、気がついたんだけど、日本から行くバンドは、しょせん日本から行くバンドなんだよ。日本でいくらパワー持ってようが、最終的にはウツワの問題だから。

今、日本ですごくレッド・ウォーリアーズって、受けてるじゃない。でもテングにはなりたくない。まだまだ俺たちなんか……うぅん、ケンソンじゃない…。俺たちよりもっともっとビッグな人たちがアメリカ行っても全然相手にされなかったりするじゃない。そのことが寂しく感じられたら、もっともっと寂しく感じられたら、その時が、俺達が世界のバンドになったってことだろうか。



もう一度生まれかわるとしたら、ビートルズになりてぇよ

初登場2位でしょう。でも、人間って不思議なんだよね、……なっちゃうと、もっともっと先が欲しくなる。でも、ウレシイよね。どこ行ったって、歓迎されちゃうし。

悪いライブは見せたくない。いつでも最高のライブを見せたい。俺、ノドが異常にデリケートなんだよ。風邪もあるし、疲れもあるし、もう昔みたいにはやらない。ノリだけでゴマカすみたいなのは。大友康平なんて5時まで飲んでも、次の日平気でライブやるらしいけど、俺はそういうタイプじゃないんだ。



向こうじゃ俺、よくチャイニーズって思われてる。だから俺も「そうだ」って答えたりする。華僑のリッチ・キッズ? どうかな。俺「カラテ・レスラーだ」とか冗談ばっかいってるよ。今、一番行ってみたい国は、バンコクとか東南アジアとか発展途上国だ。

パリには、こないだ行った。地下鉄で歌ってるヤツらがいるんだよね。ストリート・ミュージシャンがいっぱいいるんだ。紙芝居やったりするヤツもいてさ。結構、オモシロイんだ。あいつら地下鉄に出勤してんだよね。

カンヌではね、パーティーばっかりだったよ。みんなはタキシード着てるんだけど、俺だけ皮ジャンとジーンズでさ。「ユーアー・リアル・ロックンローラー」とか「リアル・アクター」とかいわれちゃって、ウケたね。『チャンカイヌ』って中国映画観たときだけ、俺もタキシード着たけどね。うん、映画観るときはタキシード着なきゃ観れないからさ。

インタビューもいっぱい受けたよ。結構イイカゲンな気分でさ。どんな質問がきても「セックスみたいなもんだよ」とかさ、テキトーなこと答えといたよ。気分でさ。日本じゃどんなヤツなんだとか聞かれたな。「フェイマス・ロックンロール・スター」って答えといたけど。

ロックの美学は、俺たちみたいなファッキンな奴らでも、スターになれることさ

映画の役柄は、俺に似てて、基本的には俺じゃない。子供だよね。かわいくて。わがままで。日本の男ってさ、カッコつけるじゃない。タフっていうか、ケンカが強くてさ。あんまりしゃべらないでさ。そんなイメージをぶち壊して、やさしい人間に徹したんだ。もともと俺ってそういう人間なんだ。自分らしくなったんじゃないかな。

〈ロックンロールの美学〉なんてオオゲサだけど、俺みたいな、俺たちみたいなファッキンな奴らでもスターになれちゃうってとこさ。

レッズの曲は、みんな好きだね。

「勝手にしやがれ」は、いいよね。ジーン・セバーグは、あの3作くらい出て、あの後自殺しちゃうんだよね。そうそう、好きなセリフがあんだ。「3カ月かかって……するよりは、1週間で……した方がいい」っていう。




蝶々には、鋭利な本能があります。
COPYWRITER: DAISAKU FUJIWARA
The Mayflower Hotel


RED WARRIORS IN N.Y.C.
ナイフには、引き裂く腕力があります。
COPYWRITER: DAISAKU FUJIWARA



通りすがりのサンフランシスコのライブハウスで、
ブルース・セッションをした。白人たちに混じって「スロウダウン」とか
いろいろ演った。かなり。受けた。

ローマのコロッセルで神様のことを考えた。しばらく散歩した

ローマとベニス、2週間弱かな、行ってたんだ。

目的？ 散歩。

結構、みんな広場でさ、夕方から夜までしゃべってるんだ。ギター弾いたりしてさ。楽しそうなんだよ。ほら、日本て結構、楽しみ方って決まってるじゃない。酒飲むとか、ディスコ行くとか、映画見るとか……。で、向こうは、そうじゃないの。なんか楽しそうなんだ。みんな結構ビンボーじゃん。で、金持ちになろうって気もないしさ。ストレイ・キャッツみたいなの、演奏してたりしてさ。俺にも弾かせろ、ってってビートルズナンバーなんか一緒に弾いたりしてさ。イタリア語なまりのビートルズ・ナンバー。



女神のイメージ？ オードリー・ヘップバーンだな。『ローマの休日』、あれが一番だな。危なっかしくて、しっかりしてる……そんなとこ。

女は難しい。難しいよ。とにかく。自分が結構、気持ちで決てっちゃうじゃない。おんなじ女でも、すげえ会いたい時と、ちょっとも会いたくないときと勝手に決まっちゃう。自分が会いたいとき、相手は会いたくなかったり、とかさ。幸せなのは、最初の1カ月くらいかな。

もしもミュージシャンになってなかったら、絵描きかなぁ。観光地かなんか行って風景画でも売ってんじゃないの。

サンフランシスコ行った時に、キヨシとルシアン・ヒルに行った。静かな住宅地でさ。うん、レッズを作る前から知ってた。たぶん、ロシア人が移民してきたんじゃないの。

SHÄKE

サンフランシスコについてさ。夜、ぼーっと歩いてたらさ、ストリップ小屋とかロック・クラブが結構並んでる通りがあって。たまたまあるクラブに入ったらオーナーが日本人でさ、だんだんワイワイ始まっちゃって。ブルース・セッションに出たんだ。ものは試しだからね。『スロウ・ダウン』とかいろいろね。

「レコード送ってくれ」って住所とカネ置いてくヤツとか、Tシャツ脱いでくやつとか。うん、うけたよ。



（サウンド・チェックの始まる前、控え室の鏡の前で、シャケは茶色いプラスチックのサム・ピックのエッジを、ハサミで切っている。その後、爪切りの背のヤスリで角を研ぐ。それはステージ前のいつもの準備だ。演奏中のシャケの手首・親指の動きに密着したサム・ピック。リア・マイク付近で、時々はじくように残りの4本の指が動く――そんなシャケのギター奏法に、このサム・ピックは欠かせない。）

曲を書く時？……決まってないよ。よくいうんだけど、タバコ買いに行ったりする、ほんの30秒か1分の間に、ね。「歩くメロディーのコエダメ」……ああ、あれね。もっときれいな表現にしてほしいけどね。「宝石箱」とかさ。

まぁ、いいのはエアロとかスレイドとか、モット・ザ・フープルとか、あのへんとか。ボウイとか……ね。ギルバート・オサリバンだとかさ、バート・バカラックとかも好きだしね。ショッキング・ブルーだとか、モンキーズ、ママス＆パパス、シカゴ、カーペンターズ、マッシュマシュ・カーンとかさ。でさエルトン・ジョンとかにしてもさ、いいソング・ライターとかっていっぱいいるけど、これは……どこがイイんだろうな、って曲も結構あると思うんだ。ポール・マッカートニーなんかは結構パーフェクトに近かったけど、もう、とっくにピーク超えてる感じするし、で、俺、そういうのダメなの。ベスト・アルバム志向っていうか、さ。

後は、『ロング＆ワインディング・ロード』とか『レット・イット・ビー』とかが東芝のCMだったんだよね。ダニエル・ビダルとかさ。サイモン＆ガーファンクルとか。『マンダム』のCFで使われてた『男の世界』とかさ。

ギターで最初に覚えたのは『朝日のあたる家』だね。最初に買ったアルバムは南沙織。『スウィート・キャロライン』とか『気になる女の子』とか『ア

RED WARRIORS IN N.Y.C.



イル・ビー・ゼア』とか『木枯らしの少女』とか『ユープ・ガット・ア・フレンド』とかが入ってたな。

バンドは15の時、ビートルズを中心に。ディープ・パープルとかもやったけど、ほら歌難しいじゃない、ああいうのって。メロディーはっきりしないっていうかさ。

日本って一番暮らしやすいと思うよ。でも、別にアフリカの土人に生まれたって、いいかもしれないし。でも、ロックやる上では、せめて英語圏には生まれたかったかな。なにしろ坂本九だけだからね。日本の歌でビルボード1位っていうのは。

7・23、日本“最初の”スタジアムのロックンロール・ショーをやる

武道館……あの日、アンコールの後で、帰ったらマネージャーのソラタの目がさ、涙でクチャクチャになっちゃったの。抱きついてきちゃってさ。……コイツはこんなに一所懸命やってたんだな、って、感激したな。



イタリアのパンはうまくなかったな。
固くてもやわらかくても関係ないんだもん。

今後のレッド・ウォーリアーズのシナリオ？ テキトーだよ、テキトー。来年のことなんか、わからないよ。ツアーやって、休む。それだけだよ。

ライブって難しいよ。どうなるかわからないし。いっちゃ悪いけどさ、田舎ってイイよね。もう、これを逃したら……みたいな感じでさ。そういうやつに1年1回のヤツをさ。俺らにとっては毎日やってるけど、やつらに最高のものを見せたいよね。ほかのバンドなんか、もう、観る気なくすような、さ。

10代の頃はさ、やっぱエアロスミスだな。でも、あの頃は座って聴くのが当たり前だったからね。中学生の頃は、野球小僧でロック小僧だった。別に体育会ノリなんかないよ。外野守ってたよ。いいよ、そんなハナシは。

ユカイ君はね、結構ムズカシイヤツだからね。ヴォーカリストとして、すごく好きだよ。結構ムズカシイやつだからね。明るい時と、暗い時がハッキリしてるからね。うーん、まぁねー、ひとりでいて誰ともしゃべらないとか、ね。そんな時は、こっちもうまくノセたりすんだけどさ、なすがまま、って時も多いな。

コンマ君のドラツス、シンバルとかタムとかズラズラ並べてバカボコやる……なんてタイプじゃないしね。このバンドには、合ってる、とても。

キヨシ……変なヤツだよね。年下だからさ。甘ったれだし。すごく、明るくてね、ふんい気がイイよね。キヨシがバンドにいるってことで、さ、バンドが助かってる部分って、大きいよね。ベーシストとしての存在感もあるし。

俺たちのロックン・ロールを楽しむ奴が増えてさ、俺たちみたいなバンドが球場でライブやるってのはさ、これは日本も「ひょっとすると、ひょっとするんじゃないかな」って思う。……マドンナとかプリンスとか、マイケル・ジャクソンとか、ああゆうものも売れるけど、ヴァン・ヘイレンとかモトリー・クルーも売れる。そういうふうになるんじゃないかな、日本も。俺は、このバンドは、俺の夢だからね、こういうバンドが日本にあるってのが。たとえばロックを好きでやってるアマチュアの奴らには夢をあげられると思うよね。



サンフランシスコでは、キヨシとルシアン・ヒルに行った。ルシアン・ヒルは、静かな住宅地だ。



レッド・ウォーリアーズが日本に堂々存在するってのは、俺たちの自慢だぜ

生まれた星が違うだけ。

COPYWRITER: DAISAKU FUJIWARA



RED WARRIORS IN N.Y.C.



オレらの人生はレベルが高い。

COPYWRITER: DAISAKU FUJIWARA

RED WARRIORS IN N.Y.C.

俺はラッキーな奴。体でぶつかって、チャンスは必らずモノにする



KIYOSHI



俺、常に問題に直面していないと、ダメになっちゃう。

春先の北海道にバイクで行ったんだ。流氷を見に。旅らしい旅って、あれが最後だな。3月。北海道にバイクで行くってのが夢だったんだ。そのためにオフロード・バイクを新調してさ。なんかつらかったな。20日くらいかけて。でもねぇ、知床に行っただけなんだよ。そのくらいかかるんだよ。

流氷はね、ずーっと一日中、座って見てるのがいいんだ。岩にもたれて。握り飯持ってさ。大潮って時間になると、いきなり氷が動きだすんだよ。氷がさ、ブルーっつか緑っつうか、青白く光ってるんだ。それが静かなんだ。しーんとしていて。午後になると風が出てきて、流氷が揺れ出して。きれいだよ。

「キングス」の最後のナンバーを聴くと、シャケが昔住んでた西川口のアパートを思いだすよ。一応鉄筋だったかな。アクセサリーがじゃらじゃらあって、レコードがたくさんある。キヨシ、これ知ってるか、ってストーンズのヴィディオ見せられた。

チャンスは、すっごくたくさんある。あるんだよ。「チャンスがないから」なんていってるヤツが多すぎるよ。俺なんか、ラッキー。ウソのようだもの。後は自分の生き方をどうやって仕事のペースの中で見出していくか、っていうことだよね。

中学の頃は生徒会とか好きだった。会計やってた。高校入って副会長やった。マジメだったかっていえばマジメだったけど、でもホントにマジメなやつは生徒会なんてやらないよ。時間もったいないから。で、その後、高校2年を2回やって、3回目の留年ができなくて、退学したの。

昔、俺ボーカルやってた。でもさ、ボーカルって職人じゃないねぇいう部分あるじゃない。手に職がない。そこでベースをやろうって。

話が合うのはブルーハーツの河ちゃん（河内純之助）とかさ。「俺とキヨシは下手でイイんだよな」「おー、そーだよ、いいんだよ、別によー」って言って。

ねぇ、レッズのメンバーとして俺どんな車が似合うと思う？ 何に乗ってると思う？

（そうだなぁ、プジョーとかさ……）

いいね、プジョー。ちょっと小さいかな。そういうイメージなんだ？ 実はさ、俺、パジロ乗ってるんだ。競技に出る時はジムニーだね。ファンの子が……びっくりするんだよね。「とびきりの女はべらかしてェ♪」とかやってて、靴に土つけてパジロに乗ってちゃマズイよね。ハハハ。シャケがいつもからかうんだ。どうしてキヨシっていつも靴に土がついてんの、って（笑）。

この間、嫌な夢みたな。「シャケー！」って声かけたら、そのままシャケが高いところから落ちてっちゃうの。俺は呆然だよ。

親友殺して、基地のそばに埋めて逃げるって夢もみたな。死体はさ、もう茶色く変色してちゃってるの。

楽しい夢見ないな、俺。楽しい夢は、覚えてないのかな。ツアー中は、夢見ない。死んだように。眠る。死んだように眠るまで、飲む。

俺、金魚だから。ひとつ考えてると、それで頭いっぱいになっちゃうんだ。

このあいだ2週間くらい、ツアーの合間にオフが入ったんだ。俺は車のトライアルの大会があったから、いろいろやってたんだ。確かに充実したイイ休みだったんだけど、ちょっと不安だった。気にいったアルバム作って、それをひっ下げて、こんだけたくさんのツアーを、ただ一所懸命やるだけ。なんの心配もないわけ。……でもさ、そのシアワセが怖いんだ。



バイクで高速をつっ走ってる時、いろんなことを考えるんだ。

昔サックス吹きだった親父が、ひょっこり武道館にやって来た



悪いことはいろいろ思い切りやったね。大井埠頭の方まで行ってイロイロ悪さしたな。タイマンとかもタマに……。

この間の武道館には親父が観き来たよ。……結構いろいろシビアなこともいわれたし、まぁ、ビート感とか……。ほら、俺って「前ノリ」でしょ、叩き方が。だから、あそこのシンバルが遅れ気味だったなとか言われた。もう引退もして結構たつんだけどさ、スルドイ耳持ってんな、って。親父はジャズのミュージシャンだったんだ。サックス吹いてて。おふくろはハワイアン歌手だったんだ。19で結婚したからそれまでだけどね。年はおふくろの方が若くて、11も離れてんだ。子守唄におふくろのウクレレ聴かされたよ。おふくろは、いつもウクレレ弾いてたな。そうそう、今度のアルバムの最後のナンバーのウクレレ、あのコードは俺が教えたの。楽器とか家にゴロゴロしてて、ジャズのレコードがちらかってる家庭だった。よく親父が夜、練習してたのを聴いてた。親父は俺に似てる。時代の差はあるけど。B型だし。ワガママだし。

中学2年まではすっごくマジメだったの。小学6年生で進学教室と家庭教師つけてやってたの。地元の中学がボウズだったの、ボウズが嫌だったの。



写真撮ることにも凝ったな、昔。でも撮られるのは好きじゃないね。

小6の頃は地元のボウズが嫌だったの。小6の頃は少しづつ友達がボウズになっていくの見ながら、嫌だなって思ってた。

中2で初体験をすませちゃって。先輩の彼女を紹介されちゃってさ。それからは、いろいろね。私立の高校行って、いよいよ悪の道へひきづりこまれたの。高2で免許とってからバイクひと筋。バリバリ改造して、エンジンは排気量あげたりして、塗装してカラリング変えて。カワサキのZ2って、当時1番カッコイイヤツに白と黄緑に塗ってた。目立つの好きだったから、ひとりで走ってることが多かったな。（集会とかもやったけど）。タイコは高校卒業してから。最初はギター弾いてたから。結構フォークやってたから。

秩父とか日光とか、いろは坂は怖いんだよ。死にそうな目とか、何回も。俺の体はナマキズだらけ。右手のスジも切っちゃって。2回手術したんだ。足なんかもヒドイ。

百キロくらいで11トンのトラックに突っ込んだ。人をよけて、さ。バイクごと救急車に乗せられて。足は血だらけ。皮のズボンもボロボロ。ぼーっとした頭で「バイク、どこまで壊れちゃったかな……」とか自分の体より心配してんの（笑）。死ぬ思いは何度もしている。

女に関しては、もう病気だったね。ま、ヨコのつながり結構あったし、ナンパ校だったからね。タイト・スカートでスウィング・トップとかのでさ。ヤンキーのおねえさんタイプでさ。デートは渋谷のホテル街とか山の中で蚊に刺されながら……。

やっぱいろいろ経験してみたいってタイプだから。



うんSMとかもね。遊びだけどさ。殿様と、年貢を払えない百姓の娘みたいな役で、責めたりするの、好き（笑）。「おらおら、年貢のかわりじゃ」とかいってグイグイ責めたりさ。女には赤い長襦袢着させてさ。

あと別のシチュエーションだと、黒いハイヒールを履いてもらうのも好きだな（笑）。

別に武道館っていったって緊張感とかないけどね。ツアーでいろんなとこやってるからさ。内容も別にいつもとおんなじだけど、わかんないところで気が昂ってるっていうか、さ。ステージの後ろ側にまで、お客さんが入ってたからね。360度。降ってくるような客の反応。あれは、ほかの小屋じゃ味わえねぇよ。ちょっと戸惑った。終わってからの方がキンチョー感ある。

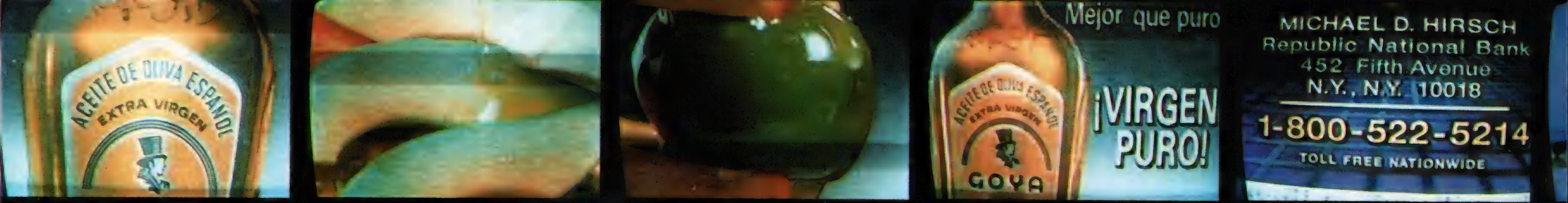
毎日ライブでも俺は別に差し支えないんだけどな。

この間、上野にエジプト展を見に行ったんだ。サッと見れば10分くらいで見れるんだけど、2時間くらいかけて見た。すっごく感じるもんがあった。

金色……確かに金色は多いんだけど、意外なところに青とかオレンジとか、そんな色が使われてるんだ。あの色使いは向こうの気候と関係あるのかな。壁画にしても「文明」感じるよね。体はヨコ向いてるけど、目だけは正面向いてる……とか統一があるのね。

最近みた夢はね、アブナイ夢なんだ。死人の目をえぐる夢なんだ。俺って、そんなアブナイやつじゃないのに。

COMMA





7・23日本"最初の"スタジアム版ロックンロール・ショーをやるぜ!!



RED WARRIORS IN N.Y.C.



Hiroshi MIKAMI

僕には、音楽的な原体験がないんだ。



R.R.N. **INSIDE STORY**

He was born in 1962. He is a strange hero from Tokyo, the hipercapitalistic babylon. You've seen him on television and in the movies (Merry Christmas, Mr. Lawrence and Watashi o ski ni tsurette), as well as heard his songs on the radio. He's singing about gods.

やればやるほど音楽からも離れて行っちゃいたいと思う。



PHOTOGRAPHER:KENJI MIURA



Hiroshi MIKAMI

僕は両極端な人間だよ。よく、私生活が見えにくいって言われるけどマチガイ。僕はサイボーグなんかじゃないよ。



news デビューアルバム『G・O・D・S』が、いきなりオリコン初登場6位で世界をおどろかしたMIKAMI。ただ今全国ツアーの真っ最中だ。このあとすぐ香港へ飛んで合作映画の主演が待っている。豪華写真集の噂もある。

三上博史が初めて語った秘密の"5年計画"そして"音楽"

R.R.N. INSIDE STORY Hiroshi MIKAMI

●音楽にはいつから興味を持ったんですか?

そうね、20才過ぎてからだから、そんなにさかのぼんないですね。僕はね、音楽的な「原体験」っていうのがないんです。今だってない。本来的にやりたいことがちがうんですよ。音楽やろうと思ったのは4年ぐらい前。ちょうど僕は高校卒業して浪人してて、そのかたわらで1年に1本ずつぐらい映画に役者として参加してたのね。仕事はまだ食えるほどになってないし、何年も何年も浪人してたってしょうがないしね。予備校行ってないしさ、浪人って言えないよね。で、初めてTVをやったのが21才の時で、戸川純ちゃんと『無邪気な関係』をやった。純ちゃんは大好きだな。

●でも楽器とかやったんですか?

ちょっとはね、こういうむかしの話ってはずかしいよね。僕は小学校・中学校とか通じて怪獣映画とエクソシストしか知らなかった。で、あとは旅行ばかりしてた。一人で全国を旅行してた。僕は家出が大キライだったのね。「お前、帰ってくるのにどうして家出なんだよ」って気持ちが強かったな。僕は一週間ほど旅行に行ってきますっていう書きおきをおいてよく出て行った。帰ってくるとちゃんと勉強するから成績はすごくよかった。

●そんなマジメな高校生を変えたのはやっぱり寺山修司だったの?

寺山さんと逢ったのは高校1年の時だったんです。寺山さんの『草迷宮』という映画のオーディションがあったんです。僕は当時、本当に勉強とバレーボールと旅行しかしてなかったから、寺山さんのての字も知らないし、本もなんにも知らないんですよ。朝日新聞の募集がのったのを友達がもってきたんです。そいつが無類のオカルト好きで、この映画はどう見ても「すばらしいオカルト」だって言うんです。でも、応募に行ってみたら全然オカルトじゃなかったですけどね。で、練習してる間に寺山さんが撮った『書を捨てよ街に出よう』なんかを観てね、もうガチョーンですよ。ものすごいショックだった。だって今まで、こんな「価値観」が世の中にあるなんて思わないもん。寺山さんの世界に憧れたっていうより、寺山さんの「価値観をくずす才能」に憧れたんだね。

●別に役者になろうと思ったわけでもないんだ。

そうだね。僕はこの映画だけで止めようと思ったし、高校もあったから。僕の目標はサラリーマンになることだったの。ウチが自営業だったってこともあるけど、奥さんにブ厚いサラリーを渡したいなと思って、そのことがずっと捨てきれなかったのね。だって小さい時からそう思ってたからね。

●じゃ、別に役者でなくてもよかった?

そうですね。とにかく既成のものを壊したかった。音楽でもね、メロディーがあってリズムがついてっていうのとはちがうのね。それより、「月の光をイメージさせる音」とかね。寺山さんがよく言ってたけど、石と鉄とか、いろんな素材をぶつけるとどんな音がするとかね。夢想してる。

●バンドそのものをやる道のりっていうのは?

やってみるとね、なんか違うなと思いつつも楽しかった。これはいろいろもりこめるゾみたいなね。とにかく僕はロックとか既成の音楽じゃないものをやりたいわけ。だけど正直言ってそれが何なのかわかんなかった。だからこの際ちゃんとつきつめて、自信のある形を提示したいなと思って。そのためには、すごく時間がいるし、しっかり考えなきゃいけないし、パワーも場所も金も必要だよ。いつもいろんな雑誌で言ってもわかってもらえないんだけどさ、僕は今までみたいな意味で、音楽やりたい気持ちはゼンゼンないわけ。役者とも音楽とも全然離れたところをやりたいんだよね。やればやるほどそのどれからも離れて行っちゃうことをやりたいんだよね。

●それは例えて言えば何に"似てる"んだろうね?

そう、何に似てるんだろう。そういう言い方って面白いね。何に似てるんだろ。この間イタリアに行った時にね、帰りの飛行機の隣に画家が座っていたんだよ。「どんな絵を描いてるんですか」って聞いたら、「私は、今配合されてる色は使いません」って言うんだ。例えばレストランで食事してる時にお客さんがいい宝石とか身につけてたとするじゃない。そうすると、「ちょっとけずってくれませんか」って言ったりするらしいのね。なんかそんなことを連想するね。

●これからの三上博史の計画ってどんなものなの?

これははじめて喋るんだけどさ、僕は実は5年計画の中で生きてるんですよ。もう2年間は使っちゃった。あと3年の間に出ます。ベースを海外に移します、絶対。言い切っちゃいますよ(笑)。まあ、出稼ぎに帰ってくるかもしれないけど(笑)。その場所を探しに実は世界中旅して回ってるんですよ。まあ、N・Yかな。で2番目がロンドン。3番目になるともうとんでもない所でね、シエナとかメルボルンとか。外国のアーチストたちっていうのは、とても日本人がたちうちできないような狂気をもってるでしょ。やっぱそっちに行くしかないかな? 私はどーすればいいんでしょう(笑)。

'n

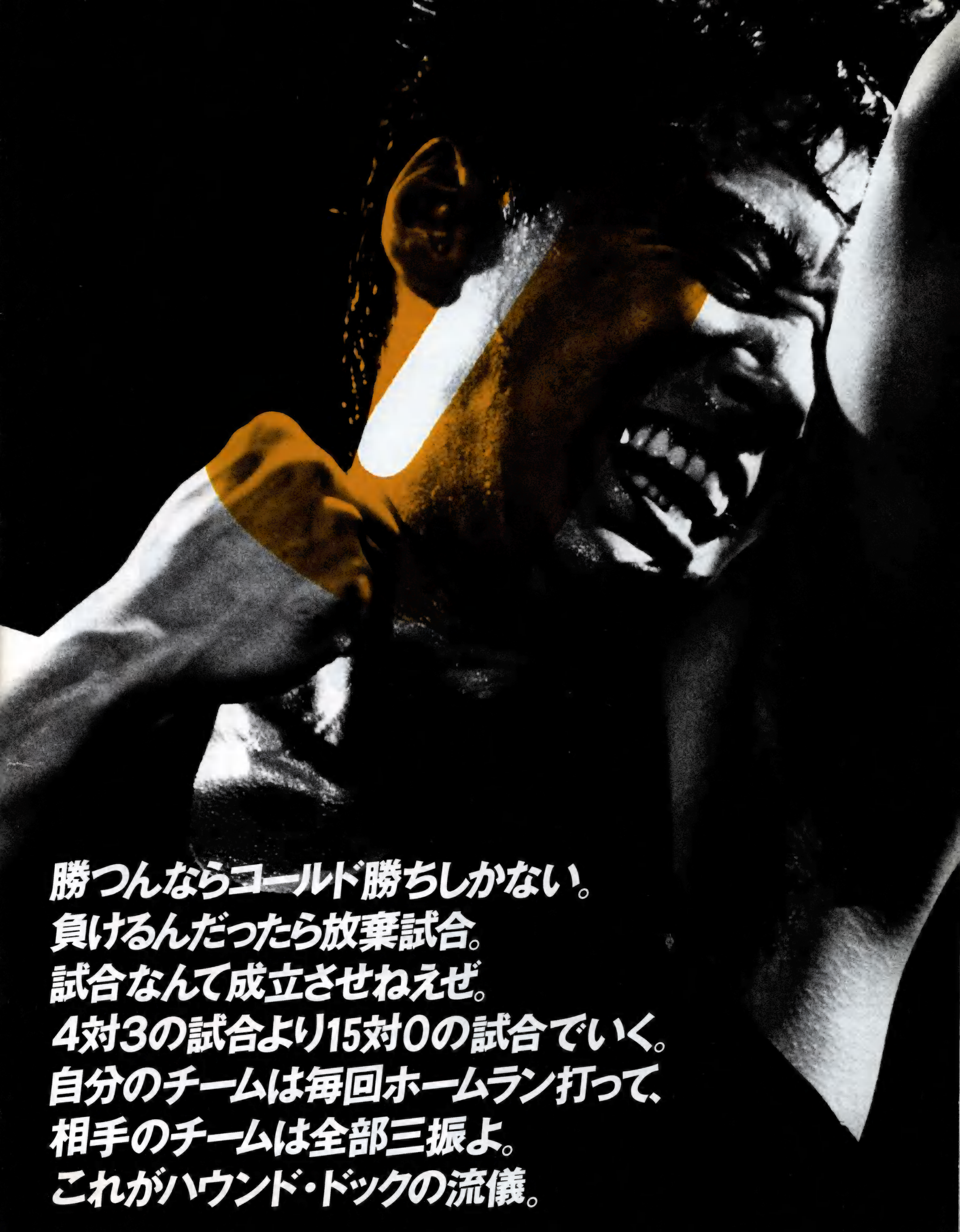
OHTOMO KOHEI

人間、大友康平。半沢克夫、撮影。

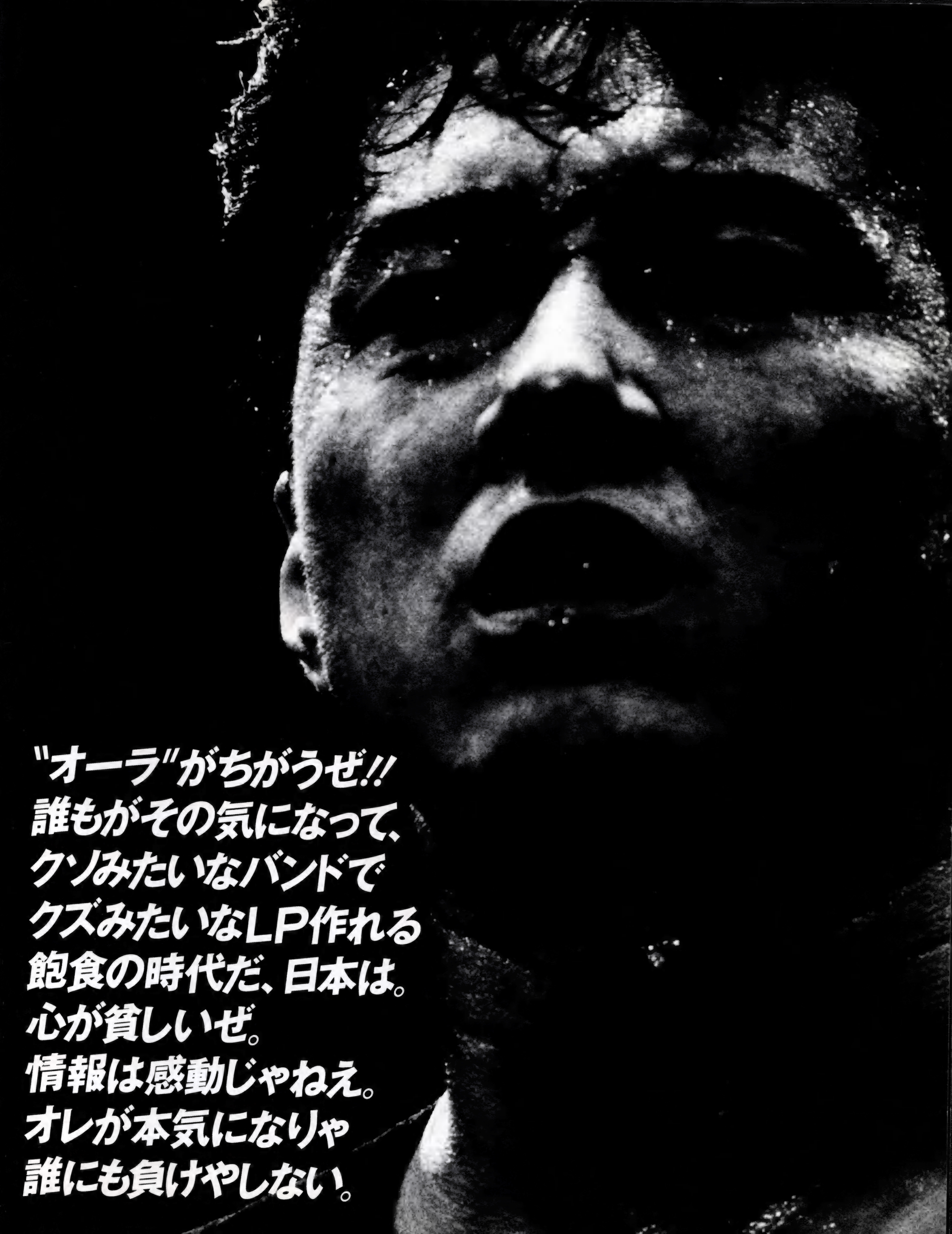


PHOTOGRAPHER:KATSUO HANZAWA

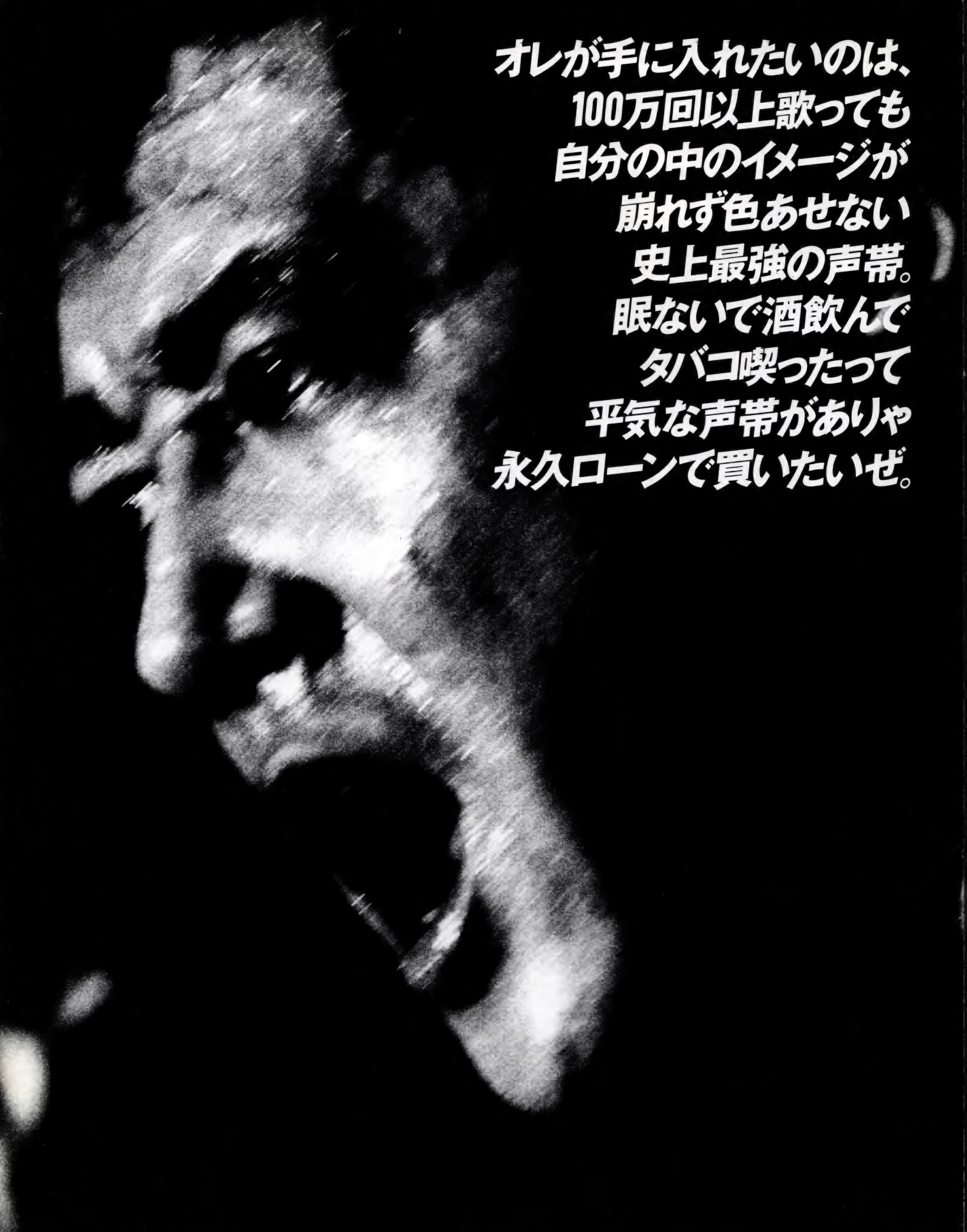
Kohei Ohtomo was born in 1956.
He is a leader of the greatest rock'n'roll band in Japan, HOUND DOG.
Powerful! Exciting!
They performed in Budohkan-11 days concert,
Seibu stadium-5days concert.
They established many records in Japan; anybody couldn't break.
R&R NEWSMAKER presents amazing photos shooted by famous photographer Katsuo Hanzawa.


勝つんならコールド勝ちしかない。
負けるんだったら放棄試合。
試合なんて成立させねえぜ。
4対3の試合より15対0の試合でいく。
自分のチームは毎回ホームラン打って、
相手のチームは全部三振よ。
これがハウンド・ドックの流儀。


今だにオレ絶対に
歌がヘタだと思う。
うまく歌おうなんて
全く思ってないね。
自分の血を熱く
するのが歌だから。
〝やせた夢〟かも
知れないけれど、
本気になり続けて
いたいんだ。



"オーラ"がちがうぜ!!
誰もがその気になって、
クソみたいなバンドで
クズみたいなLP作れる
飽食の時代だ、日本は。
心が貧しいぜ。
情報は感動じゃねえ。
オレが本気になりゃ
誰にも負けやしない。


オレが手に入れたいのは、
100万回以上歌っても
自分の中のイメージが
崩れず色あせない
史上最強の声帯。
眠ないで酒飲んで
タバコ喫ったって
平気な声帯がありゃ
永久ローンで買いたいぜ。



PHOTOGRAPHER : MASARU SUZUKI

Eikichi YAZAWA + RYU Murakami

[How To Be Bigger]

A great Rock'n'Roller, Eikichi Yazawa comes back to Japan. He has made a legend of Rock'n'Roll success story in Japan, called "Nariagari". He has been biggest rock artist in Japan and gone out Japan to the world, to be biggest of the world!

これは永遠だなって思った。何が!?ロックさ。
矢沢永吉＋村上龍

YAZAWAが帰ってきた。レコード会社も移籍し、心機一転・気迫十分のロンドン録音アルバム「共犯者」（東芝EMI・7／21発売。同名シングルは7／6発売）は、YAZAWAの新たな成り上がりぶりが伺える。1年振りのメディアへの登場を迎えるのは、旧知の友、作家の村上龍。共にインターナショナルであろうとする新日本人が、それゆえに持つ苦悩と幸福感をリアルに語り尽くした。

矢沢　今日は嬉しかったのよ、龍に会えるってね。

村上　オレも嬉しかった。元気そうだね。昔も元気だったけど、それよりもっと。

矢沢　今、ハッピーよ。それがカオとかに出ているんじゃないのかな。龍はどうなの。テレビで司会とかやって頑張ってるってことは聞いたけど。

村上　まあ、アレは飲み屋にカメラが来たような

[How To Be Bigger]
Eikichi Yazawa + Ryu Murakami



ものので、アルバイトのようなものだね。小説の他で今、面白がっているのはF1なんだ。永ちゃん、『グッバイ・ヒーロー』っていうF1の映画で音楽やっていたでしょう。

矢沢　そうそう。いいんじゃないかなと思って。何で？

村上　ウチの女房って音大出身なんだけどさ、ドメスティックな感じが大嫌いなんだよね。ジャズ聴かせても、すぐ向こうの人がやったのか、それとも日本人がやったものか分かるのね。でも、あの映画を見て、音楽を日本人がやってるものとは分かんなかったみたいよ。

矢沢　それっていいことなのか悪いことなのか、紙一重ってところがあると思うよ。

僕はさ、約八年前に矢沢ファミリーみたいなのを解散してアメリカに行ったわけじゃない。それでドゥービーブラザーズのメンバーに出会ったりとか、TOTOのメンバーと曲をつくったりとか、日本のミュージシャンから見れば非常にビッグなことをやっていて、初めのうちは「おう、やっぱりアメリカは違うぜよ」みたいな感じの憧れが先行していくわね。

ところが、二年三年経って中身が分かっていくうちに、そんなアメリカだ、日本だと言ってられねえと。お前は何なんだってことになる。お前がアメリカなら俺は日本人だと言い切って、その上で音楽つくってるんだという、いわゆるプライドの問題にブチ当たってくるのね。

アメリカに対する憧れなんかも超えてしまっていろいろ分かってくると、もっと深く、実際に日本のマーケットでレコード聴くのはどのへんをポイントにしているのかとか、ではアメリカの場合はどのくらいのレベルなのかってことを考えるようになるわけ。

そういった時、必ずしも例えばスネアの音がニューヨークのギンギンのライブナウの「バーン」とした音がいいのかっていうと、そうとも言えないわけ。日本人はちょっと「バタン」とたるんだスネアで育ってきているからね。

村上　それはそうかもしれない。

オレのポジションは、自分の可能性を試し続けることだ

矢沢　もしオレが白人と同じスネアでやったとするでしょう。そうしたら、矢沢のファンは別として、日本人は絶対白人の方を買うし(笑)。だから非常に矢沢がやっていることというのは効率の悪いことだと、自分で思うのね。もちろん俺は負けないぞって同じくらい思うけど。

そこで龍さア、オレ考えた。オレがやってきたこのポジション、変えられないでしょ。ユーミンにしても達郎にしても、みんな自分のポジションというかカラーを持っている。オレの位置は何かっていうと、とにかく海外に出て、いろんなミュージシャンと出会って自分の可能性を試せるっていうの？　そこで一歩間違えると意地なんかが先行してしまうんだけど、いかに自分を変えないでしかも最高のアーチストと仕事をしていき、新しい自分を発見していくか。そうするとオレの可能性なんてもう無限なのよ。これはスゴク面白いことでね。

海外に出て得たそういうポジションをオレは自分の財産だと思うし、今のオレの仕事だとも思っている。ただユーザーから離れ過ぎてるという点においては、完全にアメリカに行っちゃってるのはいいとは言い切れないってこと。

村上　でもオレはあえてイイって言いたいね。スゴイって。何故かと言うと、F1を例に取るとさ、オレ、中島って好きなんだよ。

彼の評価は日本人の中で割れているのね。F1関係のジャーナリストなんかでも、ほめるやつはスゴイほめるわけ。要するに最初のF1でしょ、大変なのよやっぱり。F1にしろ、テニス、ゴルフ、野球にしろ、日本国内でやってるのと世界のトップでやるのとでは、違うジャンルのスポーツを比べるぐらいの差がある。そのトップのレベルにあえて出ていくというのは、絶対に今の段階でいうと、ギャラは落ち、収入は減ると思うんだよ。日本って金あるから。それを承知の上で行った中島ってオレは評価するね。

ただ残念ながらサーキット見ると中島は明らかに遅いんだ、悲しいくらいね。でもプロストなんかと混じってやってておかしくないレベルってのは、やっぱりスゴイと思うよ。

矢沢　龍のように言ってくれる人、一般的には少ないよ。だけど、少ないからイジケるとか、逆のこと言われて頭に来るとか、そんなことない。結局勝ってなんぼのもんだから。自分にとって経験を積む価値とかはほんのちょっとのもの。中島さんだって絶対勝ちたいだろうし、矢沢だってやっぱり売りたい。一等賞とりたい。

世界最高のレベルとやる者は、その楽しさを知っている

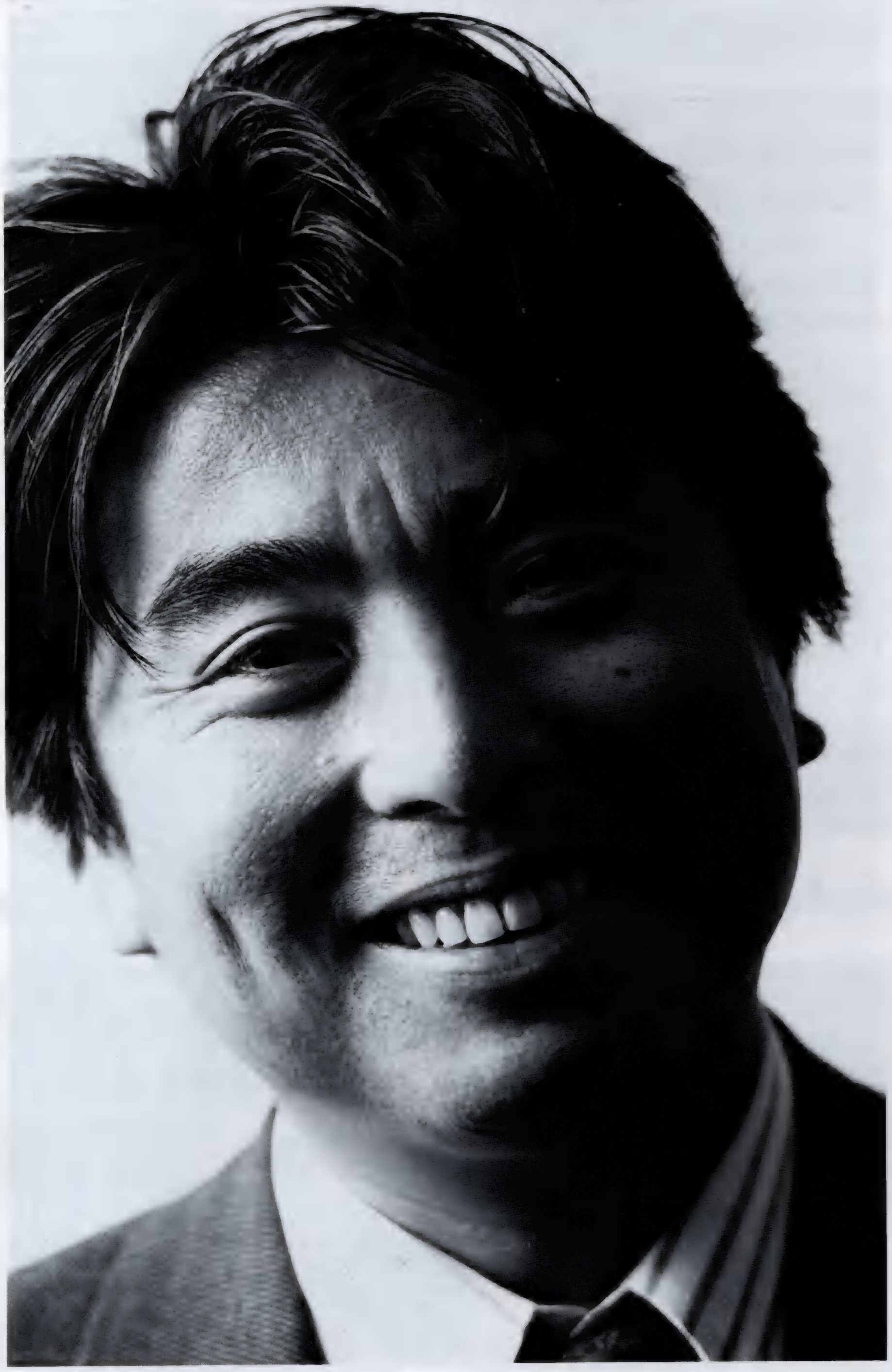
村上　一等賞。いい言葉だね。もちろん世界のトップとプレイするだけで満足しちゃいけないけど、やっぱその方が楽しいと思うのね、オレのポリシーとしてはさ。

また他の世界から例を取ると、サッカーで釜本っているじゃない。あの人、今でも燃焼し切れてない飢えみたいなものを感じるのね。それから奥寺はドイツのチームにいて、別にスーパースターになったわけじゃなくマイナーリーグに落ちたりしたんだけどさ、どことなく彼の方が会ってて楽しそうな顔をしているのね。サッカーなんかにしても基本的には仕事だけど、遊びでしょ、男の。

ケンカだって強いヤツとやった方が楽しい。ふっきれた顔になるのよ、やっぱり。オレとしては、最高のレベルと何かをやることの楽しさを知っている貴重なヤツは、楽しさをもっと言った方がいいと思うんだよ。

矢沢　龍の言ってること、よく分かるよ。でも考えてごらんよ。もし龍の言ったようにやったとしても、日本でのマーケットをかなり意識した場合は売れ行きが心配だから、それだったらまだ国内でやっていた方が安全パイだっていうのが圧倒的だからね。

村上　まあ要するに永ちゃんがアメリカに行ってしまったというのは、江川が大リーグに飛び込んで行ったようなものでしょ。アイツは絶対に行かないけどさ(笑)。行くヤツと行かないヤツ、それはもう単純にキャラクターの差。



矢沢　かも知れない。みんな価値観違うしね。オレがバーンとアメリカに行った時、周りはビックリしたもの。「信じられない。日本でこうやってヤザワってあるのに、何故全部やめてアメリカに行くのか」って。それはもう食べ物と一緒で、好き嫌い、価値観の違いだよ。

　本人は多分絶望してたんだろうな。武道館も後楽園球場も全部やり尽くしてレコードも売れた。だけど明けても暮れてもツアーツアー、レコーディング。つまんない。進歩もない。刺激を受けたい。アメリカ行きたいと。でも、そこで守りに入るヤツが悪いのか、そんなことないって思う。

村上　そんなことないのかな。

矢沢　みんな個人の価値観の差。オレの場合は苦しくて、行くしかなくて行ったんだよ。

村上　よく分かる。だけど、音楽やスポーツっていうのは世界共通のもので、アメリカではどっちも世界に通じていく流通みたいなものをアッという間に作ったわけじゃない。日本人はコンサバティブになんかなっていないで、もっと世界共通の音楽をやっていることの意志を持たなくてはダメだと思うけど。

日本のユーザーはシビア。だからこそ絶対勝とうと思う

矢沢　龍、業界の人間はともかくとして、レコード買うユーザーたちっていうのは、もっとシビアだよ。日本のユーザーは非常にシビア。例えば、オレがアメリカのキャッシュボックスやビルボードのベストテンに入ったら、彼ら一躍矢沢を認めるからね。だけど、その前の段階では、どんなに頑張っても意味がない。だから厳しいって言えば厳しいのよ。アメリカで賞をバーンととったら「やると思ったんだよね、オレは」っていう風に見る目から何から変わっちゃうから（笑）。

　これが世の中なんだよ。それだったら、ものは考え方で、絶対勝とうと思うよね。レースの世界にしても音楽の世界にしても、情けに訴えるもんじゃないもの。勝てば官軍。

村上　諦っていいこと言ってる（笑）。

矢沢　クオリティがいい悪いというのは別の話。やり方はいろいろあって、例えばハートを売らないでクオリティを追究するのは、オレ非常に前向きだと思うんだよね。それと、売れるためには魂でもオケツでも貸しますよっていうのは、もう根本的に違うわけ。だから、オレが最近スゴク感じるの、ベーシックなものを絶対キープした上で一等賞を獲ることは大事だなって。

村上　オレね、ちょうど永ちゃんがアメリカ行った頃かな、映画撮ったんだよ『だいじょうぶ、マイフレンド』っていうの。これがさ、派手なコケ方で。負債がスゴかったんだけど、その時いろいろ分かったの。オレはホラ、基地の町の生まれでさ。少しは分かってるわけじゃない。向こうとこっちのレベルの違いとか。

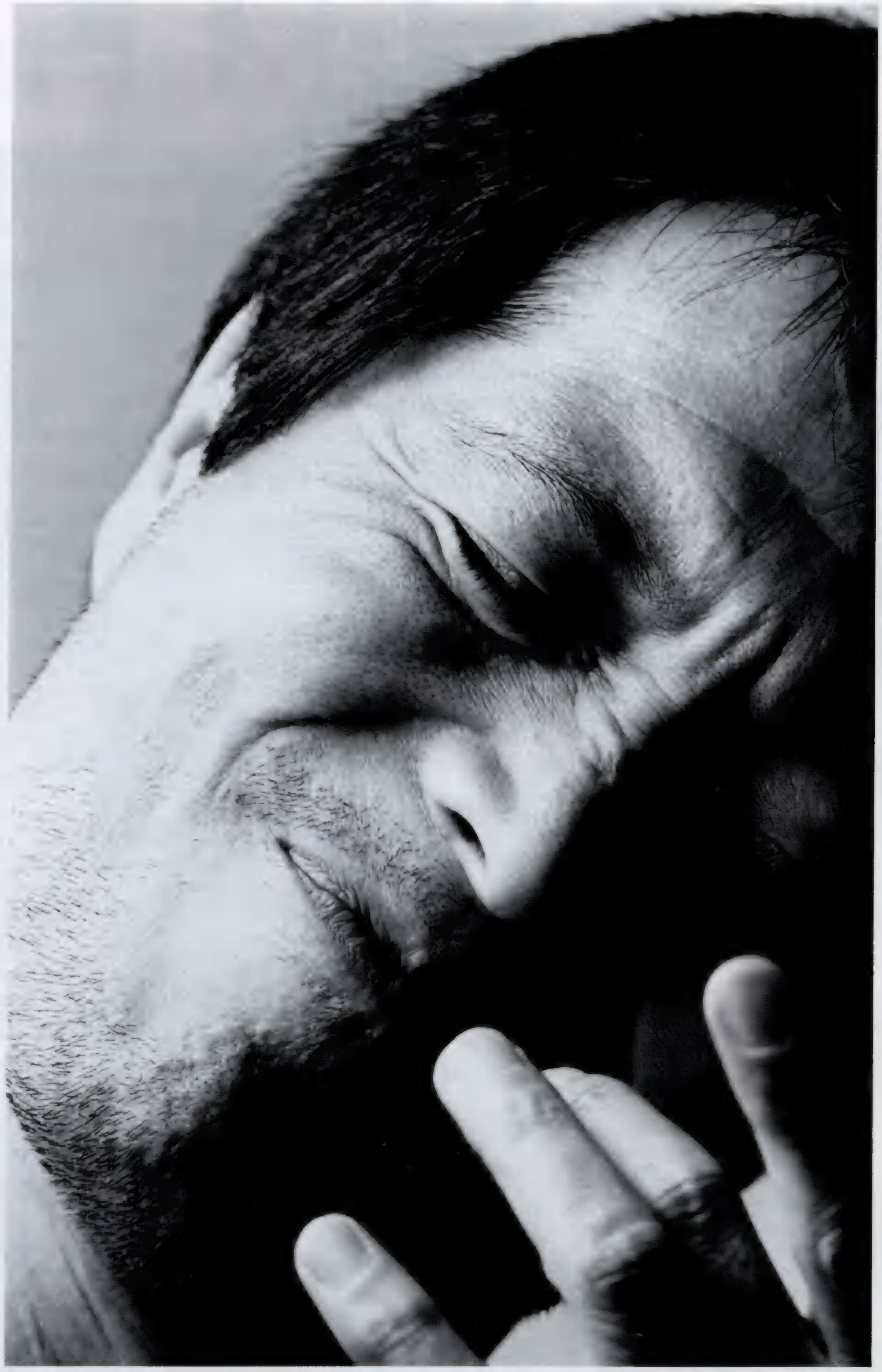
　ところが実際に一部特撮とかロスに行ってやってみて、ライティング一つとっても根本的な歴史の違いっていうのを感じたんだよね。明り一つ何でこんなに違うんだろうと。それでオレは基本的に、何でも歴史の長い、深い方がうまくいくと思うんだよね。だから機会さえあればぜひ向こうでスゴイヤツを撮りたいと思っているの。

　例えばニューヨークやロスに日本からレコーディングしにいくヤツがジャリタレでも何でもいっぱいいる。だけど結局の話、向こうで売るってポリシーが全然なくって、見栄で「レコーディングしてきました」って言いたいがために行くでしょ。

矢沢　ホント、ネコもしゃくしもやるもんね。

村上　そういうのって、言ってみれば、農協の人がさ…農協バカにしちゃいけないけど、金髪買いに行くのとあんまり変わんないように感じるのね。

矢沢　オレと龍が話してると日本の悪口ばっかりになっちゃう（笑）。



多くの日本人は次の目標が分かってない。だけどオレたちは分かっている。

今、日本はスゴイ勢いでここまで来ちゃったから、絶対何かモレがあるんだよね。酒だって何だって、熟して熟してカタチになるんでね。ワインでも、寝かして寝かして造るのと、五年ばかりで「ハイ、ワインです」(笑)というのでは、完全に味、違うからね。今のは関係ない話だけど、日本はこれからそのへんで悩んでいくんじゃないかと思うね。音楽だって同じ。そろそろみんなが頭からガクンと気がつく頃だと思う。

村上　近頃オレが漠然と思っていること言うね。今、『タッチ』という写真雑誌で、今から十年前の写真をもとにしたエッセーを連載しているんだけど、そうすると、十年のうちで一番デカイ変化は、やっぱり円なんだよ。よく言われる話だけど、明治時代から日本人は、円を何とか国際的に通用する通貨にしようと目標にしてきて、今一応達成されたと。じゃ次は何なのかって分かっていった時に、多くの日本人はもう分かんないわけ。だけどオレたちは分かっている。そういうことだと思うんだ。

矢沢　なるほどね。

村上　音楽なんか、一番最初に世界に出ていきやすいと思うんだ。だけど、誰も出ていかないから、今向こうの連中というのは日本人のこと分からなくて恐がっているんだよ。

金もうけて、例えばそこでパーッと女遊びでもすれば「ああ、こいつはすけべだったのか」って分かって安心するけれど(笑)。何も考えずにコツコツ貯めちゃ土地買ったり、証券買ったり。こりゃあ不気味だよ。

オレは分別のつく成り上がりに成り上がったと胸張りたい

矢沢　そうねー。昔オレよく言ったことなんだけど、開発途上からまあ一等国になった今、個人個人の例えばマナーにしてもポリシーにしても、はっきりした自信がないのね、みんな。向こうにいるとよく分かる。だから少なくともオレは、アメリカ人、イギリス人の目に映る自分は常にカッコいい矢沢でいたいと思っているの。

あえて世界的に有名なミュージシャンたちの間でオレは胸を張ったよね。それで名文句。「お前たちは世界のナントカか知らんけど、オレは日本の矢沢だ。日本に来たらオレの方がボスだってことをキープマインドしとけ」って。そうしたらオレの顔見て笑って「ヤザワ、お前みたいな日本人会ったことないよ」って。ある種、面白いヤツだとも思ったんだろうけど、恥ずかしがらずに堂々と胸を張って、最低線のマナーを保って言えば、自然と対等とかフレンドリーな関係になっていくんだよね。

『成り上がり』って本書いたけど、今は別の意味で自分のこと成り上がりだと思っているからね。つまりオレはちゃんと分別のつく成り上がりに成り上がったんだって。胸張りたいと思うよ。

村上　やっぱり、パリのどんな一流のレストランに行っても堂々と出来るようになりたいよね。

矢沢　昔よく言ってたんだけど、パスポートなんかもちゃんと身元を調べて発行するべきだよ(笑)。プライドの検査をね。ただ儲かってチケット買ってヨーロッパ・ツアーに行ったところで、日本人ロンドンなんかで集まるとこ、決まっているから。本当に自信ないんだろうね。もうここに来て自信なくてゴマカす時期過ぎたと思うよ。

みんな言うじゃない。「いやあ日本には独自の文化があって、シャイであることが美徳でウンヌン」って。でも江戸時代はとっくに終わったんだし、現実はもう昭和の戦後四十年、一九八八年だと。大和文化だかヘチマだかっていうのはもう消せっていうんだよ。そう思わない？

村上　大体の人間は、自分のやりたいことやって



[How To Be Bigger]
Eikichi Yazawa + Ryu Murakami

金をもうけたわけじゃないから、プライドないんだろうな。自信っていうのは、自分の中で何か欲望があって、それを頑張ってやり遂げた時に出来るんだから。

矢沢　ここにきて、最近オレが非常に思うのは、自分がとてもハッピーでやってるから、そういうことがスゴク大事だなと思うのと同時に、ハッピーであること自体が自信につながっているような気がするね。

村上　ハッピー、難しいね。

矢沢　今の龍は、かつて矢沢がさんざんぶつかったカベみたいなものにあたっているんじゃない？ 龍もあと何年がしたら、今オレが言ったハッピーてのも分かると思う。

村上　その頃イライラしてた？

矢沢　イライラも何も、オレなんか本能的にこの業界ってクソだと思ってたから、いつもアタマ来てたし、だから業界の人間と全然付き合わなかったじゃん。

　キャロルでデビューした時も、もともとはビートルズを夢見ててさ、一発当ててキャデラック買ってという非常に純粋なロックンロールのハートできたからさ。

村上　ものスゴク分かり易い（笑）。

矢沢　だってオレなんか何で歌うのかって言ったら、「何か儲かるらしいじゃん、この業界」って最初に言ったんだから。その後すぐに「でも僕、音楽も好きですから」とか付け加えたけど（笑）。それでヤダヤダ言いながらとにかくやって来た。今となったから、こんなものだろうというのが見えてくるわけでね。

　だから龍、これからの矢沢見てて。これからのオレは面白い。何で面白いのか。これからは一言で言って老化現象との闘いだからだよ。人間ラクしていいもん出しちゃダメよ。闘ってる中から出るもんってのはステキだからさ。今、昔みたいに二日酔いして武道館なんかやったらオレを殺すのかってことになるからな。

　ステージはキツいよ、だんだん。オレ三十九だぜ。

村上　面白い。

ロンドンで、これは永遠だなって思った。何が!?ロックさ。

矢沢　闘いながら湧き出るパワーね。これは面白いよ。

　今の話から聞けば分かってくれると思うんだけどね、龍。オレこの間ロンドンに行ってさ、ちょっと恥ずかしいんだけど、オレ、もう革のジャンパーが着たくてしょうがなかったのね。それで即、店に飛び込んで革の上下を買ってさ。まるっきりキャロルだよね。で、カウボーイブーツをはいて、頭は床屋に行ってボーズにしようと。バリカンでギューッとやってもらって、ツルキンよ（笑）。それでヒゲぼーぼー。もうハッピーでハッピーで仕方ないの。で、レコーディングして、週末酒をガバガバ飲んで、その最中、これは永遠だなって思ったことは何かっていうと、ロックなの。

　ファッションに取らないで。周りの流れとか関係なく、心の底からオレはこれからはロックしかないと思ったもん。

村上　へえー。

矢沢　オレ、その前には体力から言って、あと五年歌えるかなって考えていたのね、実は。妥協までして歌いたくねえと思って。だったらオレ、バラードが得意だからジャパニーズ・フランク・シナトラになってみせるってウチのスタッフに言ってたの。

村上　フフフ（笑）。

矢沢　四十五、五十になってもバラードのきっちり歌える男になろうと。でロンドン行ったじゃん。「シナトラ？ バッキャロー、それは五木ひろしかなんかがやればいい」（笑）と思ったよ。

村上　それは、きっと永ちゃんに波が来たんだね。ガーッと。

矢沢　この時期にもう全てが来たって感じ。オレちょっとキザだけど、使命感じたよ。今、日本中でオレが現役でロックやってる最年長になってきたけど、オレがギンギンにやっていかないで誰がやるんだと思ったもん。シナトラ、完全返上。トシ取れば取るほど、セクシーなロックを歌い続けなくちゃダメと。

　それで今年、百十日間で八十回のツアーをやるんだよ。

トシ取ったら巨匠じゃなくて、ワンパクにならなきゃ

村上　八十回？ 今年？

矢沢　その日数でやるのは、オレ自身も過去にないし、日本人でも例がないんだって。自分でもやれんのかしらって思うけど、オレがハッピーじゃなければ、こんなチャレンジしないですよ。

　それでこれは龍の世界にも言えることだと思うけど、トシ取ったら巨匠になるんじゃなくて、ワンパクにならなくちゃ。四十越えれば越えるほど、ナンパよ。

村上　いいね、それ。オレもやっぱり十二年もやってるとさ、「何か作風が円熟してきましたね」とか（笑）言われるわけ。で、オレ自身も結構難しく書かないで、こうサラサラッとね、読み易く、かつそこに重厚なテーマを織り込むとか（笑）って、わりかし小ざかしくなるんだよね。そんな時、昔みたいに切実というか、キリキリくるような感じが欲しくなるのね。

矢沢　もうオレは自分のキャッチも決めてあるの。「四十なりの不良性」ってね。オレは来年作詞家に詩を頼む時に言うよ。「いいからキレイゴト言うなって。四十の男があの女とオメコしたいっていう詩書け」って。

　それから一つ条件を言うと、こういうことは現役でやってないとダメ。裏方に回って、誰かに曲を書いたりプロデュースしたり、教えたりしたら、もうリタイアと同じ。ミック・ジャガーが誰かに曲を書くかっつーの。オレもよく曲頼まれるけど、絶対書かない。いい曲なら自分で独占して歌いたいよ、現役なら。

　それで、残念ながら日本ではまだミックほどのクラスの現役はいないから、矢沢は絶対そのへんもこだわってやっていかなくてはって感じてる。

　そして、これから先思い出に耽ってトシとっていくか、それとも過去をわざと尻目に見ながら、自分に「FUCK YOU!」って言ってやれるか、どっちかだと思う。矢沢は言い続けるよ、永遠にね。

EMI EARLY



全世界同時発売
LONDON RECORDING→JAPAN RELEASE
6/25シングル
VOW WOW
ROCK ME NOW
XT10-2019 ¥1,000
RT10-2107 ¥700
NEW ALBUM COMES IN AUTUMN
JAPAN TOUR IN AUTUMN

JUST ONLY SUMMER OF YOU
池田政典
君だけ夏タイム
XT10-2016 ¥1,000
RT07-2108 ¥700
ZX10-6136 ¥1,000
8/24ニューアルバム

池田"LIVE"政典
7/23(土) 日比谷野音 17:00 OPEN 18:00 START
HOT STAFF PROMOTION 03-478-8888
7/25(月)26(火) MIDシアター 18:00 OPEN 18:30 START
キョードー大阪 06-345-2500





伊藤銀次のソロ活動を、最新作「Hyper/Hyper」まで
あますところなく伝えるHistory Best
7/6ベストアルバム
伊藤銀次
CHANGES(チェンジズ)—History of GINJI—
CT32-5242 ¥3,200
RT28-5242 ¥2,800
ZT28-5242 ¥2,800
●完全ディスコ・バイオグラフィー/完全ワーク・リスト付
●「幸せにさよなら」(New Re-Mix Version)で収録。

心への音楽
TOSHIBA EMI

HIN'NOSE

ーミーから送られてきた FAXダイアリー。

やられたー!!

の報告…。

5月27日、Fuckin' Friday ————。

PM3 → PM6、ヴィレッジで買物をする。めずらしく大量に買いこむ。遅い朝食をすませ、Hotelに戻ると、盗難にあっていた。わずか3時間の間に、なんてズルドイ盗っ人だ。昨日かったばかりのJBLのスピーカー2個。日本から持ってきたラジカセ。皮ジャン。皮ジャンのポケットにはアメックスが入ってたんだぞ——。それだけではない。バッグごと全部ないのだ。下着(Tシャツ、パンツ、くつした)と本しか入ってないのになんてバカヤロウなんだ。あ——。俺の世界にたった一つしかないあの有名なズタボロジーンズもやられてる。あんな物とって何の役に立つっていうんだ。バカめ。なんでもいいけどつまり、きれいさっぱり盗まれてしまった。武士の情けか、No cutのエロ本一冊だけが無事だった。アメックスがなくなってしまった今、クシャクシャの10ドル札が一枚。ど————すりゃいいのナン!!

Represented Worldwide by Utell International

LAUG

N.Y.のチャ



Ass hole!
HOTEL GRAMERCY PARK
Gramercy Park Hotel
21st St. and Lex. Ave., NYC 10010
(212) 475-4320
out of town call 1-800-221-4083
Cable GRAMPARK
Every bode watch out!!
Like a mother fxxker!

気鋭のノンフィクション・ライターによる重量級ロック・ジャーナリズム連載第1弾!!

イッツ・オンリー・ロックンロール・ジャーナリズム

武田 徹

浦和ロックンロール・センター物語

1988年4月5日。ある雑誌編集部に向かうため降りたった水道橋の駅で、僕は奇妙な経験をした。

改札口から人影がホームまで溢れ出している。僕は、漠然と連想を働かせていた。後楽園球場の至近駅だ。運悪く場外馬券の発売日に当ったか、あるいは巨人、ヤクルト戦で長島ジュニアが先発でもしてくれたのか――。

階段を1段、2段と降りる。次第に情報が整理され始める。ディップで固めた髪、黒いラメ入りジャケット。ファッションのメッセージは、もはや明確だった。どうやらロックコンサートに向かう群衆の中に飛び込んでしまったのだ。

もっともコンサート自体は、別に珍しくもない。しかし遅々として進まない人の列に並んでいる間じゅう、どこか落ち着かない居心地を感じ続けていた。何故か。その理由は、改札職員に切符を手渡す瞬間に解明された。切符のかたちが違っていたのだ。僕のは小さなE電の切符、そして彼らは殆どが自動販売機では買えない大型の長距離切符。東京の街の真中だというのに、僕は、地方からやってきた人達に囲まれた、たった一人の東京人になってしまったのである。

何処から来たのか、何処に行くのか

思えば運命の糸は、その時から引かれていたのかもしれない。リミットぎりぎりで入稿できた安堵感を共有していた編集者が言った。「あ、そう言えば、スポンサーから貰ったチケットが余ってるんだ。良かったらコンサートいきませんか?」

何処で? 誰の?

「ビッグ・エッグ。バンドは、えぇと、BOØWYって書いてあるな」

へぇ、あの人混みがそれだったのか――。ファン諸兄には申し訳ないが、僕らの会話は熱狂からは程遠い、徹夜明け倦怠感の中に交わされている。

行きましょうよ……。僕は、彼らが長距離切符を買った駅を確かめたいと思い直していた。

そして1時間後。僕はビッグエッグのアリーナで、水道橋で合った連中と再会を果たしている。招待エリア最後列に陣どった僕のすぐ後ろでは、布袋寅泰そっくりの髪型をしていた少年が拳を振るう。演奏と一緒に全曲を唄い通してくれた彼のお蔭で、最悪の音響効果といわれた東京ドームの中でも、僕はBOØWYの歌詞を聞き取ることが出来たのだ。

「ガラスの中の退屈な街。さあ別れのキスをしておくれ……」

BOØWYの『季節が君だけを変える』には、そんな一節が唄われる。その日の東京ドームも、どこかの退屈な街から逃れ、はるばる地方からやって来た人達で埋まっていた。

しかし、どこから……。

You know many rock bands from suburbs around Tokyo. Why did Rebecca, Redwarriors, and many many super bands came from Urawa ? Is Urawa the new birthplace of rock'n'roll ? A long time ago, there's a radical activists group named Urawa Rock'n'roll Center. Do you know what was it ? This is a real history of Japanese rock'n'roll.

浦和を通過する線

たとえばBOØWYのドラマー、高橋まことにとっての「地方」を辿ればこうなる。

彼の振出しは福島だった。そこで彼は、〈グレープフルーツ〉というバンドに所属していた。そして上京、73年から76年の間、彼は浦和をベースに、銀座の〈スリーポイント〉というライブ喫茶に出演している。ウィズ・ドリンクで300円というチャージだった。所属バンド名は〈ヒーロー〉。元あんぜんBANDの長沢ヒロがリーダーだった。そして数々のバンドを転々とした後、前橋出身のバンドBOØWYと合流、ドラマーとして再び東京へ。そして今度は全国へと彼は飛翔してゆく。

福島から東京へ。上京の過程で彼が一度、埼玉で足を止め、東京に入る直前の地方都市、浦和に、拠点を得ているのは、偶然のことではなかったようだ。

ある雑誌の対談の席で、高橋まことは、次のように応えている。対談の相手は、レッドウォリアーズのシャケこと木暮武彦だ。

木暮　マコっちゃんをうちのバンドに誘ったんだけど、丁度その頃誘われてるバンドがあったみたいで、それがBOØWYだったんだ。浦和ロックンロールセンターってのがあって、俺はそこでバンドやってたんだ。

司会　バンド活動をやりやすい状況だったみたいね。浦和ロックンロールセンターっていうところ。

高橋　勝手やってたけど、場はいくらでもあった

ね。

（『アリーナ37』87年7月号）

シャケとまことの交流の場として浦和には、浦和ロックンロールセンター（以下URCと略称）があった。しかしURCとは何だったのか。それについてまとまった資料はなかった。まことの、そしてシャケの「地方」都市として浦和を語ろうとする時、URCが避けて通れない厚さで視界を塞ぐ。僕は、関係者の記憶の糸を手繰ってみようとしていた。

そこに日本のロック史がある

「70年代初めに、荒川河川敷でフェニックス・フリー・コンサートというイベントをやっていた。あと埼玉大学のオールナイトコンサートも浦和ロックロールセンターが一枚噛んでいたように思う。当時のTELは――」

音楽評論家森田淳一氏が記憶していた連絡先が最初の手掛りだった。疑心暗鬼でダイヤルを回す。5度の呼び出し音。そして――。2時間後、僕は浦和駅東口の喫茶店で、URCの設立者と対面していた。

「ベ平連の落ちこぼれのロック好きがあつまって何かやろうかって、軽い感じで始まったんだよね」

滝口修一氏が懐かしそうに回顧する――。

69年12月。振り続く雨は、夕方にさらに冷たさを増す。町中に貼られたガリ版印刷のコンサート広告は、哀れに濡れて剝がれ落ちてしまっていた。しかし浦和駅近くの寺「玉蔵院」の境内には、それでも200人近い「怒れる若者」達が既に集っていた。そこで、滝口修一氏の呼びかけた第一回野外コンサートが開催されようとしていた。

ステージに上がったのは、ブルース・クリエーション。友人の紹介が功を奏し、1万円のギャラでの出演を快諾してくれたまでは良かった。しかし竹田和夫の最初のピッキングが、滝口氏の表情を硬直させる。音がこんなに大きいとは――。周囲には住宅地が建ち込み、病院すらあった。案の定、商店会会長が血相を変えて飛んで来て、電源を切るとどなりたてる。何とか無事終了したが、滝口氏は痛感していた。環境作りから始めないと『日本のロック』は生まれない、と。その気持が、ロック環境をトータルに育てる団体として「浦和ロックンロールセンター」の発足に繫がった。

しかし、全てが五里霧中だった。なにしろ海外のコンサート写真を見て、これがモニタースピーカーか、などと感嘆している時代だった。それが当時の日本のロックシーンの実力であった。それでも72年の4月にURCは、フラワートラベリンバンドの帰国凱旋コンサートを埼玉会館で主催するまでにこぎ着ける。もっとも1500人のキャパは、500ぐらいしか埋まらなかったが――。

「日本のロックシーンでは期待株だったんだけど、演奏にはがっかりした。それでもビッグネームだから、演奏後、ありがとうございましたで終っちゃう。ここが悪いとか、互いに意見を交わし合えないと進歩がないな、そう感じていましたね」

高校卒業後すぐにURCに参加、トラベリンバンドのコンサートから、主要なスタッフとして最期まで働き通した高沢正樹氏が語った。そしてそれ以後、URCは日本のロックを育ててゆく意思の共有が可能なバンドに対する献身的なサポート活動へと大きく舵を切ってゆく。それは、具体的には地元バンド、あるいは特に眼をかけるに値する新人バンドを重視する結果になる。

活動の核は、年一度秋に浦和市の外れの田島ヶ原で開催されたフェニックスコンサートだった。それは73年の開始以降、コンスタントに2000人を集め続け、埼玉の名物イベントに育って行った。

また平行してプロ指向のアマチュアバンドの育成のためのコンサートも続けられた。「無名バンド総決起集会」と題されたコンサートは71年に始まり、年に、3、4回のペースで77年まで維持されている。高橋まことが出演したURCの「東京出張」銀座ライブは、73年から76年まで、松屋デパートのネオンサインがまぶしい貸しビル2階を借り毎週金曜夜に開かれる。

これらのコンサートのいずれかに関係したロックミュージシャンは、壮大な数に及んでいる。あ

On the Other Side of the River

FACT. 1

んぜんBAND、四人囃子、Pモデルは、URCと共に育ったと言って良い。他にも頭脳警察、ウエストロードブルースバンドなど、日本のロックの草分け的バンドがURCを経由しているし、ハイクラスアマチュア、セミプロ時代をそこで送ったメンツは、シャケを初め、ピンクのホッピー神山や、ホーンスペクトラムの中村ゆうじ、バービーボーイズ、フリクション、鈴木さえ子、アナーキー、水玉消防団、有頂天など、もはや枚挙にいとまがないのだ。

川こっちの理想境

ロックからパンクまで。かくも広い人脈がURCと関わっていた。その事実を知る時、疑問がふたつ残る。なぜURCは浦和という「街」で、かくもロックを育み得たのか。そしてふたつめ。なぜURCはそこまで日本のロックに貢献しておきながら、その名を広く留めることがなかったのか。

浦和とロックの繫がりを、溝口氏と高沢氏は異口同音に「川こっち」というキーワードで説明する。川とは東京都との境、荒川を指す。「あの頃、日比谷では野音やってたし、10円コンサートとかも既にあったね。でもなんでわざわざ東京まで行かなきゃならないんだって。川こっちでもロックやろうじゃないか。そんな気運があった（滝口氏）」

「結局、川こっちなんですよ。東京はもちろん音楽でも情報発信地だったわけだけど、浦和はその影響がいつでも受けられて、しかし厭になればいつでも地元に戻れる（高沢氏）」

まず首都へ反発する意気があった。そして東京とつかず離れずの浦和の位置は、歌謡曲、演歌が担ってた東京中心の音楽産業システムの端っこに潜り込み、しかし大きな資本に潰されずにロックを育ててゆく上で、実に有利だった。マスビジネスからの距離として、当時、東京駅から国鉄で110円の浦和はベストポジションにあった。

しかし、URCは、結局メジャーにはなりえなかった。

「金儲けが下手だったんですよ。悪友の一人が金なんてウンチだ。結果として出てくるものでしか

On the Other Side of the River FACT.1

TORU TAKEDA

ないって。そう言われると、すぐ納得しちゃう。ウンチ集めてもしようがなぇなって（滝口氏）」

　かくして田島ヶ原コンサートは、フリーコンサートとなり、自ら規模とパブリシティ能力を限定する結果にもなった。

「入場自由、料金自由って銘打って払える人には払って欲しかったんだけど、あの頃、誰も金なんか持ってなかった。でも、どうせ金払ってないんだから、客にこびる必要もない。ミュージシャンのギャラだって、最後の方でやっと2万円は出たけど、儲けるなんてとんでもない。で、ミュージシャンも、自分にとって気持ち良い音楽やらなきゃ損だって夢中になる。それが本当の演奏だし、だからお客さんにも悦んで貰えたんですよ（高沢氏）」

　しかし、ミュージシャンの志と関係各位の献身的協力、客の寸志だけで、なんとか維持してきたＵＲＣのライブスポット活動は、80年代まで生き残れはしなかった。市の公園で行われた田島ヶ原野外コンサートだけは、なんとか延命したが、さすがに熱を失いつつあった。

「デパートの屋上で、客寄せフリーコンサートとかが始まっちゃったから、ミュージシャンが、タダの裏には何かあるんじゃないかっていぶかるようになって――。反核とか戦争反対とか、スローガンでも掲げれば分かり易かったんだろうけど、それは音楽は音楽として気持ち良ければ良いっていう僕らの基本認識と一致しなかったから（高沢氏）」

　そして86年を最期に、田島ヶ原コンサートの灯も消える。時代はロックをビジネスとして構成し始め、ＵＲＣはその潮流に取り残されたのだ。今、滝口氏は、アマチュアバンドで楽しむ以外に音楽との接触を絶っている。そのバンドの名前は、彼一流の皮肉なのか「リハビリテーションズ」という

ビジネスは川を渡る

　しかしＵＲＣなき今も、浦和にロックは健在である。

　88年5月4日。ＢＯＯＷＹのコンサートから一ヵ月後。僕は、埼玉会館でレッドウォーリアーズのコンサートを観ていた。フラワートラベリンバンドがその半分も埋められなかった同じ会場で、レッズは前売券を僅か20分で完売させて見せた。

　地元凱旋コンサートを意識して、ボーカルの田所ユカイ豊は「田舎に来ると、やっぱり心がなごむぜ……」ファンサービスのＭＣを忘れない。

　このコンサートでも警備からモギリまで、ミュージシャン風情の若者がその任に当ってた。しかしそれはＵＲＣ関係者ではない。彼らは地元イベンター「バックステージプロジェクト」のメンバーだった。

「レッズが孤軍奮闘で頑張り始めた時、応援しようってとで始めた会社なんですよ。シャケとは高校で同期で、一緒にロックやってきたから」

　埼玉会館大ホールのドアから洩れ聴こえるレッズの演奏をＢＧＭに、バックステージプロジェクト取締役、杉本圭司氏が語る。彼はＵＲＣ時代の浦和ロックとの断絶を、次のように表現する。

「僕らは浦和ロックンロールセンターのように純粋じゃないですよ。まず僕らは会社だし、お金出しても見たいような良いものを作りたいと考えている。ビジネスとして成り立たせた上じゃないと、好きなことなんかやれないんですから」

　たとえば埼玉大学のオールナイトコンサートの興行権を、彼らはＵＲＣから引き継いでいる。そして〈持ち出し〉になりかねない学園祭コンサートを、模擬店の利益まで総動員し、なんとか商売としての成立に努める。確かにウンチだって、肥料につかえるとなれば軽蔑は出来ない。それがロックの新しい認識なのだ。

　殆ど口コミで情報を伝えていたＵＲＣと異なり、杉本氏はＦＭ浦和やＴＶ埼玉との共同戦線を張って奮戦する。ＴＶ埼玉では、これから延びそうなアーティストを取り上げ、1バンドだけで30分の放送時間を使い切るといった過激な構成すら辞さない。

「どこまで本気で売れようとしているか。それを評価しますね。大手レコード会社のディレクターを招いて、デモテープの作り方教室なんて番組をやったことがある」

　成功の過程として役立ちたい――。制作部ディレクター松本嘉雄氏が説明する。

　そして浦和ロック新世代は、言葉使いが違っていた。浦和で、なぜ一貫してロックが盛んなのか？　疑問に杉本氏はこう応えた。

「やっぱり川向こうだってことじゃないですかニューヨークとニュージャージーの関係と一緒で、都市への憧れがあってロックが育つんでしょう」

　え？　思わず僕は耳を疑った。しかし聴き間違いではなかった。いつしか浦和は「川こっち」として東京から逃れ戻る理想境ではなく、東京中心の視点で「川向こう」として、その屈折した個性が語られる地方都市になっていた。

　高度情報都市東京が見通せるから、一層、浦和に暮らす退屈さにコンプレックスが圧縮されてゆく。それをバネに東京に攻め上り、更に全国制覇を果たせ！　近くて遠い浦和の地理的特徴は、今や雄飛の条件となった。ハウンドドッグが、レベッカが、そしてレッズの成功が、その事情を物語っている。

移動するロックシティ

　取材が一通り終った後、僕はＵＲＣ最初のコンサートが行われたという玉蔵院に寄ってみた。再開発ですっかりモダンになった浦和駅西口界隈でも、そこには昔ながらの境内が残されている。木々が空を覆い、初夏の日ざしを薄暗くかげらせていた。本当にそこに２００人が集い、フリーロックコンサートが行われていたのか。そこはむしろ秋祭りの露店が似合いそうな小さな広場でしかなかった。対談の席で、川に隔てられた浦和ゆえの自由を満喫出来たＵＲＣ時代の郷愁に浸っていたシャケとまこと。もはや違う場所に立っている彼らだからこそ、過去は懐かしく美しい。

　当時28万だった浦和市の人口は、ベッドタウン化が進み38万人に膨れ上がった。今、浦和から東京駅まではＪＲで３６０円。交通費は消費者物価指数以上に上昇したが、街の片隅を走る埼京線も開通し、浦和は相対的に東京に近づきつつある。その結果、近くて遠い「地方都市」の限界は、浦和より更に遠い地に追いやられてゆく。埼京線と二階建て構造で走る上越新幹線は、浦和に行くのと殆んど大差のない時間で高崎、前橋へと人を運ぶ。それはＢＯØＷＹに続き、ＢＵＣＫ・ＴＩＣＫを群馬が生んだ事実とおそらくは無関係ではあるまい。

　浦和のコミューンに育まれたロックは、全国的なメディアにと成長した。地元出身のミュージシャンが唄ってくれる自分達の退屈な「街」の唄を聴きに、今やファンは長距離切符を手して新幹線に乗り、ビッグエッグへと集うのだ。日本のロック、それは一貫して、そして最近より一層、「地方」してるのである。

（第一話　了）



黄金病。
HOUND DOG大友康平、
最初で最後の写真集。
HOUND DOG PRESENTS
写真集『人間、大友康平。』
好評発売中！・定価2000円・小学館
PHOTOGRAPHED BY
半沢克夫
ハウンド・ドッグ・ヒットシングル『アンビシャス』絶賛発売中！ 175,000人の西武球場ハウンド・ドッグ西武球場5日間公演●8月20日・21日・26日・27日・28日／大阪球場2日間公演●7月23日・24日

AMAZON

スティングのアマゾン日記

スティングたちは90人の裸のインディアンの前で『フラジャイル』を歌った。「パレスチナ解放戦線の、パーティーに招かれたバリー・マニローの気分だったよ」と。

1

無邪気で、危険きわまりないスターの行動か。それとも社会派・正義漢のアーティストによる短いフィールドワークか。スティングのアマゾン探検記をお届けする。以下の記事は、同行カメラマンジャン・ピエール・デュティーユ（以下ＪＰ）による取材記事と『ロックンロール・ニューズメーカー』編集部によるＪＰへの追加取材によって構成されたものである。

スティングのワールド・ツアーは昨年11月、ブラジルから始まった。リオ・デ・ジャネイロのマラケーナ・スタジアムで20万人の観客の前で演奏したあとスティングたち――スティング、ＪＰ、スティングの恋人テゥルーディー・スタイアー、パーカッショニストのミノ・チネール――は、次のコンサート地ブラジリアへの間隙をぬって、飛行機をチャーターし、なんとアマゾンのジャングルに飛んだ。なぜ、アマゾンに？

実はスティングは破壊され続ける熱帯雨林と、迫害されるインディアンたちを守りたい、という問題意識を持っており、この事態をなんとかすべく基金の設立も予定しているのだ。

今、ブラジル政府は国立公園設立計画をたてている。この国立公園は、七五〇平方マイルの中に17のインディアンの種族を囲い込み、同時に熱帯雨林を「保護」するというもの。ブラジル政府の思惑は、彼らの住居を取り上げ、鉱物資源も豊富なその土地に大企業を誘致するものである。スティングは、そんなブラジル政府のやり方を非難している。そこでスティングは、自分の眼でアマゾンの現実を知るためにアマゾンに赴いたのだ。

スティングはピーター・ゲイブリエルらとともに第4世界（いわゆる第3世界の中でも、独立した営みを続ける国々）を支持し応援する活動をはじめている。来年、基金を作るという計画もある。既に50万枚以上のチケットは完売しており、そんな中でアマゾンのジャングルへ冒険旅行するなど、関係者は誰もが髪の毛を逆立てたに違いない。

2

60マイルの釣り糸、千匹の魚、五百個の電池、30のマッチ、60缶のトマトソース……。それはらスティングたちの親善のおみやげである。

彼らはこの短い旅行中に、ピューマに出くわしたり、狩りを行ったり、ボディペインティングしたり、川で裸で泳いだりした。またスティングの恋人トゥルーディが宿泊小屋の中で毒蛇を見つけ叫び声をあげ、恐怖で一晩中眠れなかったりした（幸いその蛇はカヤッポのひとりが棍棒で殴り殺したのだが）。

彼らはアマゾンの未開部族カヤポス族の酋長ラオーニと会う。

また、カマユラ族の長タクマと会い、言葉を交わした。タクマは一族の長老であり、最高のシャーマンとして知られている。部族の中では医者であり、物質世界と精神世界の媒介者としての地位を持つ。彼は、その強勒な精神力によって、70歳の老人にして若者のような肢体を持っている。タクマにはスティングが誰かわからない。「文明」と隔絶し、世界の外側で暮らす「超人」なのである。

ＪＰによるとタクマは、彼の薄暗い住居でスティングたちに、熱帯雨林の伐採によって地球が死にかけていること、そして彼らインディアンの迫害について、言葉少なに語った。

「彼と話すことは、タイムマシーンに乗って二千年を遡ったみたいだったな」とスティングは語る。

この旅行の終わりに、ラオーニは人々を守るためにインディアンがいかに戦ったかを語った。

スティングは「あなたとの出会いを我々は多くの人たちに話そう。あなたといっしょに過ごせてうれしかった」と語る。

やがてさまざまなインディアンたちが集まってきた。90人の裸のインディアンの前で、踊りと歌が始まった。スティングたちが歌う順番が訪れた。歌うべきか？　いったい何を？　この時の気持ちをスティングは「パレスチナ解放戦線の、年に一度のディナーダンスに招かれたバリー・マニロー」のようだったと語っている。ちょっとビビりながらも笑いを絶やさず、コーラスも少し外れたりしながらも、ア・カペラで『フラジャイル』を歌った。「暴力からは何も生まれない。何ひとつ。怒りの星の下で生まれてくるすべてのもののために、人間がどれだけもろく壊れやすいものなのか忘れないように。……雨は降り続くだろう。星の涙のように。雨は降り続くだろう。なんて人はもろく壊れやすいことか」との歌詞がアマゾンに響き渡った。

3

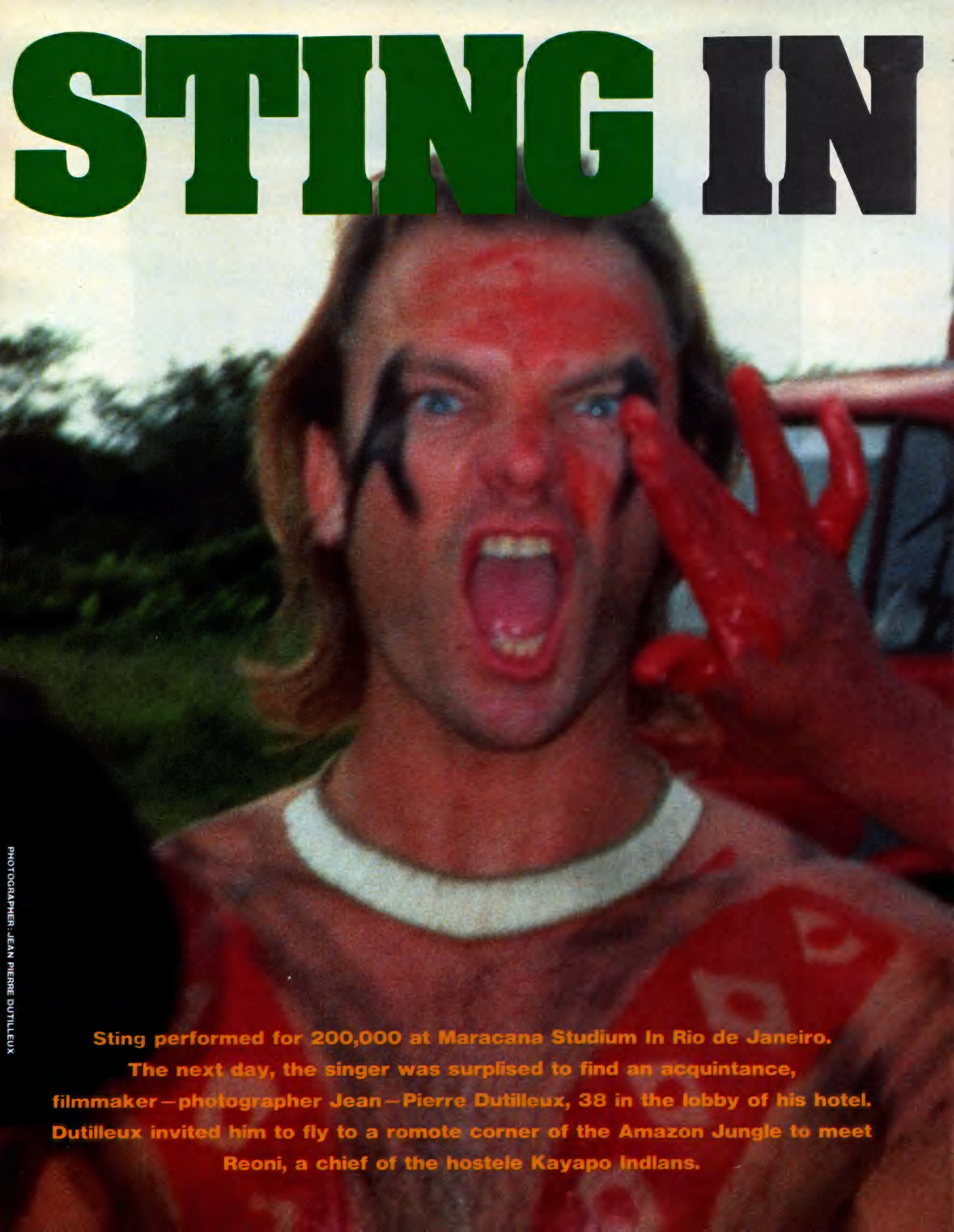
このアマゾン・ツアーに同行したカメラマンＪＰは、アマゾンだろうがアフリカ（ピグミー族、マサイ族）だろうがニューギニアだろうがフィリピンだろうが、世界の辺境をそこらじゅう歩きまわる陽気な奴。口を開けば第4世界の権利と文化のために自分の人生を捧げると言う。スティングにアマゾンを案内するなどお手のものだ。

ムービーもスチールもこなし、映画監督としてはマーロン・ブランドも出演した『ラオーニ』で、オスカーにノミネートされたこともある。今回の短い日本滞在では北海道でアイヌに会えたと喜んでいた。89歳のおばあさんがアイヌの伝統的な入れ墨を口のまわりにしていて、彼女からアイヌの言葉を聞くことができたんだそうだ。日本文化とアイヌ文化は、ある部分共存しているとも言えるし、本当のアイヌ文化は博物館に入れられ、死にかかっているとも言えるかも知れない。

さて、スティングの方だが、スティングの今回のツアーはまったく精力的かつ大規模なもので、昨年11月のブラジルをかわきりにロンドン、クリスマス・ホリディを過ごし年明けにはフロリダ、北米各地、ドイツ、デンマーク、フィンランド、フランス、カナダ、春にはまた北米に戻り、落ち着くことなくオランダ、イタリー、オーストリア、そしてヨーロッパ各国を廻り7月中旬からはアメリカ各地で演奏を行うことになっている。

なおスティングはアムネスティのコンサートに参加するため、この秋来日とのウワサもあったが、どうやら誤報らしい。残念。

STING IN



PHOTOGRAPHER: JEAN PIERRE DUTILLEUX

Sting performed for 200,000 at Maracana Studium In Rio de Janeiro. The next day, the singer was surplised to find an acquintance, filmmaker—photographer Jean—Pierre Dutilleux, 38 in the lobby of his hotel. Dutilleux invited him to fly to a romote corner of the Amazon Jungle to meet Reoni, a chief of the hostele Kayapo Indlans.


PERSONZ



脳天ふるえるサザン、夏の夢。

RRN

SOUTHERN ALL STARS

Japanese super rock band, Southern All Stars, will come back!
You will be able to see them, original seven members, at once.
You will listen soon, simple, straight and crazy rock'n'roll.

PHOTOGRAPHER:KENJI MIURA



原由子
今、会ってみたい人はレイ・チャールズです。私、2度見て、2度泣きそうになっちゃったんです。あの人がステージに出て来ただけで、もう、ジーンと……。

桑田佳祐
そりゃツアーは体力使う。でも健康維持とか体力作りなんて、そんなのやってない。ひたすら飲む。それだけ。ミック・ジャガーのジョギング？ ジジイですね。

松田弘
今度のヤツはアッサリ、ガッチリ、意外ネッてヤツです。イキオイがあってストレートで元気がでる音で、バラードだったら思い切り泣かすぞって感じですね。



大森隆志
活動してない間はね、ライブハウスに、よく飛び入りしてたの。ジャージー着て銭湯に行くみたいな感じで。でも、今度はいよいよサザン。スゴイやつを、ね。

野沢秀行
今でも好きですよ、サンタナは。サンタナ聴いてからパーカッション始めたくらいだから。その前はヴォーカル。あのトキメキみたいなのは、ずっと続いてるよ。

関口和之
ステージに出る前は、また、やっぱキンチョーするでしょうね。円陣組んで「ファイト・オーー！」「ファイト・オー！」ってのは、デビュー以来ずっと続いてます。

サザンをまたやるってのは、遅刻がバレないようにコソコソ裏口から入って、教室の片隅に陣取るような気分だね、と桑田。



In the period we weren't playing together in the band, I would often join some friends on stage and perform at the clubs, times I really enjoyed. But I'm so glad to be back with the Southern All Stars.

The p[illegible]on I would [illegible] to mee[illegible] Ray Cha[illegible] I've seen him [illegible] concert [illegible] [illegible] he's br[illegible] clos[illegible] There's no [illegible] [illegible], or anyw[illegible]

You know, I still get nervous before I hit the stage. But before a show, we huddle together and get ourselves psyched ! We've been doing that ever since our first concert.

SOUTHERN ALL STARS



7月26日西武球場を皮切りに、全国球場ツアーが始まる。巨大飛行船が出現するという噂も!?

I think our new music will surprise you. It's straight rock'n' roll, and it'll pump you up. And if we've done a good job, our ballads'll make you cry.

Carlos Santana's the one for me. When I first heard his music, I felt the need to switch from vocals to percussion. Ever since then, that feeling of a beating heart has continued in the way I play.

Of course, you need a lot of energy to perform, but I can't stand exercise or playing sports. I do like to drink, anytime, anywhere. That's all! Mick Jagger can have his jogging.



GASTUNK

2nd Album

6・21 ON RELEASE

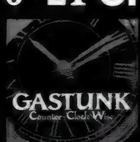
"MOTHER"

LP▶25EC-1012 ¥2,500, CD▶ECD-1015 ¥2,800, CA▶25CT-3 ¥2,500

[U.S.A. Recording Album]
Include 8 Songs.



New Single
6・21 On Release



"Counter-Clock Wise"
side-B "Moon Child"

SINGLE▶10EC-501／¥1,000,
CD SINGLE▶ECD-501／¥1,300

●レコードのみ1万枚完全限定発売
●豪華ポスター・ジャケット装丁
※予約されない方は手に入らない場合もあります。

"MOTHER" TOUR

6/7【火】横浜 西区公会堂
6/8【水】諏訪 セロニアス
6/10【金】長野 ブラック・アイ
6/11【土】新潟 WOODY
6/12【日】新潟 WOODY
6/14【火】浦和 埼玉会館小ホール
6/25【土】大阪 御堂会館
6/27【月】広島 WOODY STREET
6/29【水】熊本 イエロースタジオ
6/30【木】長崎 リトルビレッジ
7/2【土】福岡 Be-1
7/4【月】名古屋 FLEXホール
7/13【水】中野サンプラザホール
7/19【火】神戸 チキンジョージ
7/20【水】京都 ビッグバン
7/22【金】徳島 シビックセンター
7/23【土】高知 チャオホール
7/24【日】松山 ダンステリアイースター
7/26【火】高松 オリーブホール
8/3【水】仙台 141ホール
8/5【金】山形 ミュージック昭和
8/7【日】札幌 メッセ
8/9【火】青森 フリースペース1/3

information●MUSIC VISIONS 03-369-5059

KENZI & THE TRIPS

6・20【月】前橋市民文化会館
6・23【木】24【金】横浜西区公会堂
●総合問い合わせ▶SWAT03-463-6100

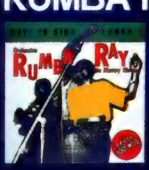


NOW ON SALE

[NEW ALBUM] 25EC-101, ¥2,500
[Sweet Dreams Baby!]
CASSETTE▶25CT-2, ¥2,500 CD▶28ECD-1014, ¥2,800

最新型アフリカン・ダンス・ミュージック

土曜の夜はバッチリ カッコ キメテ
RUMBA RAYで踊るのが正しい。





ALBUM
RWX-4, ¥2,500 CD▶RWD-6, ¥3,200

Orchestre RUMBA RAY de Maray-Maray

MAYI YA SIKA／LAURA
Danse・KINA MOJO

■これが正真正銘イマのキンシャサの音。
■紅白レーベル第7弾はコレ！
リンガラ・ポップス期待の星、ルンバ・ライ!!
■'87年12月 キンシャサ スタジオ-マディアタにて録音。

6/21 LP, CD 驚異の同時発売!!

vice CROWN RECORDS 03-582-4744●MUSIC VISIONS 03-369-5059●MUSIC VISIONS大阪06-648-0560
CROWN MUSIC PUBLISHER, INC. Far-East Network Music Publishing


REVOLUTION
N°9


ЯR
N°1
N.9
ЯR


96
tears
1
6
6
6


007
ROLLING ROCK






CHANEL

PHOTOGRAPHER & COORDINATOR:KIRI TESHIGAHARA, PROPS:STEVEN POLLACK, HAIR & MAKE UP:TOMOMI HORIKIRI, STYLIST:SAKAE KANEDA, MODEL:DOVANNA, RIMA, ANGIE, STEVE, JOHN



Dress Marolacos
Hat Aun Moore
Shoes Peter Fox



All Clothes Rachel London
Hat Bergdorf Goodman
Bag from Bloomingdales





Grove Nasty Habits
Shoes Peter Fox



Body Suit Aquagirl at Pat Fields
Jacket Moschino
Accessories Eric Beamon at Showroom 7
Sunglass Alain Mikli



Black Suit Paul Smith
Shirts Stephen Sprouse



HER CLOTHS
Dress Moschino
Accessories Eric Beamon at Showroom 7
Shoes Accessories Aun Moore
HIS CLOTHS
Models Own
Hat Steven Saunders at Pat Fields
Sunglass Chanel



Clothes, Shoes, Necklaces, Belt, Ring
Stephen Sprouse
Spurs, Bracelet Nasty Habits
Ring Marla Buck



Jacket, Skirt, Belt Moschino
Corset Auto Graph Original at Pat Fields
Accessories Marla Buck

CAPTAGON VIDEO CONCERT
キャピタゴンビデオ・コンサートご案内
VOL. 27

BUCK-TICK





MARi HAMADA

■TAKIGUCHIKEISUKE
■KODOMO BAND
■TOPS ■LINE UP

★地区	★月日	★時間	★会場	★お問い合せ
●北海道地区				
札幌	6/19(日)	14:30~	玉光堂琴似店内スタジオ	011-643-4228
札幌	6/28(火)	16:30~	日本エイ・ブイ・シー札幌営業所会議室	011-261-6461
小樽	6/18(土)	16:30~	玉光堂小樽花園店内ホール	0134-23-6184
苫小牧	6/25(土)	14:00~	ライブハウス阿弥陀	011-261-6461
函館	6/21(火)	17:00~	ライブハウスあうん堂	0138-22-6360
旭川	6/21(火)	16:30~	旭川西武B館Studio 9 (ディスクポート西武小路)	0166-22-5706
旭川	6/22(水)	15:30~	M・S国原2条店店内ホール	0166-23-5266
帯広	6/25(土)	14:00~	玉光堂帯広店内スタジオ	0155-22-0888
網走	7/1 (金)	16:00~	サウンド・カフェ「ラハイナ」	0152-44-4395
釧路	6/27(月)	15:30~	トト・シーガル	0154-23-3371
滝川	7/2 (土)	14:00~	ワールド	0125-22-4165
北見	6/23(木)	18:30~	きたみ東急ホール109 (きたみ東急3F POP IN)	0157-22-4028
根室	7/3 (日)	14:00~	鈴木時計店店内	01532-3-4567
静内	6/25(土)	13:30~	静内"ピュア"第3会議室 (ミュージックショップREC)	01464-2-3431
留萌	7/2 (土)	15:00~	吉崎レコード楽器地下店内ホール	01644-2-1223
倶知安	6/26(日)	13:00~	アイ電社2Fホール	01362-2-0376
●東北地区				
青森	6/18(土)	15:00~	音楽堂店内スタジオ	0177-23-2828
盛岡	6/24(金)	16:30~	フェザン地階パーティールーム(新星堂盛岡店)	0196-54-7862
秋田	7/2 (土)	15:00~	ビデオシアター(新星堂秋田店)	0188-34-8651
秋田	6/27(月)	16:00~	フォーラス・モーニングムーンスタジオ(秋田フリーウェイ)	0188-32-1616
大曲	6/18(土)	14:00~	美音社本店コンベンションホール	0187-63-0531
仙台	6/29(水)	17:00~	三立一番町3Fスタジオ	022-265-6211
仙台	6/27(月)	16:00~	日立ファミリーセンターホール(ヤンレイ仙台店)	022-267-4379
仙台	6/22(水)	16:30~	東芝オーレックスショールーム(スーパーレコード)	022-222-2021
山形	6/18(土)	15:00~	新星堂山形店3Fホール	0236-42-2131
米沢	7/2 (土)	14:00~	アカシヤ本店内スタジオ	0238-23-1366
福島	7/9 (土)	15:00~	ざ・らんど3F店内ホール	0245-22-9178
郡山	6/18(土)	15:00~	ライブハウスフリーウェイジャム(三野屋郡山店)	0249-22-7797
会津若松	6/19(日)	14:00~	レコードのサトウ3Fホール	0242-27-9291
古川	7/14(木)	16:00~	ディスクインセブン2Fホール (レコードショップ・セブン)	02292-3-1635
相馬	6/26(日)	13:30~	エーコープ2Fホール(相馬モリタ)	0244-35-2508
●関東地区				
水戸	7/1 (金)	17:00~	サントピア(フジディスク)	0292-31-0805
宇都宮	6/18(土)	15:00~	音楽館2Fホール	0286-22-7775
足利	6/19(日)	15:00~	ショッピングセンター Com 1st 3Fル・ノウスタジオ (コグレレコード南店)	0284-72-8777
高崎	6/25(土)	14:30~	新星堂高崎店4Fホール	0273-27-3963
大宮	7/3 (日)	15:00~	大宮駅ビル4F(We)ホワイトルーム(ヤンレイ大宮店)	0486-45-5373

★地区	★月日	★時間	★会場	★お問い合せ
千葉	未定		千葉パルコ7Fスペースセブン(山野楽器千葉パルコ店)	0472-25-6331
船橋	6/18(土)	15:00~	船橋西武百貨店8F「スタジオF」(ディスクポート西武)	0474-25-0111
松戸	6/18(土)	17:00~	ボックスヒル8F「クリスタルホール」(ヤンレイ松戸店)	0473-66-1294
新潟	6/18(土)	16:00~	六本木 WAVE PLAKA 1 3Fホール 遊とぴあ	0252-40-2315
長岡	6/18(土)	14:00~	島津レコードミニシアター	0258-32-2017
上越	6/25(土)	15:00~	多田金高田2Fホール	0255-24-3124
松本	7/2 (土)	16:30~	松本ピレネGPホール(新星堂松本店)	0263-36-2534
●東京地区				
新宿	6/19(日)	14:00~	サウンド・ハウス(帝都無線)	03-341-7461
池袋	6/22(水)	14:00~	東武百貨店エア・キャッスル10F五番街店内ホール	03-985-6824
上野	6/20(月)	16:00~	上野ABAB 7Fチャティ・ハウス(帝都無線上野ABAB店)	03-832-7791
錦糸町	6/29(水)	16:00~	スタジオ錦糸町(錦糸町西武ザ・プライム6F)	03-846-0111
銀座	6/26(日)	15:00~	YAMAHA銀座店「アトリエ」ホール	03-572-3135
荻窪	6/19(日)	14:00~	新星堂荻窪本店地下ホール	03-393-3801
国立	6/24(金)	17:00~	北口本店ホール(国立楽器)	0425-73-1111
八王子	7/3 (日)	15:00~	八王子西武百貨店8F スタジオ8(ディスクポート西武八王子店)	0426-48-3283
町田	6/24(金)	16:30~	町田市民ホール(小ホール)(鈴木楽器本店)	0427-26-9811
大森	6/19(日)	15:00~	大森プリモ(新星堂大森店)	03-764-3255
甲府	6/25(土)	14:00~	甲府駅ビルエクラン5F「サロン・ド・エクラン」(新星堂甲府駅ビル店)	0552-24-3930
●横浜・京浜地区				
川崎	6/25(土)	17:00~	ブライダルハトヤホール(新星堂川崎店)	044-211-2225
横浜	7/3 (日)	14:00~	横浜西区公会堂(AVS音楽館)	045-316-3364
横浜	6/18(土)	15:00~	ヤマギワ横浜ソフトショップホール	045-261-2111
戸塚	6/25(土)	14:00~	ハマヤ電気オーディオビル内ホール	045-864-8282
静岡	7/15(金)	18:00~	すみや本店オレンジホール	0542-51-1234
●中部地区				
名古屋	7/15(金)	17:30~	栄ノヴァ8F名豊ミュージック	052-251-6787
名古屋	6/25(土)	16:00~	八事大衆堂店内8スタジオ	052-832-0789
名古屋	7/2 (土)	15:00~	太陽サウンドオン・コンサートホール	052-916-1221
名古屋	7/3 (日)	15:30~	電気文化会館(音楽堂セントラルパーク店)	052-951-0181
名古屋	6/25(土)	13:00~ 15:00~	三菱電機ショールームTALK(玉音堂大名古屋店)	052-561-2966
浜松	7/9 (土)	15:00~	YAMAHA浜松店4Fホール	0534-54-4440
浜松	6/18(土)	15:00~	名豊ミュージック浜松店地下ホール	0534-52-6888
浜松	6/25(土)	15:00~	イケヤ本店3Fホール	0534-52-5151
岡崎	6/25(土)	15:00~	サウンドイン大衆堂本店CAM	0564-22-0186
半田	7/3 (日)	14:00~	マツイシ楽器店本社3Fホール	0569-23-3158
一宮	6/26(日)	14:00~	大衆堂一宮B1ホール	0586-24-1176
四日市	7/10(日)	14:00~	北勢堂四日市店2Fホール	0593-53-0148

★地区	★月日	★時間	★場所	★お問い合せ
富山	7/2 (土)	14:00~	フクロヤ本店3Fホール	0764-25-3513
金沢	6/26(日)	14:00~	タワーレコード(山蓄)	0762-20-5010
金沢	6/26(日)	16:00~	VAN VAN 竪町店スタジオ	0762-22-5125
福井	7/9 (土)	16:00~	松木屋本店3Fホール	0776-24-1388
岐阜	7/16(土)	15:00~	近鉄アミコ2F店内フロアー(電波堂)	0582-63-3869
大垣	6/18(土)	15:00~	大垣アピオ6F B会議室(新星堂大垣店)	0584-75-6193
●関西・四国地区				
梅田	6/20(月)	17:00~	[illegible]ファイブ8F OMC・Aスタジオ (大月楽器)(ダイガ)	06-312-9169 06-315-8421
梅田	6/25(土)	16:30~ 18:00~	エスト1内ヴォードビル3F(ワルツ堂梅田EST・1店)	06-374-0790
心斎橋	6/21(火)	18:00~	ミヤコ心斎橋3Fイベントホール	06-271-3891
難波	未定		フォーラム8 (プランタンなんば)(タワーレコード)	06-633-0077 06-632-2286
天王子	6/23(木)	時間未定	アポロビル6Fアポロホール(三楽器)	06-649-4167
吹田	6/26(日)	13:30~	井村本店4F(井村サンクス)	06-381-0103
京都	6/18(土)	14:00~	BIG BANG(京都十字屋)	075-221-5466
京都	6/22(水)	17:00~	河原町ビブレ21ホール(ピックアップ河原町)	075-211-1552
和歌山	6/19(日)	13:00~	イワキ本店内ホール	0734-31-0236
奈良	7/9 (土)	14:00~	啓林堂本店内ホール	07435-3-8001
彦根	7/3 (日)	14:00~	彦根勤労福祉会館(旭ミュージックセンター)	0749-24-3855
三宮	7/1 (金)	17:00~	星電三宮本店南館「カーサ」8Fラビングホール	078-391-8171
くずは	7/3 (日)	13:00~	くずは駅くずは文化センター2F(ワルツ堂くずは店)	0720-56-5347
高松	6/26(日)	10:30~	ZELE BY タマル2F「ZELEポート」	0878-41-4147
高松	6/26(日)	15:00~	タマル本店3Fホール	0878-61-2400
松山	6/26(日)	14:00~	×4(バツフォー)ビル3Fホール(RSデューク松山店)	0899-43-6660
高知	7/3 (日)	15:00~	チャオホール(RSデューク)	0888-25-2505
高知	6/18(土) 6/19(日)	14:00~	川村時計店内ホール	0888-22-0123
●中国地区				
広島	7/2 (土)	15:00~	カワイショップ5Fホール	082-243-9291
広島	7/9 (土)	16:00~	ダイイチ本店7Fサテライトスタジオ	082-247-9111
福山	6/18(土)	14:30~	サントーク3Fホール(中国ヤンレイ)	0849-25-0629
倉敷	6/26(日)	13:00~	倉敷シティプラザ東ビル6Fホール(インディスク)	0864-22-1457
岡山	6/25(土)	15:00~	RSKメディアコム1F 喫茶COM(栗山楽器店)	0862-73-3511
岡山	6/19(日)	14:00~	長谷川楽器ホール(大書岡山店)	0862-76-4858
出雲	6/25(土)	14:00~	パラオ2Fホール(アツタリズム店)	0853-23-6617
下関	7/2 (土)	16:30~	シーモール4Fホール(新星堂下関店)	0832-31-7010
●九州地区				
福岡	6/29(水)	17:00~	ベスト電器本店8Fマルコポーロ	092-781-7131
福岡	6/19(日)	13:00~	テアトロミニモ(クッキン)	092-721-1852
福岡	6/25(土)	16:00~	ヨシダ楽器本店内ホール	092-681-6050
福岡	7/7 (木)	17:00~	ビブレホール(サウンドヒロカネビブレ)	092-711-1021
久留米	7/2 (土)	15:00~	リズムレコード店内ホール	0942-33-3848

★地区	★月日	★時間	★会場	★お問い合せ
佐賀	6/18(土)	16:00~	レコードショップ・トム店内ホール	0952-26-3838
長崎	6/19(日)	13:00~	アトムレコード店内2Fホール	0958-27-2424
佐世保	6/19(日)	14:00~	佐世保ジャスコ4Fホール(平和堂)	0956-25-4290
熊本	6/21(火)	17:00~	イエロースタジオ(マツモトレコード)	096-352-5671
熊本	6/18(土)	15:00~	むらやまレコード2Fフロアーホール	096-383-1780
大分	6/18(土)	14:30~	OBSサービス店内ホール	0975-34-1700
別府	6/25(土)	14:00~	NC会館5F(エトウ南海堂)	0977-22-0827
宮崎	6/25(土)	15:30~	西村本店内ホール	0985-24-4141
鹿児島	6/23(木)	16:30~	鹿児島十字屋内ホール	0992-25-3131
鹿児島	6/25(土)	15:00~	ミヤタカンパニー3Fオーディオルーム	09954-6-1200

★キャピタゴンとは?

それは、健全な青少年の為に作られたビクターのビデオ・コンサートのプロジェクトです。アナタの大好きなアーティストをよりよく知ることができ、毎月いろんなアーティストが目白押し！ 楽しさいっぱいのエキサイティング・スペースです。

★ビデオ・コンサート会員とは?

入会方法は、モノすごく簡単。1 ビデオ・コンサートに来る ・2ビデオを楽しむ ・3帰りかけにアンケートに記入して ・4 会員証とバッチをもらえば、アナタは立派な会員です。いろんな特典もついていて、しかも入場無料です。

CAPTAGON INFORMATION

✣キャピタゴンに関する質問等は、それぞれのインフォメーションにお尋ねください。■午前9:00~午後6:00まで(土日を除く)

●北海道 AVC札幌 011-261-6461
●東 北 AVC仙台 022-267-5611
●関 東 AVC関東 03-834-0521
●東 京 AVC東京 03-409-6661
●横浜・京浜 AVC横浜 045-312-1511
●中 部 AVC名古屋 052-263-1781
●関西・四国 AVC大阪 06-315-7141
●中 国 AVC広島 082-243-7131
●九 州 AVC福岡 092-473-8221

★ 総合問合せ:キャピタゴン事務局 ☎03(405)5151代 ★

★入場無料★

おことわり●会場が満員の場合は、会員の方から優先的に入場していただきます。●会場係員の指示に従ってビデオ・コンサートのスムーズな進行にご協力ください。

Victor JVC


殺意を感じたことがありますか。
HOUND DOG.
THE STREET SLIDERS.
YUTAKA OZAKI.
LOOK.
RED WARRIORS.
THE HEART.
erprise Inc
マザー。


自殺を考えたことがありますか。
Mother Ent
世界最強、


完全限定同時発売!!
SEVENTH HEAVEN
BUCK-TICK B-T BOX
BT-1 ¥3,200
LPレコード、カラー16シークレットフォトブック、スペシャルBOXがセットになったB-Tファンのためのコレクターズアイテム。
Victor
JVC


invitation
2nd Album 6/21 OUT NOW!!
"SEVENTH HEAVEN"
CD:VDR-1514 ¥3,200/LP:VIH-28330 ¥2,800/CA:VCF-10357 ¥2,800 収録曲:FRAGILE ARTICLE/CASTLE IN THE AIR/SEVENTH HEAVEN/他全10曲
BUCK-TICK
天国で待

s”





最後の20セント

●オールディズライブ●

We present good & tasty “Oldies”. 50th Great American pops make you happy and cheerful.
Our bar’s name is 〈Last 20 cents〉. We have a verry romantic episode. If you want to know it, ask us anytime. We’ll tell you this sweet story.

東京・六本木	03-470-7200
札幌・南五条	011-512-8824
仙台・国分町	022-227-3700
名古屋・栄町	052-262-2900
京都・祇園	075-525-2775
広島・新天地	082-241-7900

▶神戸“最後の20セント”9月23日OPEN。
▶各店共/OPEN 6:00P.M.~
▶連日、ライブバンドによるノリノリのオールディズライブ、これぞ本命盤。

ートで聴きに、こい。」

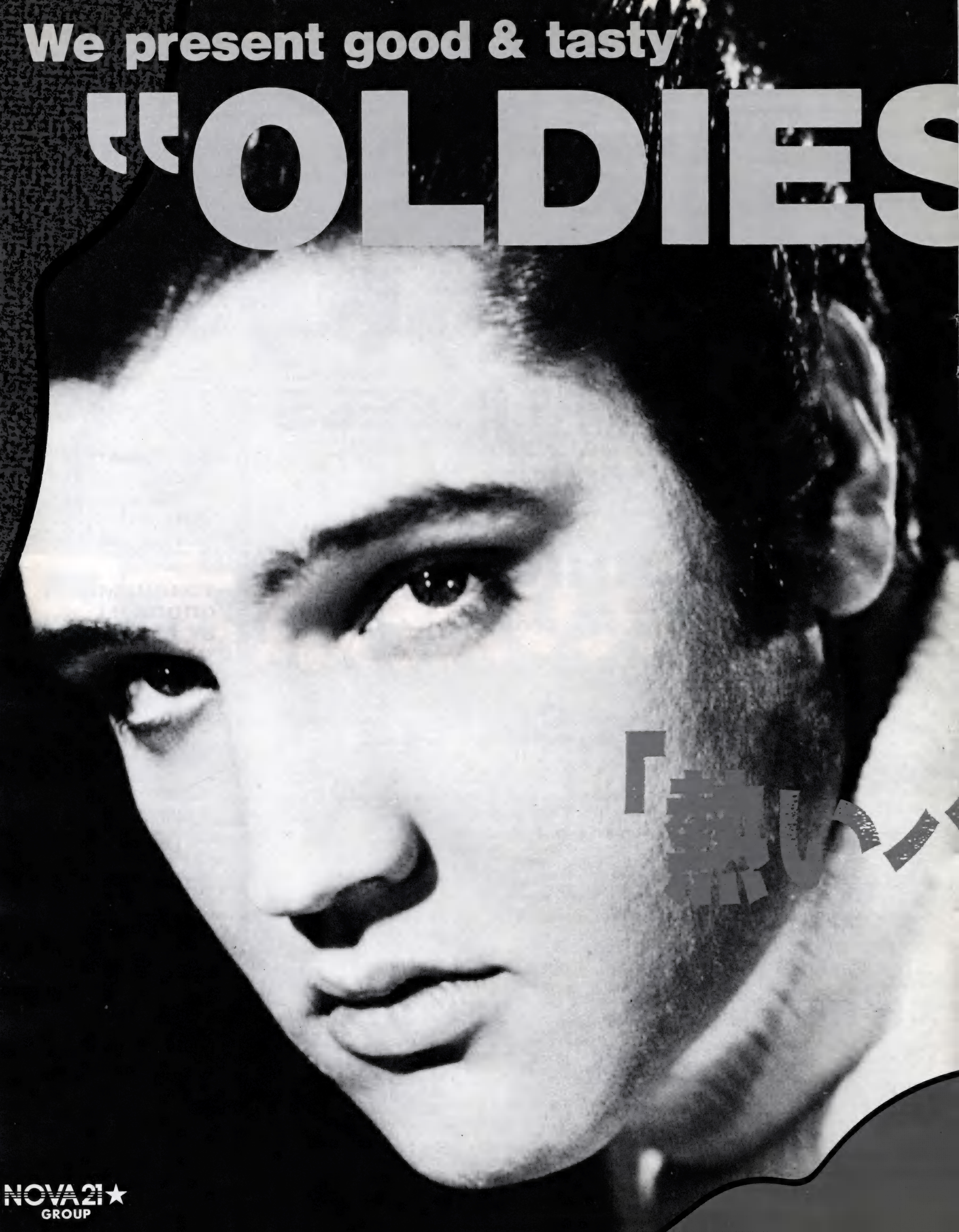


Spats

LIVE HOUSE

▶ミュージックプロデューサー 平尾昌晃

東京・六本木 03-405-4395


We present good & tasty
"OLDIES
NOVA21★
GROUP

DISK GARAGE



PRINCESS PRINCESS

—Dear my best friends—

8/31(水) ノースピア(東神奈川・米軍基地内)

START 17:30 全指¥3,500 ★7/3より一斉発売

RED WARRIORS

—KING'S ROCK'N'ROLL SHOW—

7/23(土) 西武球場 START 18:00 全指¥1,000

★SOLD OUT! ※当日指定のみ有

The Street Sliders

—ROCK'N'ROLL DEF' SPECIAL—

8/11(木)12(金) 日本武道館

START 18:30 全指¥3,000 ★6/12より一斉発売(ぴあ・CN21は特電)

HOUND DOG

—175,000人の西武球場—

8/20(土)21(日)26(金)27(土)28(日) 西武球場

START 18:00 全指¥3,000 ★発売中

沢向要士 THE BURST

8/23(火) 渋谷公会堂

START 18:30 全指¥3,000

●発売中

SUPER BAD

7/1(金)2(土)3(日) CLUB QUATTRO

START 19:00(7/3のみ15:00)

前売¥2,500 当日¥2,800

UNICORN

6/21(火) 日本青年館

7/4(月) 日本青年館 —追加公演—

START 18:30 全指¥2,800

SOLD OUT!

YOKOHAMA GOODWILL BY RAMSA

会場:横浜大桟橋

7/22(金)23(土) 日野皓正 & THE DETOUR BAND FROM NY 全指¥4,000

7/24(日) PSY·S 全指¥3,000

7/25(月) 米米CLUB 全指¥3,500

7/26(火) BAKUFU-SLUMP、TOPS 全指¥3,500

START 18:30(7/23·24のみ18:00)

★6/11より一斉発売

PEARL

8/20(土) 日比谷野外音楽堂

START 18:30 全指¥3,000

★7/2より一斉発売

安部恭弘

7/28(木)29(金) 東京厚生年金会館

START 18:30 S¥3,500 A¥3,300

★発売中

斉藤さおり

7/16(土) インクスティック芝浦ファクトリー

START 19:00 全自¥3,000

●発売中

シオン

9/26(月) 渋谷公会堂

START 18:30 全指¥3,000

●6/18より一斉発売

LIVE at NISSIN POWER STATION

6/14(火)	エレファント・カシマシ	SDS¥2,000 B1·2¥1,000 SOLD OUT
6/17(金)	No Side	SDS¥3,800 B1·2¥2,800
6/18(土)	鬼頭径五	SDS¥3,300 B1·2¥2,300
6/19(日)	竹本孝之＆HEART OF ROCKS	SDS¥3,800 B1·2¥2,800
6/20(月)	BUCK-TICK	B1·2¥2,000 SOLD OUT

※ハガキの受付は終了致しました。多数の御応募ありがとうございました。

6/22(水)23(木)	白井良明	SDS¥4,500 B1·2¥3,500
6/24(金)	佐木伸誘	SDS¥3,000 B1·2¥2,000
6/28(火)29(水)30(木)	THE PRIVATES	SDS¥2,000 B1·2¥1,000
7/1(金)2(土)	グラス・バレー	SDS¥4,000 B1·2¥3,000 ●7/1はSOLD OUT
7/5(火)	MINNIE	B2¥2,500
7/11(月)	田中一郎	SDS ¥4,000 B1·2¥3,000
7/24(日)	THE HEART	SDS ¥3,300 B1·2¥2,300
8/18(木)19(金)25(木)26(金)	中原めいこ	B2SDS¥5,000(8/18·25のみ) B1·2¥3,500 ●6/12発売

START 19:00(6/18·19·7/24のみ18:00)

※SDSはコース食事代が別途かかります。

●チケットぴあにて発売中

DISK GARAGE INFORMATION 03-239-9900(平日 15:00〜19:00)

※ディスクガレージでは、チケット販売・電話予約は一切行っておりません。●チケットぴあ 03-237-9999 (特電:03-237-9911)、チケットセゾン 03-980-9999 (特電:03-981-9999)、丸井チケットガイド 03-383-9999にて発売 ★はCN21プレイガイド・03-257-9999 (特電:03-258-9999) でも発売

r.r.n. LIVE FILE

BE FUN! It's so simple and so pure.
When you fight, when you sigh, when laugh,
when you cry, BE FUN! FUN! FUN! Never forget it!



PHOTOGRAPHER: RYOICHI YAMASHITA

スーパーバッド

〝ファンキー〟というポップ・ミュージックの重大要素との取り組み方が、このスーパーバッドは、日本の中で知能犯的にうまい。つい、黒人音楽そのものを研究対象にしがちな他のバンドとは違って、彼らは黒人音楽のエッセンスをうまく取り入れたイギリスの白人系黒人音楽的アプローチを試みている。つまりスタイル・カウンシル等に通じる、極めて白人的な手法で、ロックのスタンスに立ったファンキーさを追求しているのだが、スーパーバッドが先発のブルー・トニック等の〝日本のスタカン〟と一線を画しているのは、強力な言葉を持っている点だ。

「ボクの勝手〜、ボクの自由〜♪」と歌うボーカルの高田エージの唱法&歌詞は明らかに清志郎チルドレンと感じさせるものだが、彼の場合、パンク以後の世代ならではの、イイ意味での性急さが心地良い。

早くも自信に満ちたデビュー・コンベンション、実に新鮮な新人らしからぬ奴らだ。（渋谷パルコパート３） S

LIVE FILE

佐野元春

佐野元春のレコードは常に日本のロックの推選優良図書ならぬ、推選優良レコードであった。ライヴもしかり。実に良く出来ている。キャッチーなメロディー、共感を呼び起こす詞、時代性を感じさせるアレンジ、不動屈強のバンド〝ハートランド〟に秀れたPA＆ライティング、そして忘れてはならないのはジャーナリスティックな佐野のMC。各々のポイントで高得点を挙げて、佐野は他のアーチストをKO勝ちにするのではなく、判定勝ちにもちこしていく。

当夜のライヴも、いつもながらの見事なアンサンブルを見せた。そして、予想通りの反原発のMCの後に歌われた「ストレンジ・デイズ」。原発に関する発言の後だけに、「あの闇の向こうを突き抜けたい♪」と歌う観客の拳にも、より力が入るというもの。しかし、このハマリまくった構成に目まいがしたのは僕だけだろうか!? 今、彼に必要なのは、〝予想を裏切り期待に応える〟姿勢だと思う。(NHKホール) S



PHOTOGRAPHER : KINICHI MURATA



PHOTOGRAPHER : KINICHI MURATA

PSY·S

デビュー以前の新人も含め、エレファントカシマシ、ユニコーン、パーソンズなどなど、要注目。新進気鋭の計10バンドが顔を揃えたイベント"Jumpin' HEADS FLASH"。午後3時から夜9時までという半日がかりのロング・ランのせいか、目当てのバンドを見終わって帰る人も多く、トリをつとめるPSY·S登場の頃には、かなり空席も見受けられた。その場の倦怠を一掃するかのごとく2台のシンセサイザーからうち出されるビート。それに合わせて2人の女性とともに踊るチャカ。彼女のダンスは手旗信号を送っているみたいで、思わずこちらからも信号してみたくなる。アルバム「Mint－Electric」からのナンバー中心に構成された短いステージではあったが、暖かい印象を残してくれた。サウンドの立役者ともいえる松浦氏の控え目さはチャーミングでもあり、またちょっとサミシイ気もした。愛と意志を歌うチャカの声は、時々妙にイロっぽく響くのであった。

(4/30 PIT) A

ザ・ロック1年組

年間何組のバンドがデビューするのだろう。ホンモノニセモノなんて言ってるウチに時間の流れが彼らを淘汰してゆく。
デビュー後1年以内の新人バンドばかりを集めたギグが行われた。〝ザ・ロック1年組〟と銘打たれたこの日の出演者は――デルジベット、プライベーツ、レピッシュ、ビーバブリック、クラクション、ニッパージッパー、ペッパーボーイズ、オーケーズ、大田美智彦の面々。会場がオープンエアで開放的なせいだろうか、全体に散漫な雰囲気で、なんと客席の⅔が空いているのである。会場の少女達は(実に99%が女の子)お目あてのバンドが出演するまでとなりの友人とダベったり、屋台のたこ焼なんぞ食べており、一度贔屓のバンドの出番になると全速力でステージの周りに集まってくる。彼女達の目は実にキビシイ。レピッシュの盛り上がりを頂点にこの日のギグは終った。オムニバスのコンサートは淡々として残酷だった。
(5/3・イースト) T



PHOTOGRAPHER: TAKAHARU ETO



PHOTOGRAPHER: KINICHI MURATA

PEARL

パールのステージを見る時はきまっていつも「彼女達に会える!」と思ってしまう。もちろんSYŌTAと宮本のことだ。男女合体バンドというのは、レベッカやパーソンズもそうだが、女性はVocal、バンドの華、と相場が決まっている。胴をかくのはVocalの彼女だが、音楽的主導権を握っているのは他の人だったりする。そんな中で、SHŌTAの存在はピカイチ光っている。ステージ上の彼女は、精悍でしなやかな黒豹みたいだ。ギターかき鳴らす姿は男も真ッ青。マイクスタンド斜めに傾け、つき出すおしりもSEXY! なにより唄が最高だ。宮本とのコンビネーションも抜群で、2人のただならぬ信頼関係が伝わってくる。この日も宮本は誠実味あふれるドラミングで、好感度№1。女2人+男2人という編成が魅力的な分、男性陣がサポートに徹しすぎ、意外性に欠けたところが、気にかかる。が、しかし、「Rock and Blues Woman」は最近トンと御無沙汰の〝鳥肌もん〟であったのだ。(5/5 渋谷公会堂) A

本田美奈子



PHOTOGRAPHER : ETSUO KAWAMURA

どうしてそんなに心が狭いのだろう？でっちあげの概念にとらわれて、どこかの雑誌ではコキオロされていたけれど、彼女達のステージはまるで女子駅伝のようにサワヤカだった。『MINAKO with WILDCATS』として、バンド活動を始めた本田美奈子。その初めてのコンサート・ツアーの追加公演・最終日を見た。中盤のスローバラードを除くと全編ロック・ナンバー。「～だぜ」的なMCは、ちょっとカンベンとも思ったが、いや味がないから許せるし、だいたいMC自体極端に少なく、音楽で勝負したいという彼女達の気迫のようなものがヒシヒシと感じられた。間髪入れずに歌いまくる本田美奈子を見ていたら、ロックだの、アイドルだの、そんなカテゴライズはどーでもよくなった。その一途さに思わずレビュアーは涙チョチョぎれんばかりでした。ツイン・ドラムも強力だったし、女だけだと思って甘く見てたら大まちがい。もっと女の子にも見てほしいなァ。🅰
（5／8　東京厚生年金会館ホール）

吉川晃司



PHOTOGRAPHER : ETSUO KAWAMURA

吉川晃司のライブがもう見れない!? 5月9日のこの日の武道館を最後にソロ活動を停止、新たなるビッグ・プロジェクトの準備にかかるとのこと。ステージは360度どこからも吉川晃司が楽しめるセンター設置、闘牛場ふう。総決算とばかりに次々とヒット曲がぶちかまされる。動きはどこをとってもビシッと決まり、声も（特に高音部）がつややか、あごの線もキレイ。『RAIN DANCEがきこえる』あたりから客席も一段とエキサイト。吉川の白い肌。手のひらが真っピンクになっている。疾走感あふれるステージ運びに会場全体がウェイブしている。デビュー曲『モニカ』を唄う吉川の表情はイキイキしていて印象的だった。余裕すらうかがえる瞳の奥で、彼は何を見ていたのだろう？
今までの「吉川晃司」を歌いきり、彼はあっさり姿を消した。
コンサート・タイトル『BACK TO ZERO』に向かって。🅰
（5/9 日本武道館）

RCサクセッション


PHOTOGRAPHER: KINICHI MURATA

「次はエルビス・プレスリーさんの『ラヴミーテンダー』です。替え歌とも言われていますが、れっきとした意訳です。『何言ってんだあ♪何やってんだあ♪』会場中がドッとうけながらも衝激が走った。なんとこの曲は原発反対の唄だった。(今度のシングルのB面)いつものことながら、清志郎のうたの説得力、というか、伝わり方には驚ろかされる。必死に聴き入ってるわけでもないのに、のっているといつの間にかうたが心に侵入している、といったかんじ。前半、リズム体とボーカルのズレが目立ったが、それも清志郎のうたが伝わってくれば、許す気になってしまう。ソウル・シスター金子マリもリードボーカルをとり、なんだか会場が急に野外の空気になった。そして、チャボの連れてくるあの安心感。彼がリードボーカルをとると、男の子達から一際大きい歓声が上がる。解放感と一体感が同時に味わえるなんて、RCはなんてトリッキーな奴等なんだ。Ⓐ

(5/14 PIT)

REBECCA


PHOTOGRAPHER: ETSUO KAWAMURA

REBECCAを見に行って、NOKKOしか見ないで帰ってきてしまったのは僕だけだろうか？　会場中、NOKKOを見に来た人達であふれていた。NOKKO風のショートパンツできめた女の子達。NOKKOの投げKISSを受けとめようとする青少年群。「プライド捨てなきゃダメヨ。」NOKKOの声に沸いた歓声のわりには、めちゃくちゃのりまくっているのとは違うかんじだ。何なんだろう、この感じは？　NOKKOが体現する夢のひとつ、ひとつ。それに対する尊敬に近い、あこがれの念だ。主に外国から輸入された彼女の夢(ドリーム)が、彼女の肉体を通じて具体化される。ACCIDENTではあり得ない、段階的な成就。確かにそれは尊敬に価する。自動車だって、電気産業だって、日本は戦後みんなNOKKO流やり方でのし上がってきたのだから。誰もが「NOKKOがんばれ！」と言いたくもなる。でもこのへんで脳天逆落としをくらって、我を忘れさせてほしいと言ったら、我がままでしょうか Ⓐ

(5/9　国立代々木競技場)

SCHEDULE

LIVEの体験談、感想文など、全国各地から熱烈原稿を待つ!　宛て先は　〒150 東京都渋谷区神宮前6-10 610番館3F R&R NEWSMAKER編集部"ライブみた!"係まで

2(土) 〃
3(日) 〃
問ムーンレコード ☎03-225-7271

HOUND DOG

6/23(木)広島サンプラザホール
25(土)愛媛県県民文化会館
26(日)観音寺市民会館
28(火)岡山市民会館
29(水) 〃
30(木) 〃
7/ 2(土)大牟田文化会館
3(日)武雄市文化会館
5(火)鳥栖市民文化会館
7(木)宮崎市民会館
8(金)大分文化会館
19(火)富山市公会堂
20(水)福井フェニックスプラザ
23(土)大阪球場
24(日) 〃
8/20(土)西武球場
21(日) 〃
26(金) 〃
27(土) 〃
28(日) 〃
問グレイハウンド ☎03-498-5257

BUCK-TICK

6/20(月)新宿パワーステーション
7/10(日)山形鶴岡市文化会館
16(土)オープンシアターEAST
24(日)真駒内オープンスタジアム
問シェイクハンド ☎03-498-9041

BAKUFU-SLUMP

6/29(水)水戸市民会館
30(水)栃木会館
7/ 3(日)神戸国際会館
4(月)前橋市民文化会館
9(土)高松市民会館
13(水)浦和市文化センター
14(木)千葉県文化会館
17(日)沖縄市市民会館
22(金)北海道厚生年金会館
26(火)横浜大桟橋
28(木)名古屋市民会館
8/ 5(金)松任市総合運動公園
6(土)広島サンプラザホール
9/ 8(木)名古屋県文化会館(中)
12(月)宮城県民会館
13(火)新潟市公会堂
16(金)宮崎市民会館
17(土)鹿児島市民文化ホール
19(月)大分文化会館
21(水)熊本市民会館
22(木)長崎市公会堂
23(金)福岡サンパレス
27(火)静岡市民文化会館
問代官山プロ ☎03-448-9070

PERSONZ

6/25(土)明治大学和泉祭
8/29(月)徳島郷土文化会館
30(火)高松オリーブホール
9/ 1(木)高知県民会館(グリーン)
3(土)土佐清水文化会館
5(月)松山市民会館中ホール
6(火)広島県文化中ホール
8(木)長崎平和会館
9(金)熊本郵便貯金ホール
14(水)新潟市公会堂
15(木)長野NBSホール
9/16(金)前橋市民文化会館
21(水)福岡郵便貯金ホール
22(木)愛知勤労会館
23(金)大阪厚生年金会館
25(日)日比谷野外音楽堂
問A.R.Bオフィス ☎03-400-5710

BARBEE BOYS

7/12(火)沖縄市民会館
21(木)広島サンプラザ
26(火)阪神甲子園球場
30(土)北海道立産業共進会場
月寒グリーンドーム
31(日) 〃
8/ 2(火)仙台市体育館
3(水)岩手産業文化センター
9(火)青森浅虫海岸運動ヨットハーバー
12(金)福岡国際センター
13(土)高知春野運動イベント
16(火)新潟市体育館
19(金)愛知県体育館
22(月)東京ドーム
問負けるもん会 ☎03-770-5033

氷室京介

7/25(月)真駒内陸上競技場
8/ 4(木)京都嵐山高雄パークウェイ内
トワイライトシアター
12(金)秋田御所野ニュータウン
17(水)小牧市民球場
問ユイ音楽工房 ☎03-404-6881

THE PRIVATES

6/21(火)札幌ペニーレイン
28(火)新宿パワーステーション
29(水) 〃
30(木) 〃
7/13(水)名古屋ハートランド
14(木) 〃
15(金) 〃
20(水)福岡ビブレホール
21(木) 〃
22(金) 〃
25(月)大阪ミューズホール
26(火) 〃
27(水) 〃
問プライベーツコール ☎03-476-3682

PRINCESS PRINCESS

7/ 4(月)福岡都久志会館
6(水)松山市民会館中ホール
8(金)広島見真講堂
17(日)新潟県民会館
20(水)郡山市民文化センター
21(木)仙台イズミティ21
24(日)岩手教育会館
25(月)秋田市文化会館
27(水)札幌道新ホール
問シンコーミュージック ☎03-292-7911

THE BLUE HEARTS

6/20(月)徳島文化センター
21(火)高知オレンジホール
22(水)高松市民会館
24(金)愛媛県県民文化会館サブホール
28(火)新潟市公会堂
30(木)金沢市観光会館
7/ 1(金)富山県民会館
8(金)大津市民会館
9(土)福井市文化会館
12(火)山梨県民文化小ホール
13(水)長野県民文化会館中ホール
18(月)旭川市公会堂
19(火)帯広市民会館
20(水)釧路市民会館大ホール
問ブルーハーツ集団 ☎03-423-4583

松岡英明

7/31(日)NHKホール
問H.I.P. ☎03-470-0681

UNICORN

6/21(火)日本青年館
7/ 4(月) 〃
21(木)大阪近鉄小劇場
23(土)名古屋芸創センター
問CSアーティスト ☎03-585-1392

ザ・ライダーズ

6/22(水)豊橋かごやホール
24(金)福岡Be-1
25(土)小倉イン&アウト
26(日)熊本イエロースタジオ
28(火)広島ウッディストリート
30(木)京都たくたく
7/ 3(日)新宿ロフト
5(火)仙台ヤマハホール
8(金)名古屋E.L.L.
10(日)福岡ビブレ
28(木)大宮フリークス
問P.C.M. ☎03-350-8009

LAUGHIN' NOSE

7/ 5(火)宮城県民会館
13(水)栃木会館大ホール
14(木) 〃
8/24(水)群馬音楽センター

25(木) 〃
問OFFICE GLORY ☎03-318-6355

Red Warriors

6/20(月)新潟市公会堂
22(水)長岡市立劇場
23(木)長野県民文化会館(中)
24(金)松本市民会館
7/23(土)西武球場
8/ 8(月)名古屋深井丸公園
8/30(火)大阪城ホール
9/ 4(月)桐生産業文化会館
6(水)宇都宮文化会館
10(土)リージョンズプラザ上越
12(月)富山教育文化会館
13(火)石川県教育会館
14(水)福井県民会館
16(金)鳥取文化センター
17(土)島根県民会館(中)
19(月)福山市民会館
20(火)山口市民会館
23(金)広島郵便貯金会館
24(土)岡山市民会館
25(日)愛媛県民会館サブホール
27(火)高知県文化ホール
28(水)徳島市文化センター
29(木)香川県民会館
問レッズベース ☎03-498-5259

LÄ-PPISCH

6/24(金)明海大学和泉祭
26(日)新宿パワーステーション
8/ 8(月)岩手産業文化センター
9(火)浅虫海岸ヨットハーバー
問キティサークル ☎03-770-9355

AEROSMITH

6/20(月)大阪城ホール
21(火)日本武道館
23(木) 〃
24(金) 〃
26(日)横浜文化体育館
問ウドー音楽事務所 ☎03-402-7281

GUNS AND ROSES

7/ 4(月)大阪フェスティバルホール
6(水)中野サンプラザ
8(金)NHKホール
10(日) 〃
問ウドー音楽事務所 ☎03-402-7281

THE WOODENTOPS

6/21(火)渋谷パルコ・スペース・パート3
22(水)日本青年館
問スマッシュ ☎03-444-6751

r.r.n. LIVE

ROCK'N'ROLL NEWSMAKER

編集部ではライブレポーターを大募集！

Walking in the rain with M. at クラブクアトロ

7/18(月)斉藤ネコ・クァルテット／小川美潮BAND／時々自動
7/19(火)QUJILA／Adi／カーネーション
7/20(水)GONTITI／安藤秀樹
問ディスクガレージ ☎03-239-9900

ASAMA WOW!1988 浅間高原特設会場

7/22(金)大江千里
23(土)バービーボーイズ／UP-BEAT／the REDS
24(日)大沢誉志幸／The Street Sliders／鬼頭径五
25(月)世良公則／C-C-B／宮原学
26(火)竜童組／カシオペア／スターダストレビュー
27(水)氷室京介
問コンサート事務局 ☎03-770-6371

PCARI SWEAT THE ROCK WAVE'88 in CONIFER FOREST

7/27(水)カルロス・トシキ&オメガトライブ／関口誠人／ラ・ムー／川島みき
28(木)スターダスト・レビュー／C-C-B／山本達彦／OKs
30(土)BAKUFU-SLUMP／聖飢魔II／アースシェイカー／TOPS
8/ 2(火)ANN LEWIS w/PINX＋忌野清志郎／FENCE OF DEFENSE／THE TOYS
8/ 3(水)スーパー バブルガム・ブラザーズ 山下久美子＋大沢誉志幸＋鈴木聖美＋鈴木雅之＋バブルガム・ブラザーズ／BUCK-TICK
問THE ROCK WAVE'88 事務局 ☎03-359-8056

UP-BEAT

6/23(木)愛知勤労会館
24(金)千葉市民会館
27(月)埼玉会館
7/17(日)日比谷野外音楽堂
20(水)水戸市民会館
26(火)栃木会館
27(水)前橋市民文化会館
問ハートランド ☎03-470-3692

THE WILLARD

7/ 9(土)大宮フリークス
14(木)名古屋E.L.L.
16(土)福岡ビブレホール
17(日)小倉イン&アウト
19(火)広島ウッディストリート
20(水)岡山ロフト
21(木)神戸チキンジョージ
24(日)京都たくたく
25(月)大阪バーボンハウス
30(土)新宿パワーシテーション
問麻田事務所 ☎03-770-4877

ECHOES

6/20(月)福岡都久志会館
29(水)横浜教育会館
問ECHOES OF YOUTH ☎03-423-2695

A. R. B.

7/ 1(金)愛知勤労会館
2(土)大阪厚生年金大ホール
4(月)広島県文化センター
5(火)福岡市民会館
14(木)小千谷市民会館
15(金)新潟市音楽文化会館
16(土)秋田県児童会館
18(月)岩手教育会館
19(火)仙台電力ホール
21(木)群馬県民会館小ホール
22(金)富山教育会館
問A.R.B.オフィス ☎03-400-5710

筋肉少女帯

7/19(火)福岡ビブレホール
21(木)広島ウッディストリート
24(日)神戸チキンジョージ
27(水)名古屋E.L.L.
28(木)豊橋かごやホール
問P.C.M ☎03-350-8009

GRASS VALLEY

7/ 1(金)新宿パワーステーション
2(土) 〃
17(日)仙台CADホール
20(水)大阪ミューズホール
21(木)名古屋ハートランド
25(月)福岡VIVREホール
27(水)広島ウッディストリート
問シンコーミュージック ☎03-292-7911

KENZI & THE TRIPS

7/ 2(土)福岡Be-1
4(月)名古屋フレッスホール
13(水)中野サンプラザ
19(火)神戸チキンジョージ
20(水)京都BIGBAN
22(金)徳島シビックセンター
23(土)高知チャオホール
24(日)松山ダンステリアイースター
26(火)高松オリーブオイル
8/ 3(水)仙台１４１ホール
5(金)山形ミュージック昭和
7(日)札幌メッセ
9(火)青森ライブスペース１／３
問MUSIC VISONS ☎03-369-5059

GASTUNK

6/25(土)大阪御堂会館
27(月)広島ウッディストリート
29(水)熊本イエロースタジオ
30(木)長崎リトルビレッジ
7/ 2(土)福岡Be-1
4(月)名古屋FLEXホール
13(水)東京中野サンプラザ
19(火)神戸チキンジョージ
20(水)京都ビッグバン
22(金)徳島シビックセンター
23(土)高知チャオホール
24(日)松山ダンステリアイースター
26(火)高松オリーブホール
8/ 3(水)仙台１４１ホール
5(金)山形ミュージック昭和
7(日)札幌メッセ
9(火)青森ライブスペース１／３
問MUSIC VISIONS ☎03-369-5059

THE COLLECTORS

6/27(月)新宿パワーステーション
7/12(火)名古屋E.L.L.
14(木)広島ウッディストリート
16(土)大阪ミューズホール
22(金)札幌ペニーレイン
25(月)仙台ＣＡＤホール
問麻田事務所 ☎03-770-4877

GO-BANG'S

6/20(月)岡崎リバプール
22(水)静岡すみやオレンジホール
25(土)新宿パワーステーション
問P.C.M. ☎03-350-8009

PSY・S

6/24(日)横浜大桟橋
問CSアーティスト ☎03-359-8511

サザンオールスターズ

7/26(火)西武球場
27(水) 〃
28(木) 〃
30(土)長岡ニュータウン公園
31(日) 〃
8/ 6(土)真駒内オープンスタジアム
7(日) 〃
13(土)泉パークタウンスポーツガーデン
14(日) 〃
21(日)愛媛県総合運動公園球技場
27(土)海の中道海浜公園
28(日) 〃
9/ 3(土)大阪球場
4(日) 〃
5(月) 〃
10(土)小牧市民球場
11(日) 〃
17(土)横浜スタジアム
18(日) 〃
19(月) 〃
問SAS応援団 ☎03-476-4659

JUN SKY WALKER(S)

6/23(木)渋谷LIVE-INN
7/16(土)吉祥寺バウス・シアター
30(土)横浜教育会館
問BADミュージック ☎03-352-3779

SION & THE NOISE

7/11(月)高知キャラバンサライホール
13(水)広島県民文化センター
14(木)福岡都久志会館
16(土)三重県教育文化会館
18(月)石川教育会館
19(火)新潟県民会館小ホール
21(木)秋田フォーラスモーニングムーンスタジオ
23(土)仙台イズミティ21
25(月)札幌道新ホール
9/20(火)大阪近鉄劇場大ホール
21(水)名古屋愛知勤労会館
26(月)渋谷公会堂
問Walk on ☎03-402-8121

The Street Sliders

6/20(月)京都会館
22(水)浜松福祉文化会館
23(木)神戸文化ホール
24(金)岡山市民文化ホール
26(日)徳山市文化会館
28(火)広島郵便貯金会館
29(水)愛媛県県民文化会館
7/ 1(金)徳島市文化センター
5(火)郡山市民文化センター
7(木)札幌市民会館
8(金)旭川市公会堂
10(日)稚内総合文化センター
11(月)留萌市文化センター
13(水)北見経済センター
14(木)釧路市民文化会館（小）
15(金)帯広市民会館
17(日)静内文化センター
18(月)室蘭市民会館
20(水)八戸市公民館
21(木)弘前市文化会館
22(金)岩手県民会館
8/ 2(火)福岡国際センター
4(木)名古屋城深井丸
11(木)日本武道館
12(金) 〃
問スライダーズコミュニティ ☎03-498-5395

THE SHAMROCK

7/ 3(日)名古屋ハートランド
5(火)渋谷エッグマン
8/ 4(木)大阪バナナホール
問ジャグラー ☎03-423-2981

SUPER BAD

7/ 1(金)渋谷クラブクワトロ

〝ハート・オブ・ロック〟の吟遊詩人、銀色夏生の新連載ノヴェル

イサクのジョーク(1)

文・写真 銀色夏生

昼休み、教室で眠っていたら、パスカルとタカがはいってきた。
「災難だったな、タカちゃん」
と、オレは言った。
タカはムッとして、隣の机に腰かけた。
「アイツ、ド頭にくる」
「オレ、目がさめたぜ。オマエが殴られた音でさ」
「復讐する」
タカはくやしそうに言った。

今朝のホームルームの時間だ。
風邪で休んだ担任のかわりに学年指導の体育のツノダがきた。ツノダはみんなから恐れられていた。ちょっとしたことでいちいちオレたちを呼び出して、髪を切れだの色をもとにもどせだの言う。ラグビー部の顧問で、体が異常にでかい。
タカの席はいちばん前だ。
ツノダは、またバカでかい声で言った。
「おい、橋田、それは何だ」
タカの名前は橋田タカオという。
「え?」
タカは目が悪い。
「それだ」
ツノダは床の一点を指してじっとしている。
タカは顔を近づけて見た。
「ガムです」
「ひろえ」
「……」
「ひろえ」
タカは動かなかった。
「手でひろえ」
「オレが噛んだんじゃないからひろえません」
「なに?」
「ひろえません」
ツノダは一瞬、体をぴくつかせた後、タカの顔を二発殴り、髪の毛をつかんで後ろ向きにして、廊下にむかって背中を蹴った。
「でていけ」
オレもパスカルもタカも、ツノダに嫌われていた。追い出す機会をねらわれていた。
三年になってからが、特にひどい。

「オレさ、階段の手すりのひえたところにずっとほっぺたくっつけてひやしてたんだ」
パスカルがトランプをポケットからとりだした。
「きのうのつづきやろうぜ。オレが八百円の借りだったな」
パスカルは、何度やっても負けるのに、こりずにやりたがる。きっといつかは勝つと思い込んでいるみたいだ。オレとタカは波がある。
タカが親で、まず一回勝った。
「アイツラ、絶対オレたちをナメてる」
タカはまだイカっていた。
オレはタカにマッチを三本わたした。
「あのガムはオレのだ」
「ウソだろ、イサク。そりゃないぜ」
「この学校は狂ってる」
「ひでえよ」
「昔はすごしやすかった」
「どーりでおとなしいと思ったよ」
「最近、ツノダの動きがおかしいと思うだろ」
「オレ、二発も殴られたんだぜ」
「オレたちのほうから学校やめるようにしむけてる」
「イサクったらよお」
「ぴくぴくしたぜ、ブルーベリーガムいる?」
「いらねえよ」
「パスカルは?」
パスカルはさっきから黙ってひとりでトランプ占いをやってた。
「いる。これ、いい匂いするんだよな」

放課後、パスカルは制服でオレとタカを家へ誘った。ブラックジャックのつづきをさせようとして。すでにパスカル五千四百円の借金だった。
オレが7枚ジャックをだした時、ベルが鳴り、パスカルは丹念にマッチの数をメモしていた。
パスカルの家へ二人で行く途中、ファミリーマートの角に西岡ユリ子がいた。
「西岡ユリ子だ」
オレたちはシカトで通り過ぎた。
二年生の時同じクラスで、タカはアイツにふりまわされた。と信じこんでいる。が、オレからみるとタカの思い過ごしだ。
タカは自信過剰だが自覚がない。
西岡ユリ子は、B組で一番の美人だ。すこしも美人じゃないというヤツラもいて、賛否両論だが、オレは美人だと思う。オレたちのクラスのA組は、女に関しては信じられないほど不作なので、西岡なんかすごくまぶしい存在になってしまった。
西岡は、学校ではわりとおとなしい方だが、オレはアイツには何かあるとにらんでる。誰にも話さない秘密をもっているような女だ。きっといつか本性をあばいてやると思ったりするが、本当は、オレに夢中にさせて、いやというほどふりまわして、とりすました顔を泣き顔にかえたりしてみたい、と楽しい想像をめぐらしていたら、タカが、ため息をついて言った。
「あーあ……アイツもひでえ女だな」
「期待するから裏切られるんだよ」
「期待しない男がいると思うか?」
「いない」
「やべえよなー、オレもよぉ学校おんだされそうだし、もうバンドでやってくしかねえよ」
そこへ、西岡がひきかえしてきた。
「橋田くん。今日、大変だったんだって?」
「あんなの、べつにどうってことねえよ」
「ふうーん、どこ殴られたの?ここ?」
ユリ子はタカのほっぺたをさわった。
タカは、なすがままになっている。
見ていてはずかしくなった。
これは完全にユリ子の方が上だ。
「いたくない?」
「べつに」
「やよいちゃん、心配してたよ」
「……」
「やよいちゃん、橋田くんのこと、好きなんだって」
アジサイの花を足でポンポン蹴りながら、なんとなく話しを聞いていたオレにむかって西岡が言った。
「わたし、イサクくんにはなしがあるの」

(つづく)

BLACK JACK HEART BLAKE

PRESENCE

これが・俺たち・プレゼンス!!——セカンド・アルバム

BLEECKER STREET



6•21 ON SALE!!

New YorkでのMix Down, Mastering。
待望のセカンドアルバムは・完成度・満足度・すべて・120%…納得!!



SIDE A: 1. BRAND NEW CAR 2. PLEASE MY GOD 3. WOH! 4. 60'S 5. IMITATION
SIDE B: 1. BEAT BEAT 2. BABY WE CAN 3. GET AWAY 4. FIGHT 5. VANITY

CD K32Y-2140・¥3,200
LP K28P-720・¥2,800
CT K28W-601・¥2,800
Mix Down: BOB MUSSO
Mastering: BOB LUDWIG

初・回・特・典

特製B₂ポスター(LPのみ)
特製ステッカー(CD、CTのみ)

PRESENCE TELEPHONE!!
プレゼンスの情報が電話で聴ける!
03-942-2800 ㊟番号を確認してからお掛け下さい
(7月末まで毎月内容が変わります)



12インチシングル●好評発売中!!

Rock'n Roll/PRESENCE

12inch Single K13P-703・¥1,300
CD K10Y-20001・¥1,000
CT K10W-20001・¥1,000

7月19日(火) 大阪厚生年金会館 Open 18:00 Start 18:30
問:夢番地大阪☎06-341-3525

8月6日(土) 東京日比谷野外音楽堂 Open 17:00 Start 18:00
問:バックステージプロジェクト☎0488-66-3888

NEXUS ●発売元 キングレコード株式会社

CRONICLES OF THE HEART

WRITTEN BY SHIGEO GOTO

第1回 DJ

ザ・ハートの井口一彦は時間の中をさまよい歩く。自分を見つけるために。
昭和41年11月23日に彼は生まれた。北爆が行なわれ、中国で紅衛兵運動がおこった年に。
ギザギザにとがった22才のクロニクル(年代記)。

1

子どもの頃、彼はＴＶに流れる松山千春の曲を聞きながら、弦をはじくことをおぼえた。それがきっかけとなり彼の両親はラジカセを彼に買いあたえた。はじめてラジオ録音しようと思った夜に流れてきたのが甲斐バンドだった。小学校６年で『ヒーロー』、中学生にあがった時に聞こえてきたのが『ポップコーンをほうばって』だった。22才になった彼は放送局に出入りするようになった。ＤＪ――彼が選曲し話をする１時間。彼がまず最初にチョイスしたのは『ポップコーンをほうばって』だった。

2

ゴールデンウィークをすぎた湘南の海は、気温こそもう立派に夏ではあったが、まだ「季節」としての、ういういしさを失なっていなかった。彼は名古屋に出かける前日、湘南へ遊びに行ったのだ。ツアーの間にぽっかりとあいたオフ。愛車を駆って海へむかう。海は久しぶりだった。その日はあいにく砂ケムリが多く、地元の人は〝こんな日は浜の砂が全部飛んでいく〟という。とりあえず彼は、けだるいままに何となく身を焼いた。彼は自分が手ぶらであることに気づいた。何も考えなくていいという夏の理不尽を彼は快楽にしていた。

3

スティックス、ベイシティ・ローラーズ、アバのチキチータ、ノーランズ、そして甲斐よしひろ………このあいだは何かけたっけ!?　彼はレコードを選びながら、今日は何をしゃべろうか……。

4

「井口一彦のＳＦロック・ステーション」が始まった。一曲目は、ザ・ハートの『ノーサティスファクション』。――ＤＪは続けて言う。「第２回目でまだ緊張から解放されなくて、こまってるよね。では次に紹介するのはね、オレたちが彼らを見たのは、吉祥寺でのデビューライブの時。メチャクチャにハリーの目つきがコワくて。だけど気がついたら同じ事務所にいたんだよね。じゃ、ザ・ストリート・スライダーズ『チャンドラー』」

5

ＤＪは続ける「次にかける曲はアラームの『スピリット・オブ・トゥエンティシックス』。彼らは、ちょうど僕らがレッズのツアーでオープニング・アクトをつとめるみたいにやってるんだ。こういう曲って聞くとＢ級なんだけどすごく好きなんだ。聞いてると、音楽ってやってて楽しいな、こんな具合にころがっていけたらなあと思う。じゃあ、今週は先週話さなかったことを話してみたいんだ。」

6

「恋愛経験っていうとあんまりオレ多い方じゃないんだよね。ただ恋をするっていう意味では、「両おもい」と「片おもい」というのがあるでしょ。オレはさ、「片おもい」という意味では思いっきり失恋して、恋にあこがれてるのね。恋にあこがれるっていう気持ちがあるから、オレは毎日恋をしてるのかも知れない。純粋に恋をするのって、もしかしたらムズカシイのかもしれないね。」そう言うとＤＪは、原田真二の『キャンディ』をチョイスした。

7

大好きな矢沢永吉の『ひき潮』をシブくかけ、次にはなんと中島みゆきの『怨みます』。彼はおよそ若いミュージシャンが日ごろ聞かない選曲をやる。「自分たちのナマの姿を見せるだけでなく、どんなものを聞いて育ってきたか、このラジオを通して知ってほしい。――今夜はどうもありがとう、おやすみ。」彼がそう言い終わるや、ザ・ハートの『ジェニファー』が闇に流れる。彼は１人で闇の中にとり残されるのが好きだ。

8

彼の目に浮びあがる風景がある。ツアーで全国をまわっている時、ハートのメンバーは車での移動が多かった。ワゴン車の助手席がいつも彼の特等席だった。深夜コンサート会場を発って、次の会場へとまた移動するのだ。ヘッドライトと闇の中を猛烈なスピードで疾走するワゴン車。マッ黒な風景が彼を包む。知らないあいだに個人的な悩みや考え事をしている自分に彼は気がつく。まわりの喧噪はそこにはない。何も解決せぬまま夜が暴走する。

9

ジーパンに穴があいていた。彼は牛柄のズボンがお気にいりだったが気がついてみると穴アキのズボンで名古屋の街を歩いていた。デパートをぶらつき、本屋をのぞいた。ラジオの収録日の翌日、オフになった彼が買ったのは『謎の大陸アトランティス』だった。彼は本当はタバコが欲しかったのだけれどいつのまにか、タバコはアトランティスへと変身をとげていた。街角の本屋で、ドイツ軍をテーマにした本が目に入った。手は出さなかったが、彼はナチスの話がダイスキだった。でも、その時読んでいた本がチェルノブイリをテーマにした作品。一体同じ人間が同時に読むなんて、なんてムチャな話だ。

10

彼には甲斐よしひろ以外にもう１つ探してきたものがある。それは『ひろすけ』のレコードだ。昔、石神井図書館へよく行った。そこにはレコードライブラリーがあって、いろんなレコードの貸し出しをやっていた。その時みつけたのが『ひろすけ』っていうタイトルのレコードだった。「聞いたらスゴクはまっちゃってね。そのＬＰを延々と探しつづけたの。ところが東海ラジオで兵藤ゆきが番組を持っていて、その番組に出たときに喋ったら、放送局にもあるはずだって探してくれてたんだ。そうしてるうちに、読者の一人が、『ひろすけ』の一番新しいレコードをさがして送ってきてくれたんだ。送ってくれたヒトは広島の人だった。」

11

さてこうやって彼のＤＪとしての生活が始まった。もう何度名古屋に一人で来ただろう。Ｐホテルのベッドの上で彼はねむりこけている。その姿は自分の「正体」をつかみたいという男の姿だ。強がりを言いつづけ、自信をみがき、パワーを出しつくしたい。そんな日がまもなく、ザ・ハートにやってくるだろう。すべてを熱狂させ、人の羅針盤を狂わせる。時をけとばして、彼は走り続ける。

12

今、彼は壊れたモーターのように止まらない。


SION
R&R P
ROCK 'N' ROLL POWERS
PHOTOGRAPHER: NOBORU MORIKAWA

トラ刈り、冷麦、超能力、シオン。



Sion was born in 1960. And he's been turning the Jpanese rock and roll scene upside down. In his latest album SIREN, this wandering poet weaves stories about outsiders, drunks and travellers. And maybe you've caught his wonderful collaboration with John Lurie a few years back.

●ここ一週間は、どう過ごしてましたか?

■ゴールデンウィークでしょ。飲んで、寝て、食って、寝て。それだけですね。それだけ。あ、そうそう、あれ『チョモランマ』なんか見てた。「何をおっしゃるチョモランマ」(笑)。

●テレビは、よくご覧になるんですか?

■点けてますよ、ずっと。5時から『帰ってきたウルトラマン』、5時半から『ウルトラマンレオ』。6時からはワイド・ショー。それから夜は『コンバット』とか、古い映画とか……。

●夕方テレビ見ると「あぁ、今日も一日をムダにしたな」って、やるせない気分になりませんか?

■いやぁ、俺はそういうの通りこしました。なにしてもムダだからね、結局。

●ごはんは、ご自分でおつくりになる?

■結構、凝ってますよ。厚揚げと白菜を混ぜて、片栗粉をちょっと混ぜて。炒めものですね。結構、うまいんだ。ごはんは炊かない。俺ね、コンビニエンストアに行くの、好きなの。毎晩夜中に3回くらい、行くの。最近は冷麦に凝ってて。これもいいな、あれもいいな、って。もう、食べちゃいけないな、と思いながら。でも、やっぱり買ってくるの。腹なんかいっぱいなのに。……外に出る理由が欲しいのかもしれないね。

●この頃の季節は、お好きですか?

■うん、結構、いいね。ここ一週間くらい、スーパーのねえちゃんとかのほかには誰とも話してなくって。ほら、何日の何時何分に会う、とか約束があると、それだけですごくヤなんですよ。会ってみると、結構楽しかったりするんですけどね。だから、今日は、ひさしぶり。

●誰とも話さない日が続くと、頭の中に、コトバがうずまいてきたりしません?

■ないない。なんにも考えてない。ああ、それからね、失礼なヤツがいて。夜3時頃、ドアをノックするんだ。ファンなんだよファン。住所知ってる人から広まって。何考えてんだろうな、まったく。サイテーだよ。そういえば家出してきたってやつも、これまで三人いたな。

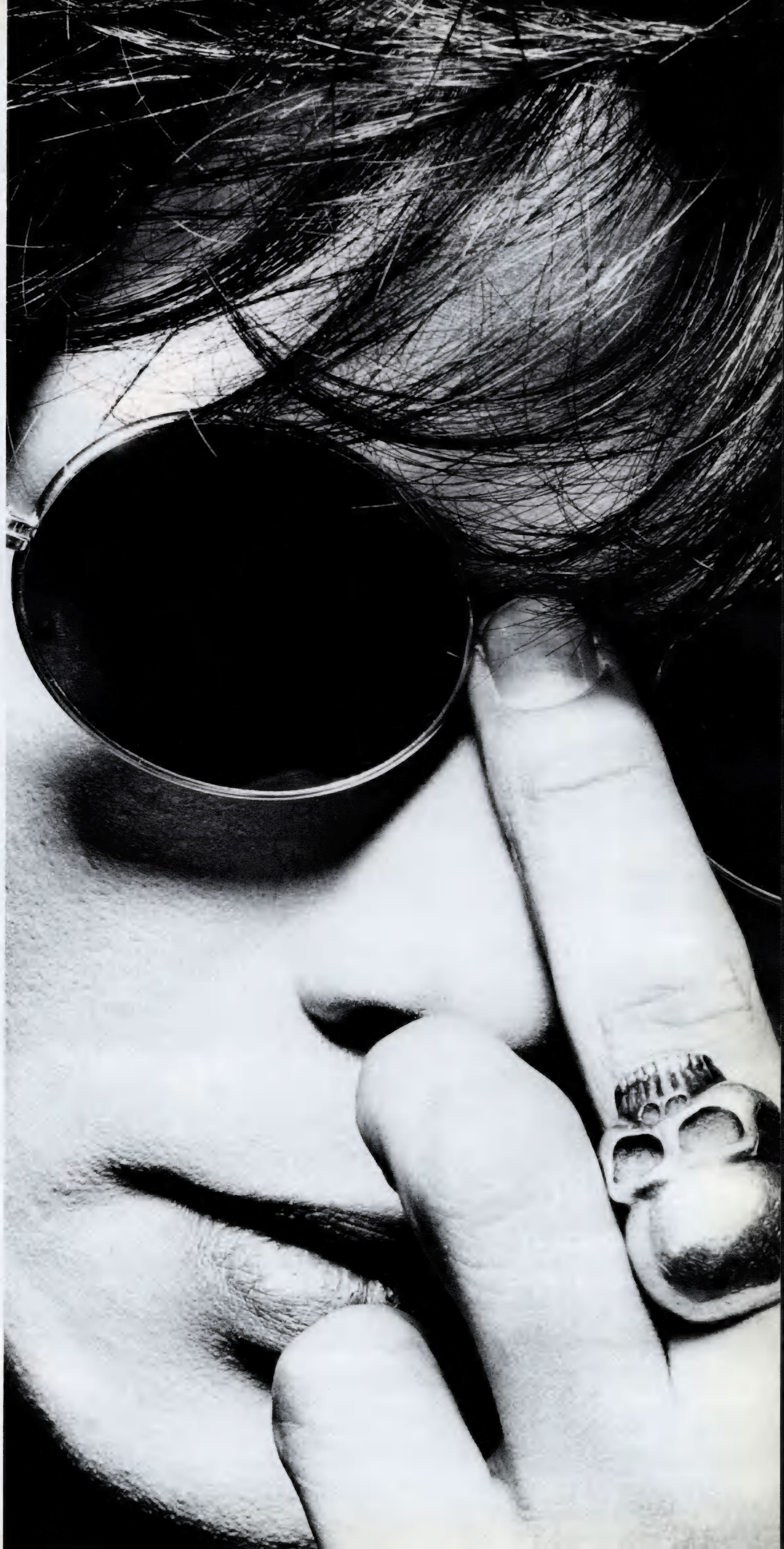
●ファンと話すことは多いですか?

■そうね、話せる時は話すし、話したくない時は話さない。パターンがあるんだよね。最初「ファンになりました」って来て、しばらくして「好きです」って来て、それから「最近、シオン変わった」って来て、「もう、ライヴ行きません」って。……あ、それから、よく安全ピン持って来て「ピアスの穴を開けてくれ」っての、多かったな。

●いったいこれまで何人ぐらいの人の穴を?

■ええと、雑誌のインタビュアーを含めて(笑)、結構いるんだよね、これが。……いや、その人男なんだよ(笑)

●最近ショックを受けたことってありますか?



一九八八・五・二六のSIONは、幸せそうに見えた。

■けさ起きたら、髪が、ほらここんとこ、トラ刈りだったから……ショックでしたね。きのう切ったみたいですけど。覚えはあるけど。ここまでとは思わなかった。アタマ入れ代わってますよ(笑)……最近いいなと思うのはね、電話が止まったの。

●料金未払いで。

■うん。あれって、いいって思う。これまでってね、よく夜中の2時3時に酔っぱらって「すぐ来い」とか俺、そんな失礼な電話をいっぱいしてたの。かかってくる電話には出なかったりね。でも線が切れてるとベルならないし、悪いことないじゃない。こっちの都合のイイ電話も、下まで降りて公衆電話まで行ってかけなきゃならない。そこまでしてかける相手はひとりもいないんだ。こんな時ワタシはチョモランマになってしまう(笑)。

●年をとって自分がおじいさんになった時、どんなだと思いますか?

■見てみたいね。見てみたい。毎日毎日こうやって恥をかいてるわけだから。絶対恥をかいてゆくわけ。だから一番身近な恥、かいてもいい恥をかける俺でなきゃ、つまらんわけですよ。あの恥は俺んじゃない、ってんじゃ困るわけ。自分がジジイになって自分の昔のレコードとか聴いたりすると恥ずかしいと思うけど、でもそん時に何かニコッと笑えるような、そのくらいの恥だったらいいなと思う。

●結構、前向きだったりするんですか、最近?

■今日、洗濯しましたよ。三ヵ月四ヵ月ぶり。赤青黄色のパンツが風に揺れてますよ、いま頃は。

●気持ちイイ光景ですね。(「マエジマさんがシナリオ書いたって電話が……」と呼び出され、ここで、シオンは中座。ほどなくして座に戻り……)

■なんか俺、沖縄行って円盤を呼ぶんだって。

●なんですか、それ?

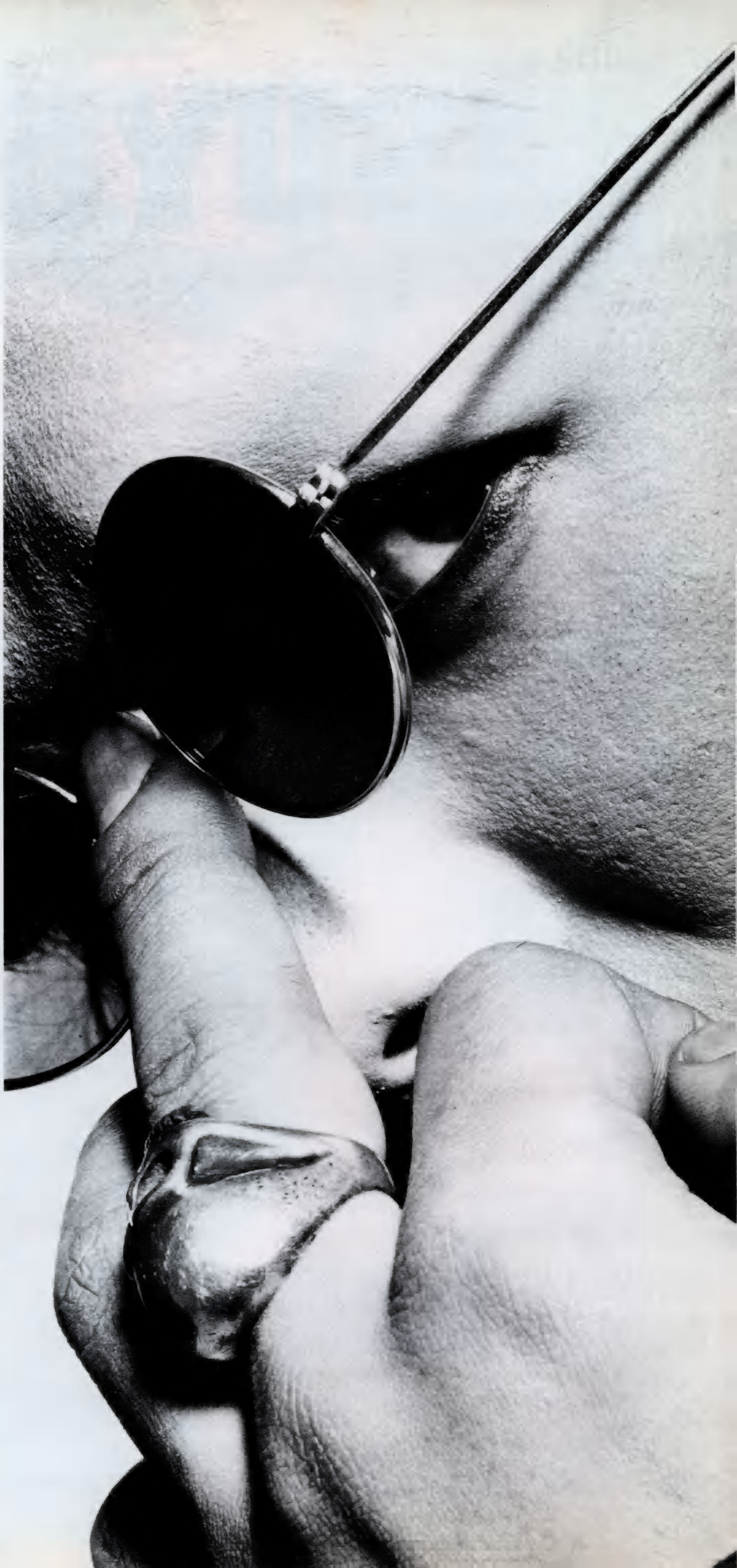
■映画なんか撮るんだろうね。なんかわかんない。とりあえず、6月、俺ヒマだから、沖縄行きたいって言ってたの。そしたら行けるように、口実としてシナリオが出来たんだと思うよ。……まぁ、今晩これから一緒に酒飲もうっていうだけかもしれないけど。

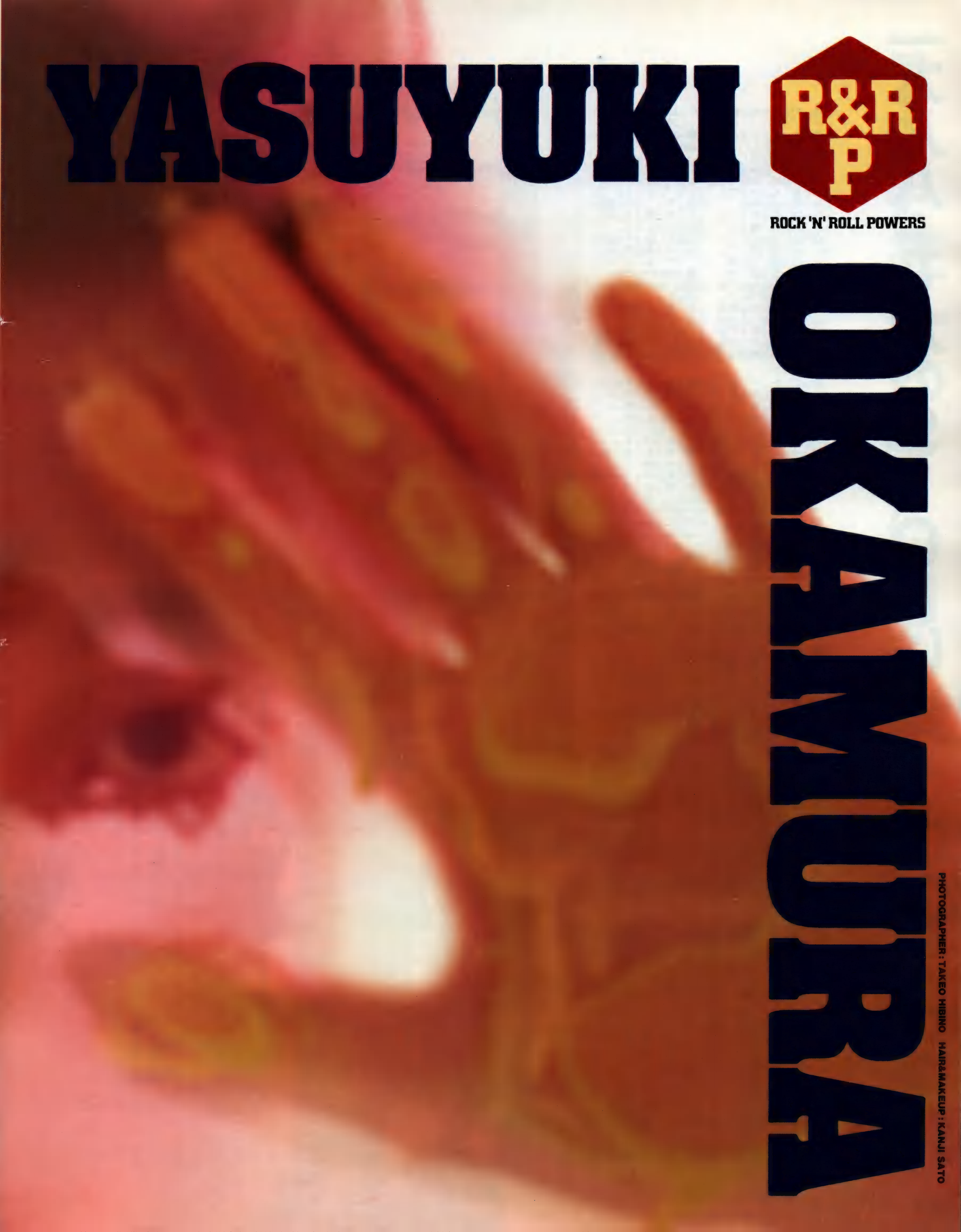
●超能力はお持ちですか? 霊感や予知能力とか。

■ないない。ないよ、そんなもん(笑)

●でも、円盤には乗りたいでしょ?

■うん。





YASUYUKI OKAMURA

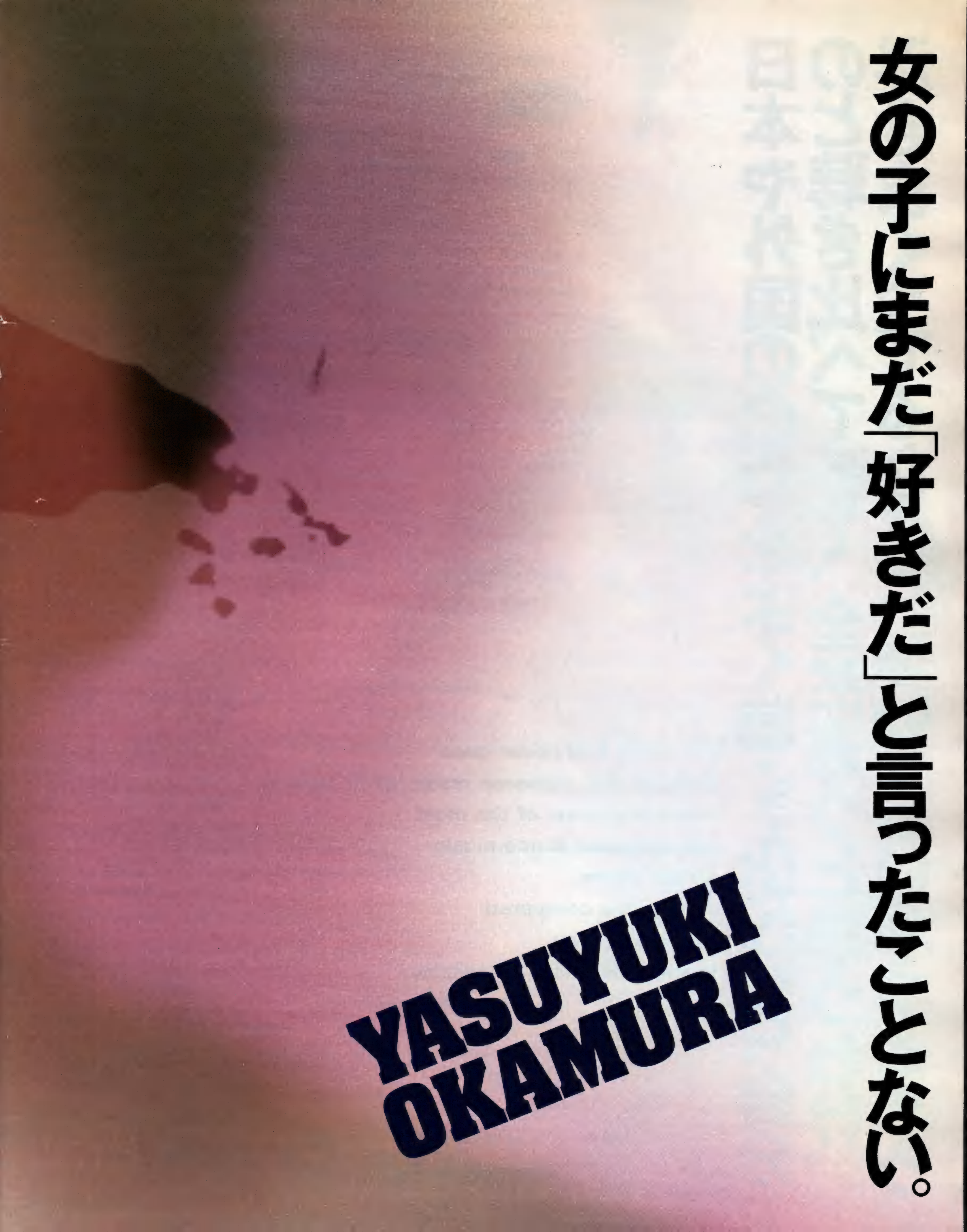
R&R P
ROCK 'N' ROLL POWERS

PHOTOGRAPHER : TAKEO HIBINO HAIR&MAKEUP : KANJI SATO



日本や外国のCDをよく聴くんだけど、自分のと聴き比べてみて、全然違うと思うわけ。浮きまくってるなァと。恐いくらい違うと思う。

His music had never been heard in the Japanese music world before. Producing some of the most sophisticated dance music on the scene, some have compared him with Prince, labeling Okamura as unique.


女の子にまだ「好きだ」と言ったことない。
YASUYUKI
OKAMURA



プリンスの目に似てるってよく言われる。プリンス、テレンス・トレント・ダービィと僕はみな似た顔をしている。プリンスは高校の頃、「1999」を聴いたのが最初かな!?プリンス、ビートルズ、松田聖子の3つはホントに好きだね。今でもこの3つはよく聴く。高校の時にバンドを始めてビートルズを目指してたんだけれど、それはヘタだったからパンクになってしまった（笑）。

詞を書くようになったのは、ファースト・アルバムをレコーディングする時から。それまでは僕は全然詞が書けなくて、でも踊りと歌は上手だから、踊りと歌でいこうと。それで人に詞を書いてもらおうってことで、ファーストの時に作詞家の人に20曲位の詞をもってきてもらったんだけど、全部ダメだったんだよね。別にその詞がダメってことよりも——まァあまり好きじゃなかったけど——自分の考えてることを歌ってないからイヤだった。たとえば僕のことをイメージして書いてくれても、リアリティがものすごくないのね。だから歌ってて気持ち悪い。また、そういう風に僕が感じていれば、ライヴで歌っていても観客も心が動いてくれないと思うし。だから自分で詞を書かなきゃと。うまく書けなくても、何が言いたいのか絶対言わなくちゃいけないって思ってね。

（レコードやライヴで）語りを入れたきかっけは、尾崎豊かな!? 俺、尾崎豊すっごい好きなんですよ。日本じゃ一番好きかな。尾崎の曲を聴いてると語りが入ってて、「あっ、これいいな」と思って。内容は違うね。俺は個人に向けてのだから。

日本のヒットチャートを聴くと、こいつは何が言いたいのか全然わかんない歌ばっかりじゃない!? それは歌謡曲だろうがロックだろうがね。でも、尾崎豊の音楽は言いたいことを痛切に感じるし、嘘を歌ってないと思うし、そういうとこですごい感動するしね。同い歳だしね。なおさらスゲエナァと思ったりする。「こいつ、俺と同い歳なんだ」って。二人ともたどり着こうとしている所が同じかもしれない。今はそれがどこかはわからないけど。音楽性は違うけれども、マインドは似てると思うな。

自分をキャラクタライズして演じてるか？ それは、ない。レコードに関しては100％ないと思う。詞や語りに関しても、てらいとかはない。女の子と一対一であれを喋る時にはあると思うけれど、レコーディングやコンサートではないなァ。逆にそういうタイプだから、ああいう音楽やってるのかもしれない。僕、女の子に自分から「好きだ」と言ったことないから。

女の子は積極的で純真な女の子が好きかな。自分が積極的じゃないから。だから曲の中では、理想の女性像を歌ってるつもり。

僕は恥ずかしいことを歌うことが大事だと思うけどね。尾崎がインタヴューで「僕にとって歌は、自分の恥ずかしい部分を歌うことです」と言っていたけれど、僕もそう言われればそうかなァと思う。普段は言えないことを歌ってると思う。だから、付き合ってる女の子からも、「なんだ、（ステージと）全然違うじゃない」って、よく言われる。

最近は、日本や外国のCDをよく聴くんだけれども、それらと自分のを聴き比べてみて、全然違うなァーと思うわけ。浮きまくってるなァと。恐いくらい違うなァと思うね。

海外戦略は今のところ考えていない。最近、やっぱり日本の女の子のほうが、外国の女の子よりかわいいと思うからね。昔は結婚するなら外人の女の子だなァと思ってたんだけれど、今は日本の女の子のほうが全然かわいいと思うね。日本の女の子にモテたいし、日本の男の子と友達になりたいから、日本しか考えてないね。

同い歳の連中はいい意味で意識しているね。吉川晃司や尾崎豊らとは一緒に世界を変えてみたいと思う。それは音楽的にもポピュラリティという点でもね。

結成5周年をむかえたスライダースの日々。

the voice of HARRY

そうだなあ、この5年よく行きあたりばったりでやってきたなあ。音楽的なことを言えば、その時その時でまとめて出して行ったから、特別にそんな遠くを見ることもなかったな。俺たちは最初から変わってないよね。別にそういうもんだと思ってたし、やりたいようにやってきただけ。単純なことだね。変化とか結構みんな期待すんだけど、変わらないってことを皆んな信じねぇんだよな。ロックンロール好きだし。あとは思いっきり混沌としてるよ、俺は。イベントとか出るたびに、やっぱスライダースが最高だなって思うな、ハハハ。客にエネルギー吸いとられて亀裂に吸いこまれちゃう時はやる気なくすけど、今ツアーしてて思ったより状態が良かった。思ったより調子よくて充実してるし、楽しんでるってカンジで、結構いいんじゃないかな。あくせくしないで、昼寝したりしてるよ。夢は最近はあんまり見てないような気がするなあ。

ILLUSTRATOR: HIROMITSU YOSHIYA

R&R P
ROCK 'N' ROLL POWERS

ILLUSTRATED DESIRES VOL. 1
THE STREET SLIDERS

the voice of

RANMARU

１年前にね、ツアーが全部中止になってバンドとして活動できなくて、しばらくボーッとしてたら、じわじわやられちゃったね。だから、ひさしぶりにライブツアーに出ると、やっとだなって思う。俺たち自身ずい分楽しみにしてたよ。その間、ハリーと相談して音だけでも出そうってことでJOY POPをやってみたわけ。泥くさい、肌にあった音をね。新鮮だった。驚きだったね。良かったね。このカンジはスライダースにゼッタイにフィードバックできると思う。５年間の間に、テクノもフュージョンも無くなって、結局まわりの風景が変っただけっていうのに近いかな。ま、やりにくいもんだよ。カンタンに生きてけちゃったらわざわざ東京にまで出てこないさ。これからは、腰の入ったヤツをやりたいね。頭んなかでグルグルなってるものを、ギターでズドーンってやる。カラダ全身で感じんの好きだから。ウソがないし。ツアーをやりながらまたとり戻すことがあんだろな。

R&R P
ROCK 'N' ROLL POWERS

ILLUSTRATED DESIRES VOL. 1
THE STREET SLIDERS

the voice of JAMES

デビューして5年だけど、ノリを変えず自分たちの好きな音楽をやってきてよかったな。もともと60年代風の黒っぽいものが好きだから。新しいものに何でも飛びついちゃうっていうのは好きじゃない。ロックンロールって、いろんな人がいろんな風に言ってるけどさ、結構うわべだけの「バンド」って多いからね、トラ(エキストラ)と賛っても同んなじみたいなね。だけどスライダースはそんなんじゃないね。バンドだよ。俺たちはデビュー前7～8年だか、同じメンバーでやってるからね。決まりがあってないような。自由にやってるからね。自然と自分のスタイルができあがってる。自分たちにしか出せない音になってるから。今思うのは、やっぱ一番歌を聴いて欲しいっていうことだな。複雑なものは伝わりにくいし、シンプルなものが強いよ。やってる瞬間だって気持ちいいし。これから？そうね、「極める」ってこと。それがどういうもんかはわかんないけどさ。

R&R P
ROCK 'N' ROLL POWERS

ILLUSTRATED DESIRES VOL.1
THE STREET SLIDERS

the voice of

ZUZU

今、なんか、閉じこめられてたのが一気に開放された気分だね。俺がケガしちゃって、その間俺自身もかなりいろいろいい意味で自分のこととかバンドのこととか考えられたし。まぁ、良かったってわけじゃないけどね。JOY POPのライブ聴いててわかった人もいると思うけど、俺の叩くドラムのタイミングとか、聴えないドラムの音が聴えたんじゃないかな。スライダースはさ、俺のタイコじゃなきゃダメだし、ハリーのギターとヴォーカルじゃなきゃダメだし、コーヘーじゃなきゃ、ジェイムスじゃなきゃダメっていうのは、皆んなその「タイミング」の中にいるからね。あの２人の生ギターを聴いてたらやりたくてしょうがなかったよ。『エンジェル・ダスター』なんてすごく良かったな。５年間っていっても別に気持ちは変わらないよね。基本的な気持ちとかは皆んな一緒。先なんてさ、どうなるかわかんないしさ。タイコ叩いてること自体が自分だし。もう全然解放されてるよ。

R&R P
ROCK 'N' ROLL POWERS

ILLUSTRATED DESIRES VOL. 1
THE STREET SLIDERS



30歳のソロアルバムは、河内淳一の愛である。

JUNICHI KAWAUCHI

R&R P ROCK 'N' ROLL POWERS

He was born in 1958. Two years ago he played in the Kuwata Band, his guitar playing blowing people away. At the beginning of May, he released his solo album, a love album. As a top-flight guitarist, producer and vocalist, Kawauchi has been in great demand.



PHOTOGRAPHER:KAZUHIKO SONOKI

子供の頃から兄弟みたいに育った年上の従兄がいてね。いつも彼の後ばっかり追いかけてた。ヤツが音楽好きで、グループサウンズやベンチャーズなんか聞いてた。ボクも自然に聞くようになってね。幼稚園児としちゃマセてたよね。小三の頃、伯父からウクレレもらって、それから狂った。一日中ウクレレ弾きまくってたよね。ボクは実家が浅草なんだけど、近所に金持のオジサンがいて、屋上にバラックのスタジオなんか持っててさ、いろんなひとがたむろしてた。かまやつひろしさんとか、竹内まりや、杉真理なんかよくいたね。ボクは小学生だったけど、学校終るとすぐそこに行ってギター弾いてた。友達がドッチボールや三角ベースやってるときにさ。もともと歌が好きでね、歌いたくって楽器始めたみたいなとこがあるんだよね。だから当時はクラプトンとかジミヘンなんかも聞いてたけど、吉田拓郎とか赤いとりとかね、いわゆるフォークも好きだった。ヘンなこだわりなんてなかったからさ、今でも拓郎のアルバムなんかみんな持ってるもん。高校生になって…、といっても〃熱心〃な高校生じゃなかったけどね。初めて音楽の仕事した。新宿のクレイジーフォースってディスコで。ジェームス・ブラウンとかB・B・キングとかのナンバーを演(や)ってたね。ディスコは好きだったなぁ。その頃六本木のピットイン

■ ■ ■

JUNICHI KAWAUCHI

があるところにあったディスコに中一の頃から入りびたってた。もう大不良でさ、酒は飲むたばこは吸うは。

あの頃は恐いモンなかったからさ、大学生とかセミプロみたいなひとたちの中に入ってガンガン演ってたね。米軍のキャンプまわりとかさ。ケンカもね、ずいぶんやりました。外人でも身体がデカくても関係なかったね。あんまり負けたことないし。

高二のとき明大のサークルに入って、入りびたってた。毎日大酒飲んでました。何んか悪いことしないと音楽始めたかいがないって思ってたから。若かったよね。

その頃遊んでたのは六本木のディスコとか新宿のションベン横丁とか。毒のある所を求めて歩いてた。

高木麻早のプロデュースしたのがきっかけで、ストライクスってバンドつくってね。で、ちょうど松竹がアニメを出すんで、そのサントラを作るっていう仕事があって。出来上ったものは曲もイイしアレンジもイイ。けっこう売れちゃうんじゃないのなんて喜んでたら、松竹が火事を出しちゃってね、当時の社長がクビになっちゃった。それでみんなパー。もともと脳天気だからね、いわゆる苦労したって感じがない。つらい下積み時代とかね。まぁ、このときはちょっとメゲたけど。

そうこうしているうちにソロアルバムの話が来て、じゃぁ年明けからレコーディングやりましょうみたいな話しになってた。そしたら忘れもしない3年前の12月24日、寒い日でねぇ。夜クワタ君から電話が来て、〝ヒマだったら飲みに来ない?〟



衣裳協力: JHANE BARNES

って言うから原宿まで出かけてったら、もうメンバーみんな集まってて、昔から一度はやってみたい人達だったし、話してるうちにどんどん盛り上ってさ、とにかくイイ音楽やってウマイ酒飲みたいね、みたいなね。小さなライブハウスみんなでまわってさぁ。きっと女の子も沢山来るだろうから〝キミとキミね〟なんて言って、みんなで酒飲めたら最高だと思ったワケ。で、ボクのソロもクワタバンドのみんなでレコーディングしてね、キャンペーンまわりもついでにすりゃイイじゃんみたいな軽いノリで始めたんだよね。そしたら大売れしちゃってさ、ソロアルバムが3年のびちゃった。30歳にしてのソロ・デビューだけどね。曲はすごく自然に作った。楽器持たないでテレコ回わしっぱなしにして、鼻歌でメロディー作って、後からコード付けた。だからテンションとか取っちゃうと、すごくシンプルなコード進行。その分、コーラスのアレンジなんかはコリまくったけど。ボクはギタリストじゃなく、ボーカリストだからね、ボクが歌いたいメロディーのきれいな曲を書いたつもりです。

このアルバムのテーマはね、〝愛〟です。基本的にはね、ボクにメッセージなんてない。何んのためにロックやってるかなんて言葉で言うべきじゃないよね、カッコ悪いしさ。ボクの曲を聞いてくれたひとたちが好きなように楽しんでくれればいいんだけど、ただこの歳まで生きてきてね、ふり返ってみると、ボクを感動させてくれたものって、やっぱり愛なんだよね、もちろん恋愛だけじゃなくてさ。もっとも、10代20代の頃はずいぶん愛のムダ使いしてきちゃったけどね。

BUCK-TICK



Atsushi was born in 1966.
He is a lead singer of "BUCK-TICK".
"B-T" will be a storm center in Japanese rock scence.
Their original style is seizing girls' hearts rapidly.
It's so remarkable. They are real new rockers came from the outskirts around Tokyo.
(Special thanks to Shotaku "Zuiten" Yasuhara for collecting data)

B・Tについて私が知っている35の事柄。

R&R P
ROCK 'N' ROLL POWERS

PHOTOGRAPHER:HIROYUKI INOUE

BUCK-TICK

❶アッシは気を使う。まわりの人間が思わず気を使ってしまうほどに。

❷アッシが母親を大切にするのは有名な話だ。スタッフが「アッちゃん、一回お母さんをコンサートに呼べば？」と言うと、彼はいつも「オレ、歌えなくなりますから」と応える。「泣いちゃいます、オレ…」

❸アッシは義理人情に厚いタイプだ。

❹ツアーの移動中、スタッフが一人で食事をしていた。そこへアッシが自分の食器を持ってきて座った。「一人でメシ食うなんて淋しいよ」といって微笑んだ。

❺ひとに言ったら傷つく、アッシはそういうことをけして口にしない。のみ込んでしまう。

❻アッシはイヤなことがあると口をきかなくなる。メンバーの輪の中へさえ、入ろうとしない。

❼今井の頭の中に〝計算〟はない。

❽今井には、本物とにせ物を見分けるセンサーがあるようだ。

❾今井はこの頃新聞を読むようになった。原発のことが心配で。

❿今井がバクチクにいるのは運命的なことである。星の運行のように。

⓫今井に二元論は通じない。良い悪い、信用できる、できないという区別がない。彼にとって、そんなこと、どうでもいいことなのだ。

⓬本当にカッコイイのは、本当はけっこうダサイことなんじゃないかと、最近今井は思っている。

⓭ヒデの頭のネジは15本くらいゆるんでいる、らしい。

⓮ヒデはときどきカラオケで「ギャランドゥー」を歌う。酒も飲まずに。

⓯ヒデには日本海と太平洋、大阪と神戸の区別がつかない。

⓰どこかで笑いが起こると、そこには大抵、ヒデがいる。

⓱ヒデはメンバーからいじめられることに喜びを感じているフシがある。

⓲ヒデの辞書に〝憂鬱〟という文字はない。もちろん、こんなムズカシイ漢字は書けない。

⓳ヒデはときどき考えるフリをする。少くとも周りの人間にはそう見える。

⓴誰れもがヒデのことを「愛すべき男」と認めている。

㉑ユータは10代の頃、右翼の宣伝カーに乗っていた、というウワサがある。

㉒ファンからのプレゼント。アッシ、洋服・ぬいぐるみ。ユータ、つけもの。

㉓ユータは酒を飲むときでも気を使う。「スナック・ユータのマスター」とミュージシャン仲間から呼ばれる程。

㉔アニイは昔のインタビューで「オレ、ドラム下



はやくも、年末にロンドンレコーディングとの噂が!!

手だから…』と言ってしまった自分を思い出して、時々悲しくなることがある。
㉕バクチクの中で唯一、〃計算〃の出来るのはアニイである。
㉖「政治のことなんか知らねえし、興味ねぇよ」という奴を、最近の今井はダサイと思うときがある。
㉗B－Tのメンバーは B－Tのファンである。
㉘アツシは、今だに満足のゆくコンサートができたという感想を持ったことがない。
㉙B－Tの音楽は、どのジャンルにも属さない。「俺達がジャンルだ」今井の言葉。
㉚今井はときどき日常の中で、たとえばタバコを吸いながら――メディテーションしてしまうことがある。
㉛今井が恐るべきコメディアンであるということは、あまり知られていない。
㉜バカでも、超越的な大バカだったら、そいつはけっこう大物なんじゃないかとヒデは思ってる。
㉝ヒグチ兄弟は実業家としても成功する資質を持っている。事業家に問われる一番の要素、〃運の強さ〃を誰れよりも持っているからだ。
㉞髪をおろした時のメンバーは、ごく〃普通〃の若者である。誰れもステージの彼らを想像することができない。
㉟B－Tのメンバーは、芸能界がよく理解できない。



Jill is a lead singer in the band PERSONZ.
A Japanese rock and roller, who's got the power and technique of a star, a Japanese Deborah Harry if you will.
She's agressive, taking chances in developing her musical style.

PERSONZ

R&P
ROCK 'N' ROLL POWERS



モノローグ
ILLの独白。



PHOTOGRAPHER：RYOICHI YAMASHITA

「負けんじゃねえ」前へ進み続けるJ

PERSONZ



ジャニスなんて古くさくて私は嫌いだ。

私が歌い始めた頃なんか、日本には女性ボーカルなんて全然いなかった。女の人はまだまだダメだなぁみたいのはずっとありましたね。タイプが限られててね。デボラ・ハリーとかいいな、とか、ジョーン・ジェットみたいのいいなとか思ってた。だけど、私、ジャニス・ジョップリンとか嫌いだ。古くさいじゃない。そりゃ、バリバリの現役時代に聴いてたら、もしかしたら好きになったかもねとは思うけど、その頃ブロンディがいたら、やっぱそっちの方が好きになっただろうな。「伝説的な生き方」とか言ってもちあげられたり、スゴク若くして死んじゃって、まあ、カッコイイんだろうけど、うーん、なんなんだろうって思っちゃう。嫌いなもんは嫌いだから……。

私はね、ぼやきみたいなのにはなりたくないの。結構、神経質だし、落ちこむ時はスゴイのね。人のこと憎んだりとか……そういう人並みの気持ちもあるんだけど、私って根本的に言いたいことってのは、

「負けんじゃねえ」みたいなことだからね。とりあえず行く場所が、いつも前へ前へってかんじだから「なんでいつまでたってもこんなとこにいんだい」みたいなことにはならない。感情とか小っちゃい時から激しいとこもあったけど、それをあんまり表には出さなかったし。ひねくれてたかもしれない(笑)。詩をかく時でも例えば、『ラッキースター』というテーマがあれば、イメージするもんがあるでしょ。色気のある言葉が好きだから、そういうの見つけるのに時間がかかる。根本的には言いたいことってストレートなんだけどね。

若い頃って、いい加減に生きてていいと思うのね。一生いい加減だとヤバイけど、いろんなこと楽しめる時期って私もあったし、夢みる時期って必要だから。空想癖はありましたね。今日は看護婦さんになりたいとか、明日はバレーボールの選手よ、とかね。一応はめざしてやるんだけど、すぐあきちゃう。たまたま飽きなかったのがバンドだった。中学1～2年ぐらいまではね、まじめに何かやろうと思ってたけど、結局やってませんねぇ(笑)、やっぱり。その頃ってすごくナマイキだから、別に尊敬もしてない先輩になんで「お早ようございます」って言わなきゃなんないんだろうとか思ってた。もうヤなわけ。今でも人見知りが激しくてダメなんですよ。第一印象が悪かったりすると。でも、こっちの気分がハイな時は誰でもイイ人に見えたりね。いい加減なもんなんです。

高校は中途で止めちゃって、今で言う「校則がなんでこんなに厳しいの」みたいな感じで。注意されても「アタシは普通なのになあ」って思ってた。誤解されやすい子らしかったから。で、スパゲティ屋さんや、アクセサリー屋さんでバイトしてたのね。しながら通信教育やって、だけど地道なヤツじゃなくて結局遊ぶのがメインだった。

その頃は、臆病でもあるし、好奇心も強かったから別に何したいわけでもなくて、友達が行こうっていうんでエアロスミス見に行って「こんなもんがあったんかいねえ!?」みたいな気分になってね、ロックっぽくなったね。やっぱり。ロンドンブーツ買いに行ったりとか、一時期一生懸命聴きましたよ。グラム聴いたり、レッド・ツェッペリンって何だろうとか一生懸命だった。人が知ってて、自分が知らないっていうのはくやしいじゃない。近所の女の子集めてバンド始めたんだけど、プロになりたい人もいなかったんで、じゃあ自分だけでやろうと思ったのね。

歌ったりするのも楽しかったし、なんかこういうのって初めてだったのね。ま、年も年頃だし、やっぱ将来どうしようかなみたいに思って、自分でこれ以外になんにもないと思ったから……。「これで食べて行ければ最高じゃん」みたいなね。とりあえず、バンド止めちゃいけないっていうのが強かった。それは、ただ意地ですねえ(笑)。

最近、前より声がハスキーになったって言われるんだけど、ロックミュージシャンだったら声がかれるくらいはへでもないというのが信条じゃないでしょうか(笑)。歌うことで、人間の喜怒哀楽が表現できたらいいって思う。自然にね、別に無理してもしょうがないし。よく若い子達からファンレターもらったりするのね。「今自分は誰々のことが好きなんだけど」みたいなヤツはよくわかんないけど、ちゃんと自分のやりたい事が書いてあるヤツは一生懸命読む。昔アタシが思ってたことと似てるカンジがあったりすると、思わず一生懸命読んじゃう。「負けるんじゃない」っていいたいね。



女の子はここまでこなかった。

PRINCESS PRINCESS

R&R P
ROCK 'N' ROLL POWERS

Rock'n'Roll Cinderella story has come true. Five Princeses realy have become Princesses now. Why have they "PrincessPrincess" come bang? Kaori Okui—Vocalist of Princess^2—talked about their teamwork sprit. "Only we can sing about girl's heartache".

PHOTOGRAPHER:GEN MURAKOSHI



最終的に私がアタックして、グループが勝てばいい。

Kaori
PRINCESS PRINCESS



NHKのニュースで「初めてはじけた女の子バンド」として紹介されて、どう思いました?

「うん、でも、本当に初めてはじけたんじゃないかな!?今まで、ここまできた女の子のグループってなかったからね」

と語るプリンセス・プリンセスのボーカル、奥居香はアッケラカンとした自信に満ちた表現でそう言った。それもそのはず。3枚目のアルバム「HERE WE ARE」を女の子バンドとして初の10万枚の大台にのせ、渋公、PITも満席盛況と、破竹の勢いを見せる彼女たちだが、決して彼女たちは、一夜あけてみたらお姫様(プリンセス)になっていたわけではない。

「運命的なものを感じるんですよ。みんな、初めて受けたオーディションで知り合った赤の他人どうしのグループで始まって、6年間不動のメンバーだからね。お互いにこの人じゃなきゃ(音楽を)出来ないっていう、意識がすごくあるから」

——里見八犬伝みたいですね(笑)

「1人1人をとってみると、全然普通の女の子だし、楽器だって全然うまくないしね。でも、今は5人集まると、何をやってもプリンセスになるっていう自信がある」

——メンバー全員が作詞・作曲するのが特色でもありますが、「She」の女友達ものの歌詞など、プリンセスとレベッカだけの、シンコー・ミュージックの特許みたいな感じすらしますね(笑)。

「うちのバンドの強みはね、女の子の気持ちが絶対的に歌えるっていう点だと思うからね」

——曲作りにしてもライヴにしても、女子バレーボール部的連係プレーを感じさせるんですよ。それもあまりアタッカーを立てないプレーだなと。

「誰がアタックしようと、試合に勝てばいいわけですよね!? 多分、私がアタッカーだと思うんだけど、そこに到るまでにどんなトスをあげるかっていうことを、他のメンバーがすごく考えてると思う。最終的には私がアタックして、グループが勝てばいいんだからね。

ここから先が勝負でしょう。ここからは男も女も関係ないんだから」



桑田佳祐、待望のソロアルバム

Keisuke Kuwata

Produced by : Keisuke Kuwata, Takeshi Kobayashi, Takeshi Fujii
All Songs Arranged by : Takeshi Kobayashi with Keisuke Kuwata, Takeshi Fujii
All Songs Music by : Keisuke Kuwata

桑田佳祐

● 7月9日は全国一斉KUWATADAY!! ● 予約特典 : KEISUKE KUWATAオ…ステッカー

7|9 (Sat) On Sale.

Side.One 1.哀しみのプリズナー 2.今でも君を愛してる 3.路傍の家にて 4.Dear Boys 5.ハートに無礼美人(Get out of my Chevvy) 6.いつか何処かで(I feel the echo)
Side.Two 1.Big Blonde Boy 2.Blue〜こんな夜には踊れない 3.遠い街角(The wanderin' street) 4.悲しい気持ち(Just a man in love) 5.愛撫と殺意の交差点 6.誰かの風の跡

CD:VDR-1520¥3,200/LP:VIH-28333¥2,800/CASSETTE:VCF-10360¥2,800

Victor JVC



1

NEW SINGLE ON SALE!!

「みんなのうた」

●CD SINGLE：VDRS-1043 ¥1,000
●SINGLE：VIHX-1744 ¥700
●CASSETTE：VST-10402 ¥1,000

2

サザンオールスターズのシングル「勝手にシンドバット」から、「メロディ」まで23枚を一挙にCDシングルで6·25に発売!!

3

桑田佳祐ソロ・アルバム
KEISUKE KUWATA が7·9に発売!!

●CD：VDR-1520 ¥3,200
●LP：VIH-28333 ¥2,800
●CASSETTE：VCF-10360 ¥2,800

4

NISSEKI SUPER LIVE 100
真夏の夜の夢 サザンオールスターズプレゼンツ 1988 大復活祭
一般チケットが6·25㈯に全国一斉発売!!

■7·26㈫/27㈬/28㈭西武球場 問SAS応援団03-476-4659■7·30㈯/31㈰新潟・長岡ニュータウン公園 問FOB新潟025-229-5000■8·6㈯/7㈰札幌・真駒内オープンスタジアム 問WESS 011-521-8181 ■8·13㈯/14㈰仙台・泉パークタウンスポーツガーデン 問G·I·P 022-222-2093 ■8·21㈰愛媛県総合運動公園球技場 問FM愛媛0899-45-1111/テレビ愛媛0899-43-1111 ■8·27㈯/28㈰福岡・海の中道海浜公園 問くすミュージック092-791-0999 ■9·3㈯/4㈰/5㈪大阪球場 問キョードー大阪06-345-2500 ■9·10㈯/11㈰名古屋・小牧市民球場 問サンデーフォークプロモーション052-320-9100■9·17㈯/18㈰/19㈪横浜スタジアム 問キョードー横浜045-252-9999

Victor
JVC



延原達治

48ch使ってパンクしたい

次のアルバムは、当初はブルース、R&B寄りのレコードにしようかなと思ったけど、今やってるライヴの流れからも考えて、それはもうちょっと先にしようかなと。自分たちのルーツ・ミュージックにこびる必要はないと思うから。こだわる必要はあるかもしれないけれど、こびる必要はないよね。ブリティッシュ・ビートやパンクが好きだと言っても、俺たちはこだわりを超えて表現してるからさ。こだわりをストレートにやるとレトロとかって形容詞が付くでしょ!?それを「いや、レトロじゃなくて、僕たちにとっては新鮮な人です」っていうやりとりなんて、バカらしいじゃない。どんなに自分が新しいことをやろうとしても、決してデジタル・ミュージックにはならないと思うしね。ハッキリしてるのは、60年代のロックやパンクが8チャンネル使ってバッとやった音楽を48チャンネルに代えて再現するんじゃなくて、48チャンネル使ってバッとやんなきゃって強く思うね。

news 只今全国ツアー中のプライベーツ。6/25には2ndシングル「Stop Breaking Down」（東芝EMI）が発売される。プロデューサーは下山淳。

Nobuhara

Vocalist on PRIVATES

PHOTOGRAPHER: KENJI MIURA



森若香織

相手がしぼむまで吸収しちゃう。

始めから女性だけでバンド始めたんで地元・札幌では女の子だけのバンドってことで、大変などころか逆にチヤホヤされたのね。当時は〝デストロイ！〞とか書かれたTシャツ着てやってましたけど。よくルーツが見えないと言われるけど、私はベイ・シティ・ローラーズがルーツですから、ハッキシ言って。来日して札幌にコンサートに来た時、メンバーの車を追い駆けたりしたし。当時はそういったものと、ラジオでパンクっぽいものを一緒に聴いてたし、うっかり一緒に聴いたキッスやエアロスミスのビートも自分のこの辺（※と言って胸を差す）に残ってるしね。でも憧れたのはデボラ・ハリーなどの、女性ロッカーでしたね。だから、今は女の子のファンがついてるのがすごく嬉しい。影響はすっごい受けやすい。私は柔軟性があるんですよ、スポンジのように。周りに自分よりスゴイ人がいると、ヘラヘラくっついてその人のいい部分を相手がしぼむまで吸収しちゃうの。お得な生き物（笑）。

news アルバム「ゴーバニックランド」（ポニーキャニオン）で遂にメジャー入り。超ネアカなツアーは6／25日東京パワーステーションで千秋楽。

Kaori

Vocalist on Go—Bangs

PHOTOGRAPHER : KENJI MIURA


BMGビクター株式会社
e Heart
CHI JUN-ICHI
どこで、誰が、どんなふうに聴いているんだろう。
1枚の葉書が、さまざまな鼓動を伝えてくれる。河内淳一のイメージした世界が、
キミの心のなかで情感を漂わせ、脈うっている。彼のアルバムを聴いている時のキミは、曲を作り唄っている時の彼と似ているんじゃないかと思う。
その鼓動がさらに強く、さらに広がって、いつか同じ空間で共鳴しあうために……彼もいま、キミたちの声に心を傾ける。



on Sale

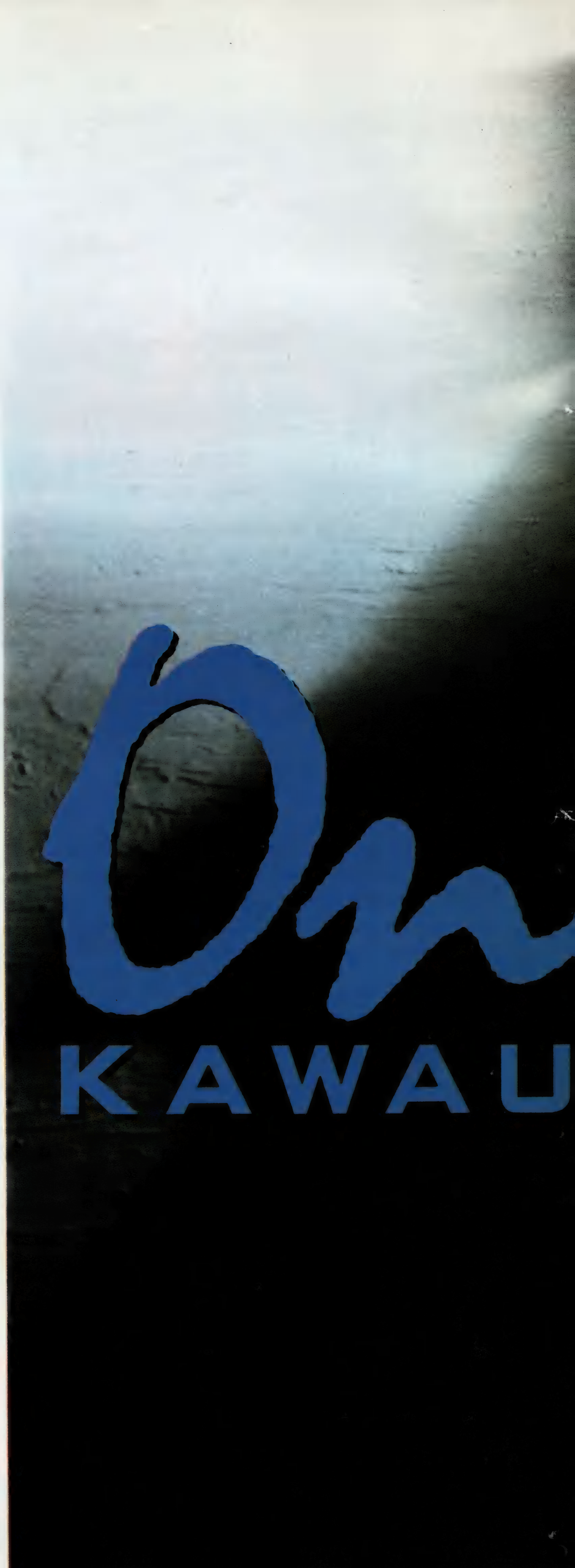


FIRST ALBUM "ONE HEART"
CD:R32A1035 ¥3,200 LP:RAL8855 CA:RAT8855 ¥2,800EACH

シングル盤同時発売
CARRY ON
SINGLE CD:R10A2 ¥1,000 SINGLE:RAS558 ¥700

JUN-BOX
JUNICHI KAWAUCHI

〈河内淳一の応援私書箱〉JUN-BOXは、レコードやライブなど河内淳一に関するあらゆる情報を発信します
ファーストアルバムについてのご感想や今後の活動に対するご要望など何でも、住所・氏名・生年月日・電話番号を明記のうえ下記へお便りをどうぞ
宛先 〒150 東京都渋谷区渋谷1-7-8 BMGビクター株式会社 宣伝一課内JUN-BOX係





イッセイ

今は歌の相手が見えている

今回、詞を重要視したから、プロデューサーの木崎賢治さんとは、曲よりも詞の打ち合わせの方が長かったですね。今まで詞先の曲って創ったことなかったんだ。それが今回やってみたら楽なんだよね、歌う方にしては。詞がメロディに引っぱられないんだ。
歌詞って、音にのってるだけ、実際に使ってる言葉よりあいまいになっちゃうんだよ。だから詞は、断定形が多くても気にならないっていうのを発見したのね。今回のアルバムは何が言いたいのか、ハッキリしてたしね。昔は断定形は断定形でも、誰かに対しての断定形じゃなかったんだよね。僕はこうだっていう詞が多かった。だけど、今は歌ってる相手が見えてる。そこがすごく変わってきたとこだと思う。
やっぱりライヴを数多くやってきたことで変わってきたと思う。前は自分達の事を表現するので精一杯だったのが、やっと誰かに向って歌えるようになったね。でも今はハッキリと「あなたがいないと寂しい」って歌えるね。

news デル・ジベットの3枚目、「デル・ジベット」（シックスティ）はライヴ感溢れるサウンド。渋谷公会堂でのライヴビデオが近日発売される。

Issey

Vocalist on DER ZIBET

PHOTOGRAPHER: KENJI MIURA



PHOTOGRAPHER: GEN MURAKOSHI

西川 茂

後で虚しくならないのは音楽だけだ

音楽のルーツは、〝キャロル〟です。あのストレートさが大好きだった。女にね、面と向かって「好きだ、好きだ」っていうストレートさ。だからオレが詞を書くときも、下手な小細工使わないで、正々堂々としたストレートなものを書きたいと思ってる。中学生の頃ベース弾いてたんだけど、どうしても歌いたくて途中からギターに持ちかえて歌い始めまた。でも変声期前でね、すごいキィキィ声。みんなが歌うなって言うんだ（笑）。

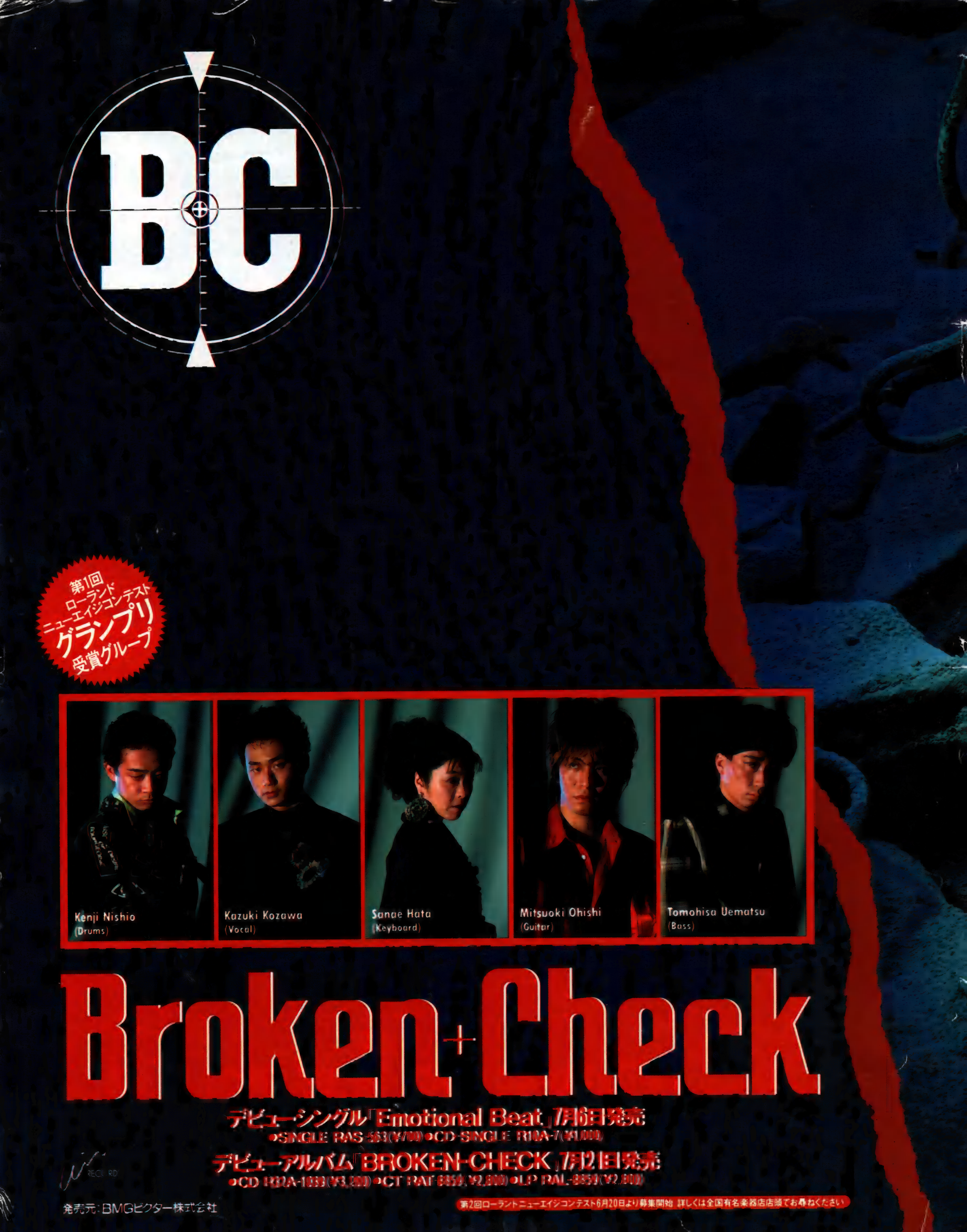
今のメンバーにはとても満足してます。こいつらにしか任せられないって感じだよね。その分気も使うけど…、アレンジなんかは、もし４人それぞれアイデアがあったらその４パターンを演ってみる。良いか悪いかハッキリするからね。完全に納得できます。これって大切だよね。本当に楽しいことってめったにないと思う。唯一音楽やってるときだけだね。友達と騒いだりするのは、後で虚しくなったりするし。音楽はそんなのまったくない。やめられないね。

news すでに発売された12インチシングルに続き、6/21にはフル・アルバムが発売される。(キング・レコード)より強力に〝日本のR&R〟を追求する。

Nishikawa

Vocalist on PRESECNE


野に放つ日。7月6日


BC
第1回
ローランド
ニューエイジコンテスト
グランプリ
受賞グループ
Kenji Nishio
(Drums)
Kazuki Kozawa
(Vocal)
Sanae Hata
(Keyboard)
Mitsuoki Ohishi
(Guitar)
Tomohisa Uematsu
(Bass)
Broken+Check
デビューシングル「Emotional Beat」7月6日発売
●SINGLE RAS-563(¥700) ●CD-SINGLE R10A-7(¥1,000)
デビューアルバム「BROKEN-CHECK」7月21日発売
●CD R32A-1039(¥3,200) ●CT RAT-8859(¥2,800) ●LP RAL-8859(¥2,800)
発売元：BMGビクター株式会社
第2回ローランドニューエイジコンテスト6月20日より募集開始 詳しくは全国有名楽器店店頭でお尋ねください

PHOTOGRAPHER : GEN MURAKOSHI

高橋さよこ

人間に向かって歌いたい

デビューしたての頃、何んにもわからないときに、TVに出てアイドルにまざって牛引かされたり、ミキサーのひととケンカしてみんな泣いちゃったりして。私達を守ってくれるひとって誰れもいなくて、それで外に対して攻撃的になっちゃったんだと思います。そのイメージが強烈で、それがそのまま風化しちゃってるから…。払拭するのは大変なことですね。

一昨年くらいから黒人音楽が大好きになって、それからですね、音楽に対して真剣になったのは。私はそれまでひとに向かって歌ってなかった。自分だけで完結してた。みんなが普段使ってる言葉で、本当に大切なことを歌ってゆきたいですね。そういう意味で、ボーカリストって最終的には人間性だと思います。今はね、遊ぶことが勉強だと思ってるの。ディスコへもよく行くし、海外へもどんどん行きたい。自分の中のタブーとかネガティブなものを壊したいですね。これに気付いただけでも8年はムダじゃなかったかもね。

news 7月から全国6ヶ所で、ゼルダの8周年を記録したビデオコンサートが行われる。現在6/21発売予定のニューアルバムのレコーディング中だ。



Sayoko

Vocalist on ZELDA

モーリー

人間に影響されたことがない

今回のアルバムのテーマは強烈なSEXですね。ラヴソングじゃないですね。その逆じゃないかな!?閉じたエクスタシーを感じる？うん、それはあるかもしれない。客とかファンのことは殆んど考えてませんね。僕は、人間に影響されたことがまずないから。それよりも絵だったり映画だったりするから。自分たちをヘビィ・メタルだとは全然思ってない。４人とも指向バラバラだしね。僕ですか!?最近はミッションですね。ミッションのニューアルバムのライナーノーツ、僕が書いてるんですよ（笑）。でも４人はバラバラだけど、デッドエンド中に個々の現代性を織り込めたらいいなと思いますね。

今回の曲の「ブラッドミュージック」は、SF作家のグレッグ・ベアのタイトルからです。SF、幻想小説好きですから。国書刊行会、好きですね(笑)。暗黒の深味にはまる？いや、ドロ沼好きですから(笑)。昔は音楽はストレス発散みたいなとこがあったけど、今は音楽のためにストレスためてますね。

news 岡野ハジメがプロデュースした２枚目「シャンバラ」(ビクター)をリリース。特自のブラックな詞とヘビィ・サウンドを展開している。



Morrie

Vocalist on DEADEND

PHOTOGRAPHER: GEN MURAKOSHI


観　光。
音で銀河を粉々に打ちくだきます。ボーカル
がながと惰眠をむさぼりつづけたサザンは、
よいよ活動をはじめます。殺されたって死ぬ
りつづける夏が、ほれほれ、もうすぐやってくる。


BEGIN THE NEXT 100 日石100年
NISSEKI SUPER LIVE 100
天国
ギターが星屑を撃ちおとします。ドラムの爆
の熱量がママグに冷や汗をかまします。な
そういう大ボラをひっさげて、6月25日、い
もんか。頭の中が切れるほど、意味もなく踊
真夏の夜の夢サザンオールスターズプレゼンツ1988大復活祭
日本石油は、創立100周年を記念して、この夏サザンを応援します。チケットは6・25に全国一斉発売!!

ROCK'N'ROLL NEWSMAKER
ロックンロール・ニューズメーカー　1988年7月18日発行　第1巻　第1号　ビクター音楽産業株式会社発行　〒150東京都渋谷区神宮前6-10 610番館3F　編集部(03) 486-4354　営業部(03) 486-4361

雑誌09765-7 定価500円 ©VICTOR MUSICAL INDUSTRIES, INC. 1988 印刷・凸版印刷株式会社 Printed in Japan T4910976507501